

**第3次東大和市  
障害者総合プラン策定のための  
アンケート調査**

---

**報告書**

**令和5年3月  
東大和市**



# 目次

## 第1章 調査の概要等

1-1 調査の目的	1
1-2 調査の種類と実施方法	1
1-3 配布と回収状況	1
1-4 集計結果の表し方	2

## 第2章 障害当事者向け調査 集計結果

記入者について	3
2-1 あなたご自身のことについて	4
(1)属性	4
(2)世帯の状況	7
(3)障害等の状況	10
(4)高次脳機能障害の状況	15
(5)発達障害の状況	17
(6)介護保険制度の要介護認定状況	19
2-2 介護・支援の状況について	20
(1)介護者・支援者の状況	20
(2)介護・支援している家族に必要な支援	23
2-3 住まいや生活について	24
(1)現在の暮らし方	24
(2)今後の暮らし方の意向	25
2-4 健康や医療について	26
(1)通院の状況	26
(2)かかりつけ医の状況	27
(3)医療機関で困っていること	29
2-5 就学・就業について	30
(1)就業の状況	30
(2)今後の就業意向	32
(3)障害がある人が就業するために必要なこと	33
(4)就学の状況	34
2-6 外出・社会参加について	36
(1)外出の状況	36
(2)社会参加に必要な支援	40

2-7 障害福祉サービスの利用について	41
(1)利用状況と今後の利用意向	41
(2)利用者における評価	45
(3)サービス利用に関して困っていること	47
2-8 福祉や生活に関する相談について	48
(1)生活で困っていること	48
(2)困っていることの相談先	50
(3)地域生活支援拠点 ういずねっと i について	52
2-9 災害時の避難・対策等について	54
(1)災害時の状況	54
(2)災害時に困ること	56
(3)災害時への備え	57
2-10 新型コロナウイルス感染症の生活への影響について	60
(1)コロナ禍で困ったこと	60
(2)障害福祉サービス利用で困ったこと	62
2-11 障害のある人の権利擁護・理解促進について	63
(1)差別・偏見や疎外感	63
(2)障害者差別解消法の認知状況	66
(3)成年後見制度の利用	67
2-12 今後の施策について	68
(1)東大和市の障害のある人への施策について	68
(2)重要だと思う障害のある人への施策	69
2-13 市の取組へのご意見、ご要望等	71
(1)「身体障害者手帳」所持者	72
(2)「愛の手帳」所持者	79
(3)「精神障害者保健福祉手帳」所持者	83
(4)「難病患者福祉手当」受給者	89

### 第3章 障害福祉サービス等事業者向け調査 集計結果

3-1 事業所の基本情報	93
(1)提供サービス	93
(2)法人種別	94
(3)事業所開設時期	95
(4)職員	96
(5)同一法人で実施している他の事業	100
(6)サービス提供状況	101



3-2 サービス提供の課題について	102
(1)課題	102
(2)取り組んでいる虐待防止対策	105
(3)取り組んでいる利用者の意思決定支援	106
(4)新型コロナウイルス感染症による課題	107
3-3 事業運営及び経営状況について	108
(1)運営及び経営上の課題	108
(2)人材募集の方法	109
(3)人材育成や人材定着のための取組	110
(4)経営状況	113
3-4 今後の意向について	116
(1)サービスの質の向上	116
(2)必要な連携や支援	117
(3)新たに実施を検討しているサービス	120
3-5 障害福祉サービス、障害のある人への施策への意見	123

## 第4章 調査結果のまとめ

4-1 障害当事者向け調査	125
(1)回答者の属性	125
(2)介護・支援の状況について	125
(3)住まいや生活について	125
(4)健康や医療について	126
(5)就学・就業について	126
(6)外出・社会参加について	126
(7)障害福祉サービスの利用について	126
(8)福祉や生活に関する相談について	127
(9)災害時の避難・対策等について	127
(10)新型コロナウイルス感染症の生活への影響について	127
(11)障害のある人の権利擁護・理解促進について	127
(12)今後の障害のある人への施策について	128
4-2 障害サービス等事業者向け調査	129
(1)事業所の基礎情報	129
(2)サービス提供の課題について	129
(3)事業運営及び経営状況について	129
(4)今後の意向について	130
(5)障害福祉サービス、障害のある人の施策への意見	130

## 資料

1 障害当事者向け調査票	131
2 障害福祉サービス等事業者向け調査票	148

---

# 第1章

## 調査の概要等

---



## 1-1 調査の目的

令和5年度を初年度とする第3次東大和市障害者総合プラン(第6次障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画)の策定にあたり、障害のある人及び障害福祉サービス等事業者のご意見・ご要望等を把握し、計画策定及び今後の障害のある人への福祉施策の推進に役立てるため、アンケート調査を実施しました。

## 1-2 調査の種類と実施方法

調査の種類と対象者	実施方法	調査方法
①障害当事者向け調査		
市内在住(市外の施設やグループホーム入居者も含む)の「身体障害者手帳」「愛の手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の所持者と、「難病患者福祉手当」受給者	4,561 (全数)	郵送による配布・回収
②障害福祉サービス等事業者向け調査		
市内の指定障害福祉サービス事業者等	101 (全数)	郵送による配布・回収

【調査期間】 令和4年12月9日(金)～12月26日(月)

【調査対象地区】 市内全域

## 1-3 配布と回収状況

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
①障害当事者向け調査	4,561	2,389	52.4%
「身体障害者手帳」所持者	2,501	1,441	57.6%
「愛の手帳」所持者	690	339	49.1%
「精神障害者保健福祉手帳」所持者	1,043	437	41.9%
「難病患者福祉手当」受給者	327	172	52.6%
②障害福祉サービス等事業者向け調査	101	73	72.3%

## 1-4 集計結果の表し方

---

- 選択肢を選ぶ設問は、単一回答(1つだけに○)、複数回答(あてはまるものすべてに○、必要と思われるもの2つに○等)の2種類があります。
- 単純集計の単一回答は円グラフ(選択肢などの見やすさを考慮して一部横棒グラフもあり)、複数回答は横棒グラフで表しています。
- クロス集計では単一回答、複数回答ともに数値表(横棒グラフ)で表しています(単位:回答者数は人、横棒グラフは%)。
- 図表の数値は、各設問の無回答を含む回答者数に対する百分率(%)で表しています。
- 百分率は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問では、百分率の合計が100%を超えることがあります。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していません。よって、<回答者数><回答数>の「全体」と各項目の和が一致しない場合があります。
- 値や回答者数(n)が少ない項目については、グラフ中の%表記、コメントを省略しているものがあります。
- 回答者数(n)が少ない項目を比率で見るとは注意が必要です。

---

## 第2章

### 障害当事者向け調査 集計結果

---



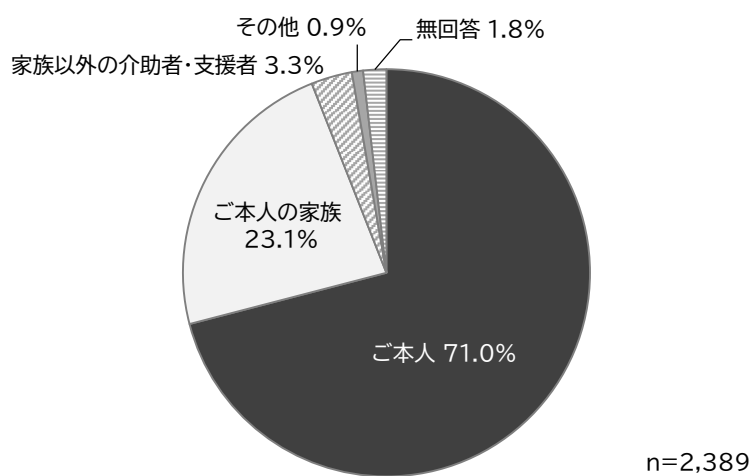


## 記入者について

◆ご記入される方はどなたですか。あなた(あて名のご本人)からみた続柄でお答えください。  
(1つだけに○)

「ご本人」が 71.0%と最も高く、次いで「ご本人の家族」(23.1%)、「家族以外の介助者・支援者」(3.3%)、「その他」(0.9%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では、「ご本人の家族」が 45%を超えており、他の障害に比べて高くなっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ご本人	71.0	72.5	36.6	83.8	93.0	67.0	64.3
ご本人の家族	23.1	22.8	48.1	12.1	4.1	28.1	30.4
家族以外の介助者・支援者	3.3	2.3	10.9	1.6	0.6	0.0	0.9
その他	0.9	0.6	2.4	0.9	0.0	0.7	0.9
無回答	1.8	1.8	2.1	1.6	2.3	4.1	3.5

## 2-1 あなたご自身のことについて

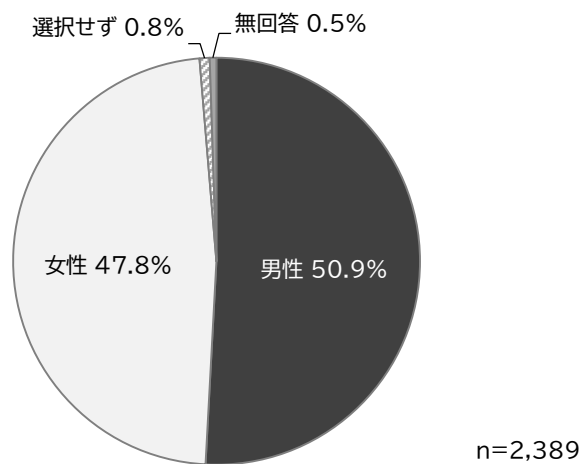
### (1) 属性

#### ① 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(1つだけに○)

「男性」が 50.9%、「女性」は 47.8%、「選択せず」は 0.8%となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”は男性が 58.4%、“難病患者福祉手当”は「女性」が 66.3%となっています。



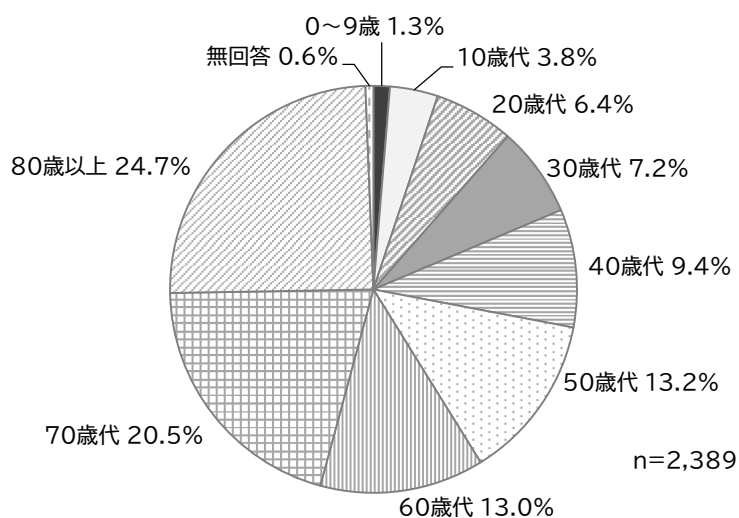
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
男性	50.9	51.1	58.4	51.5	32.0	55.8	54.8
女性	47.8	47.9	40.7	45.8	66.3	42.7	40.9
選択せず	0.8	0.4	0.0	2.3	1.7	0.0	1.7
無回答	0.5	0.6	0.9	0.5	0.0	1.5	2.6

## ②年齢

## 問2 あなたは何歳ですか。(令和4年12月1日現在)

「80歳以上」が24.7%と最も高く、次いで「70歳代」(20.5%)、「50歳代」(13.2%)、「60歳代」(13.0%)、「40歳代」(9.4%)、「30歳代」(7.2%)、「20歳代」(6.4%)、「10歳代」(3.8%)、「0～9歳」(1.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、最も割合が高い年代は“身体障害者手帳”と“高次脳機能障害がある”は「80歳以上」、「愛の手帳」は「20歳代」、「精神障害者保健福祉手帳」と“難病患者福祉手当”は「50歳代」、「発達障害がある」は「20歳代」となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
0～9歳	1.3	0.6	5.6	0.5	1.2	0.7	4.3
10歳代	3.8	1.5	18.3	1.8	0.0	0.7	11.3
20歳代	6.4	1.1	26.3	8.0	7.0	4.1	17.8
30歳代	7.2	1.7	13.9	17.8	12.8	3.4	14.3
40歳代	9.4	4.6	13.6	19.5	15.7	6.0	10.4
50歳代	13.2	8.1	11.5	25.6	27.3	14.2	11.3
60歳代	13.0	13.0	5.6	17.2	17.4	12.4	10.9
70歳代	20.5	30.0	1.8	6.9	12.8	25.1	6.1
80歳以上	24.7	39.1	2.1	2.3	5.2	32.6	12.2
無回答	0.6	0.5	1.5	0.5	0.6	0.7	1.3

### ③地域

#### 問3 あなたがお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

「向原」が 13.1%と最も高く、次いで「桜が丘」(12.9%)、「南街」(9.1%)、「清原」(8.1%)、「清水」(5.9%)、「奈良橋」(5.6%)、「蔵敷」(5.5%)、「狭山」(5.3%)、「芋窪」(4.7%)、「立野」(4.7%)、「中央」(4.3%)、「上北台」(4.2%)、「新堀」(3.8%)、「市外」(3.2%)、「仲原」(3.2%)、「高木」(3.0%)、「湖畔」(2.6%)の順となっています。

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
狭山	5.3	5.6	3.8	4.8	7.6	3.0	3.5
清水	5.9	5.5	6.5	6.9	5.8	1.9	4.3
高木	3.0	2.8	3.8	2.7	2.9	5.6	2.2
湖畔	2.6	3.1	0.9	2.3	2.9	1.9	1.7
奈良橋	5.6	5.2	9.7	4.3	3.5	6.0	5.2
蔵敷	5.5	5.9	4.1	5.9	3.5	5.6	7.8
芋窪	4.7	4.7	5.3	4.1	5.2	4.5	6.1
清原	8.1	8.2	7.7	9.2	5.2	13.1	8.7
仲原	3.2	3.1	3.5	3.4	2.9	3.4	3.9
中央	4.3	4.4	5.0	3.7	4.1	3.0	4.8
上北台	4.2	4.4	1.8	5.0	5.2	4.9	5.2
立野	4.7	4.8	3.8	3.9	7.6	3.0	3.9
南街	9.1	9.7	5.9	10.3	7.6	11.2	9.6
向原	13.1	13.2	12.4	13.7	11.6	13.5	10.9
新堀	3.8	3.7	2.1	4.1	7.6	2.6	3.5
桜が丘	12.9	13.7	13.0	9.4	15.1	13.9	13.5
市外	3.2	1.6	9.7	4.8	0.0	3.0	3.9
無回答	0.8	0.5	0.9	1.4	1.7	0.0	1.3

#### 【市外の内訳】

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	77	23	33	21	0	8	9
北海道	3.9	4.3	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
青森県	2.6	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
秋田県	3.9	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
茨城県	1.3	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
栃木県	1.3	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
埼玉県	5.2	8.7	3.0	4.8	0.0	0.0	22.2
東京都	70.1	60.9	63.6	90.5	0.0	87.5	66.7
神奈川県	3.9	4.3	3.0	4.8	0.0	0.0	11.1
山梨県	1.3	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
長野県	1.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	5.2	17.4	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0

※市外居住者は、主に障害者支援施設入所者、グループホーム入居者

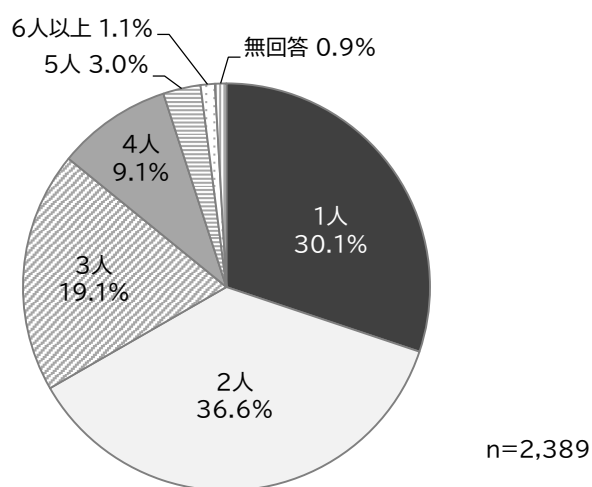
## (2) 世帯の状況

### ①同居人数

問 4-1① 現在いっしょに暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。(1つに○)

「2人」が 36.6%と最も高く、次いで「1人」(30.1%)、「3人」(19.1%)、「4人」(9.1%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”と“精神障害者保健福祉手帳”では「1人」が最も高く、35%を超えています。



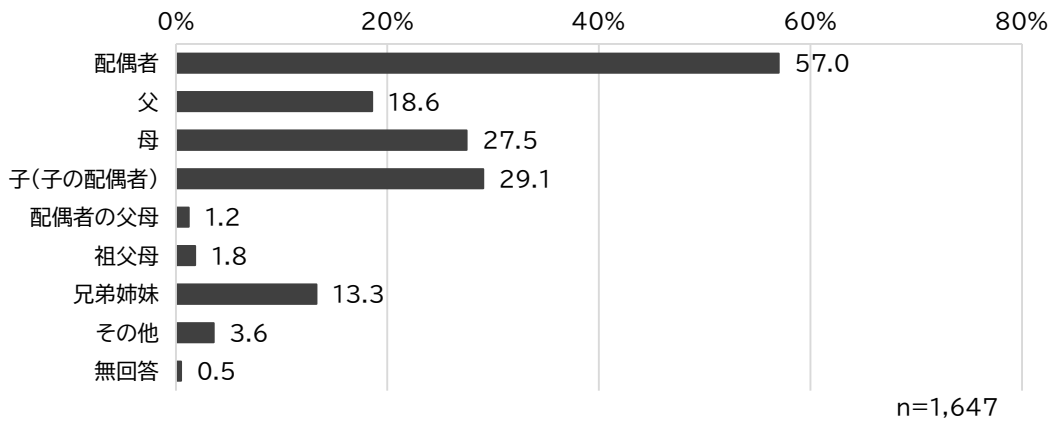
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
1人	30.1	29.3	35.1	38.4	6.4	34.1	29.1
2人	36.6	43.9	14.7	27.5	41.9	41.2	25.7
3人	19.1	17.1	22.1	20.8	26.2	14.6	20.9
4人	9.1	6.2	16.2	9.6	18.6	7.9	17.0
5人	3.0	1.8	8.6	1.8	4.7	1.5	5.2
6人以上	1.1	1.1	1.8	0.7	1.2	0.0	0.9
無回答	0.9	0.7	1.5	1.1	1.2	0.7	1.3

②同居家族

問 4-1② 現在いっしょに暮らしている人は次のどなたですか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※問 4-1①で同居人数が 2 人以上と回答した人

「配偶者」が 57.0%と最も高く、次いで「子(子の配偶者)」(29.1%)、「母」(27.5%)、「父」(18.6%)、「兄弟姉妹」(13.3%)の順となっています。

障害等の別にもみると、“愛の手帳”と“発達障害がある”では、「父」や「母」が高く、「兄弟姉妹」も 30%を超えるなど、他の障害等と大きく世帯構成が異なります。



<回答者数>	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,647	1,009	215	264	159	174	160
配偶者	57.0	70.8	4.2	39.4	70.4	54.6	26.9
父	18.6	6.7	62.3	30.7	14.5	10.9	42.5
母	27.5	10.6	84.7	48.9	22.0	17.8	58.8
子(子の配偶者)	29.1	34.9	1.4	20.8	43.4	26.4	11.9
配偶者の父母	1.2	0.8	1.4	0.4	5.0	1.1	0.6
祖父母	1.8	0.6	6.5	3.4	0.6	1.1	7.5
兄弟姉妹	13.3	5.6	44.7	20.5	8.2	9.8	33.1
その他	3.6	4.0	4.7	2.7	1.3	5.2	5.0
無回答	0.5	0.7	0.5	0.0	0.0	1.7	0.0

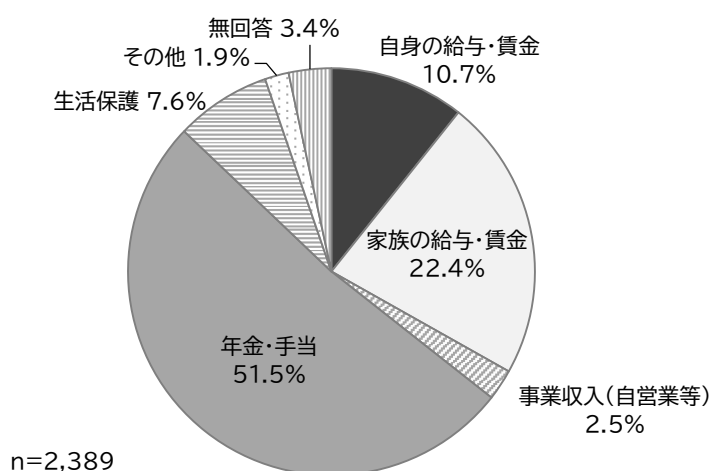
③収入

問5 あなたの世帯の主な収入(1番多い収入)は何ですか。(1つに○)

「年金・手当」が 51.5%と最も高く、次いで「家族の給与・賃金」(22.4%)、「自身の給与・賃金」(10.7%)、「生活保護」(7.6%)の順となっています。

障害等の別にみると、“身体障害者手帳”と“高次脳機能障害はある”では「年金・手当」が 55%以上、“愛の手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「家族の給与・賃金」が 35%を超えています。

“身体障害者手帳”は 70 歳代や 80 歳代、“愛の手帳”は 20 歳代の人が多いという年齢構成の違いによるものと思われます。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
自身の給与・賃金	10.7	9.4	12.7	10.1	19.2	10.9	10.9
家族の給与・賃金	22.4	13.5	40.4	27.7	48.8	11.6	37.8
事業収入(自営業等)	2.5	3.4	1.5	0.5	1.7	1.9	1.7
年金・手当	51.5	64.1	31.9	35.7	24.4	56.2	31.3
生活保護	7.6	5.6	6.5	17.6	1.7	10.9	10.4
その他	1.9	1.3	2.7	3.2	1.7	2.2	2.2
無回答	3.4	2.7	4.4	5.3	2.3	6.4	5.7

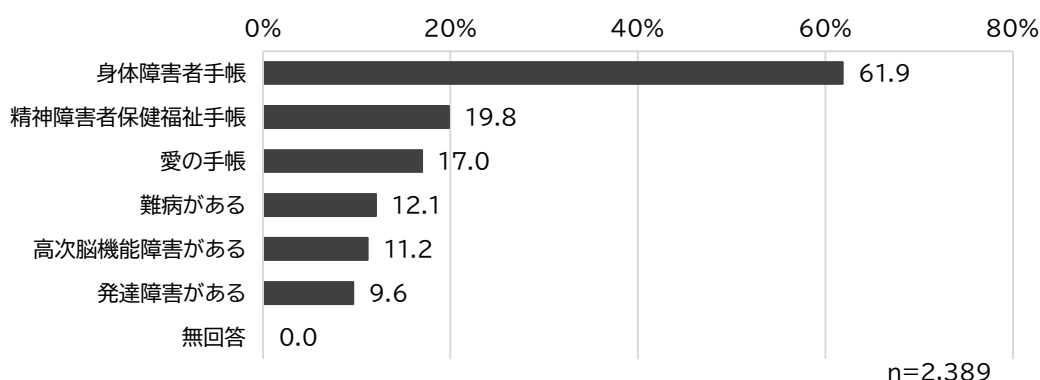
### (3) 障害等の状況

問6 あなたは「身体障害者手帳」、「愛の手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちですか。もしくは、「難病」、「高次脳機能障害」、「発達障害」がありますか。  
(あてはまるものすべてに○をし、等級や各部位の等級それぞれについて○をつけてください。)

#### ①手帳所持・手当受給と障害の状況

「身体障害者手帳」が61.9%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」(19.8%)、「愛の手帳」(17.0%)、「難病がある」(12.1%)、「高次脳機能障害がある」(11.2%)、「発達障害がある」(9.6%)の順となっています。

障害等の別にみると、“高次脳機能障害がある”と回答された人の中で「身体障害者手帳」を所持している人は71.9%、“発達障害がある”と回答された人の中で「愛の手帳」や「精神障害者保健福祉手帳」を所持している人は40%を超えています。



#### 【他の手帳や障害との重複状況】

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
身体障害者手帳	61.9	99.0	5.6	6.6	2.3	71.9	27.4
愛の手帳	17.0	4.6	98.2	1.4	0.0	18.7	42.6
精神障害者保健福祉手帳	19.8	2.0	7.1	96.1	0.6	18.7	41.3
難病がある	12.1	6.9	1.8	2.5	100.0	8.6	6.1
高次脳機能障害がある	11.2	12.7	11.5	9.2	2.9	100.0	38.3
発達障害がある	9.6	3.9	24.8	19.7	2.3	33.0	100.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

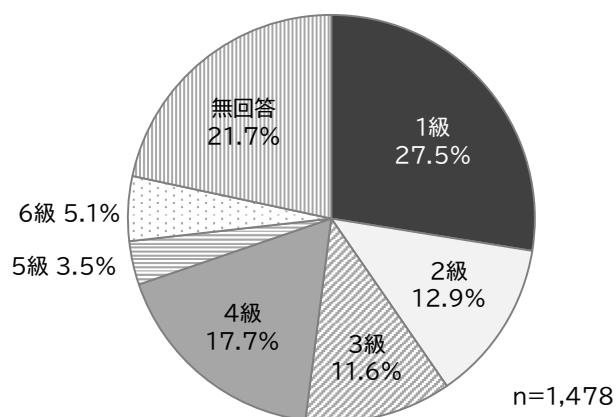


②身体障害者手帳の総合等級

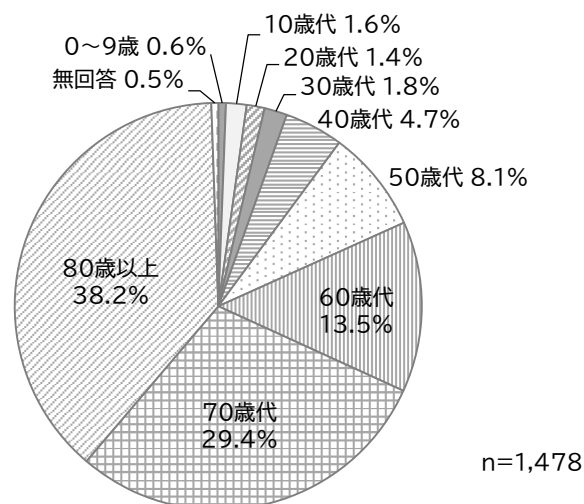
総合等級では「1級」が 27.5%と最も高く、次いで「4級」(17.7%)、「2級」(12.9%)、「3級」(11.6%)、「6級」(5.1%)、「5級」(3.5%)の順となっています。

年齢では「80歳以上」が 38.2%と最も高く、次いで「70歳代」(29.4%)、「60歳代」(13.5%)の順となっています。

【総合等級】



【年齢】



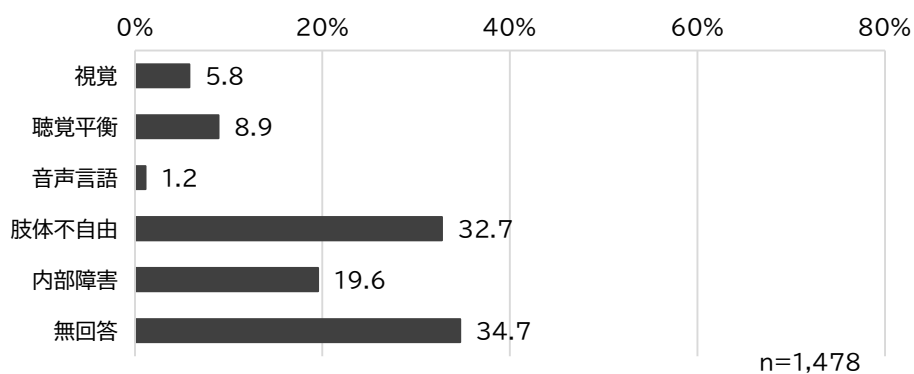
	全体	0~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
<回答者数>	1,478	9	24	21	27	69	120	200	435	565
1級	27.5	44.4	33.3	23.8	29.6	31.9	28.3	35.5	27.8	23.2
2級	12.9	44.4	16.7	38.1	22.2	18.8	21.7	13.0	9.9	10.4
3級	11.6	11.1	12.5	9.5	14.8	10.1	6.7	12.5	12.4	11.9
4級	17.7	0.0	8.3	19.0	14.8	13.0	15.8	19.5	19.1	18.1
5級	3.5	0.0	4.2	4.8	0.0	4.3	4.2	3.5	5.5	1.8
6級	5.1	0.0	8.3	0.0	0.0	2.9	3.3	3.5	4.4	7.4
無回答	21.7	0.0	16.7	4.8	18.5	18.8	20.0	12.5	20.9	27.3

【他の手帳や障害との重複状況】

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,478	1,426	19	29	4	192	63
1級	27.5	28.1	10.5	13.8	0.0	24.0	19.0
2級	12.9	11.6	26.3	65.5	0.0	18.2	23.8
3級	11.6	11.4	21.1	17.2	25.0	12.0	7.9
4級	17.7	18.0	21.1	0.0	25.0	17.2	14.3
5級	3.5	3.4	5.3	0.0	25.0	5.2	6.3
6級	5.1	5.3	5.3	0.0	0.0	6.3	7.9
無回答	21.7	22.2	10.5	3.4	25.0	17.2	20.6

### ③身体障害の部位

身体障害者手帳を所持している人の障害の部位をみると、「肢体不自由」が 32.7%、「内部障害」は 19.6%、「聴覚平衡」は 8.9%、「視覚」は 5.8%、「音声言語」は 1.2%となっています。



### 【部位ごとの等級】

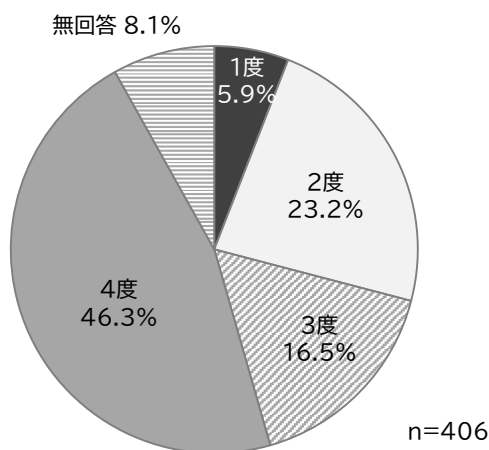
	身体障害の部位				
	視覚	聴覚平衡	音声言語	肢体不自由	内部障害
<回答者数>	86	132	17	484	289
1級	23.3	—	—	19.6	66.4
2級	29.1	19.7	—	19.2	2.4
3級	12.8	13.6	58.8	21.1	9.0
4級	11.6	17.4	41.2	28.1	22.1
5級	17.4	2.3	—	8.7	—
6級	5.8	47.0	—	3.3	—

④愛の手帳の程度

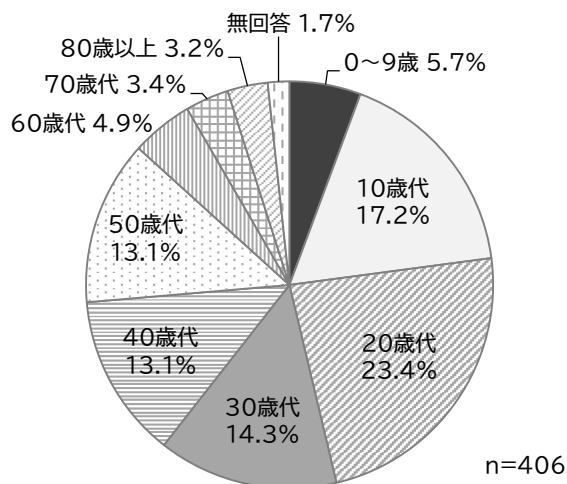
程度では「4度」が 46.3%と最も高く、次いで「2度」(23.2%)、「3度」(16.5%)、「1度」(5.9%)の順となっています。

年齢では「20 歳代」が 23.4%と最も高く、次いで「10 歳代」(17.2%)、「30 歳代」(14.3%)、「40 歳代」と「50 歳代」が 13.1%となっています。

【程度】



【年齢】



	全体	0~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
<回答者数>	406	23	70	95	58	53	53	20	14	13
1度	5.9	4.3	5.7	4.2	5.2	3.8	5.7	5.0	28.6	15.4
2度	23.2	30.4	27.1	24.2	24.1	22.6	15.1	15.0	14.3	23.1
3度	16.5	21.7	7.1	14.7	20.7	20.8	20.8	25.0	7.1	23.1
4度	46.3	43.5	54.3	50.5	44.8	37.7	45.3	45.0	42.9	23.1
無回答	8.1	0.0	5.7	6.3	5.2	15.1	13.2	10.0	7.1	15.4

【他の手帳や障害との重複状況】

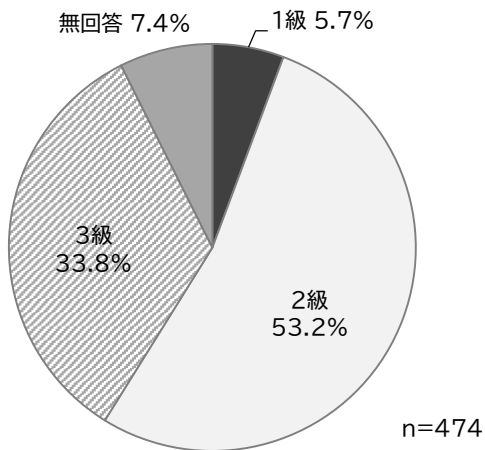
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	406	67	333	6	0	50	98
1度	5.9	25.4	1.8	16.7	0.0	8.0	2.0
2度	23.2	34.3	20.7	33.3	0.0	18.0	13.3
3度	16.5	11.9	17.7	0.0	0.0	14.0	19.4
4度	46.3	23.9	50.8	50.0	0.0	52.0	61.2
無回答	8.1	4.5	9.0	0.0	0.0	8.0	4.1

⑤精神障害者保健福祉手帳の等級

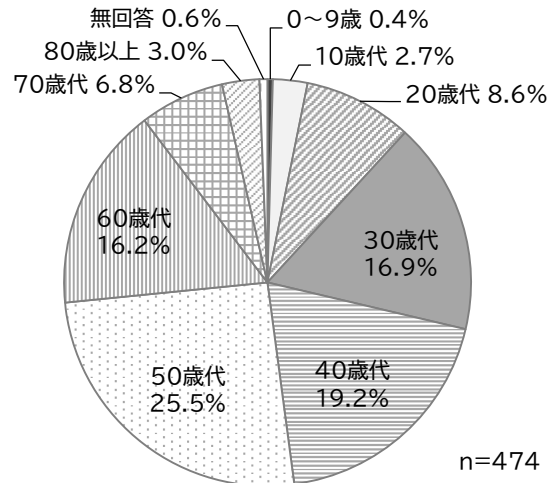
等級では「2級」が 53.2%と最も高く、次いで「3級」(33.8%)、「1級」(5.7%)の順となっています。

年齢では「50 歳代」が 25.5%と最も高く、次いで「40 歳代」(19.2%)、「30 歳代」(16.9%)、「60 歳代」(16.2%)の順となっています。

【程度】



【年齢】



	全体	0~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
<回答者数>	474	2	13	41	80	91	121	77	32	14
1級	5.7	0.0	0.0	2.4	2.5	1.1	5.8	3.9	31.3	21.4
2級	53.2	0.0	46.2	39.0	61.3	58.2	54.5	54.5	31.3	50.0
3級	33.8	100.0	38.5	53.7	33.8	35.2	32.2	29.9	28.1	7.1
無回答	7.4	0.0	15.4	4.9	2.5	5.5	7.4	11.7	9.4	21.4

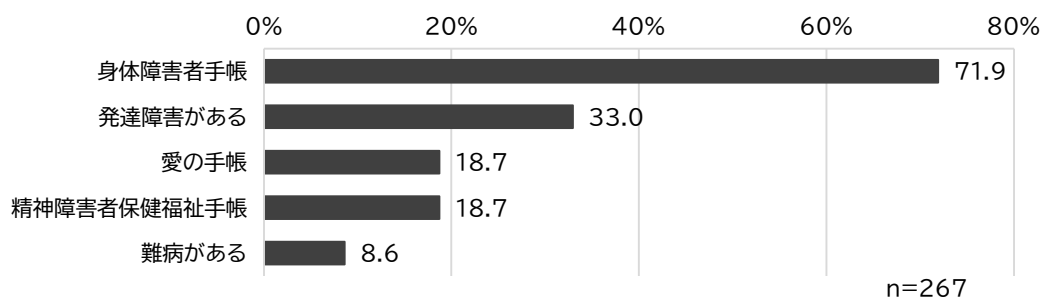
【他の手帳や障害との重複状況】

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	474	29	24	420	1	50	95
1級	5.7	27.6	4.2	4.3	0.0	12.0	2.1
2級	53.2	34.5	66.7	53.8	0.0	62.0	52.6
3級	33.8	27.6	29.2	34.3	100.0	22.0	45.3
無回答	7.4	10.3	0.0	7.6	0.0	4.0	0.0

## （４）高次脳機能障害の状況

高次脳機能障害があると回答した人の他の手帳や障害との重複状況は、「身体障害者手帳」が71.9%、「発達障害がある」は33.0%、「愛の手帳」と「精神障害者保健福祉手帳」は18.7%、「難病がある」は8.6%となっています。

### 【他の手帳や障害との重複状況】

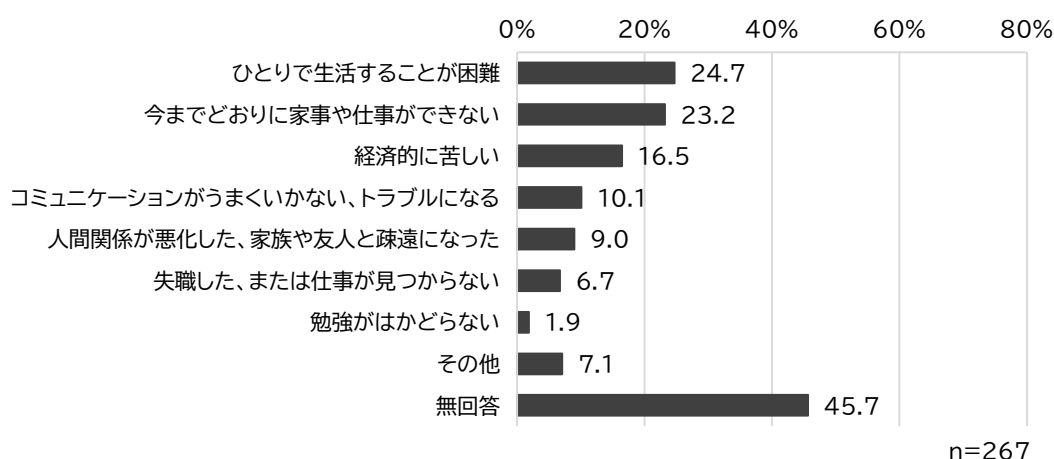


### ①症状により困っていること

問 6-1① 高次脳機能障害による症状があることで、日常生活の中で困っていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※問 6 で高次脳機能障害があると回答した人

無回答を除くと、「ひとりで生活することが困難」が24.7%と最も高く、次いで「今までどおりに家事や仕事ができない」(23.2%)、「経済的に苦しい」(16.5%)、「コミュニケーションがうまくいかない、トラブルになる」(10.1%)の順となっています。

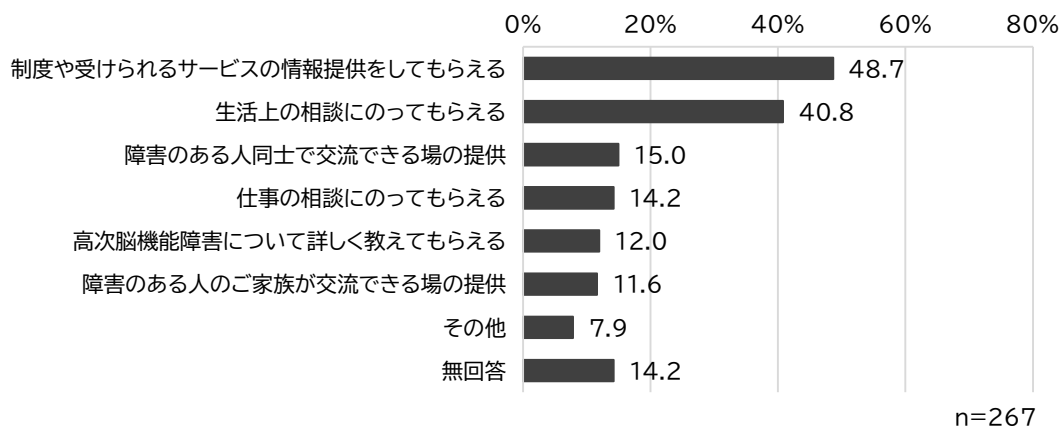


## ②必要なサポート

問 6-1② 前問のようなことに対し、どのようなサポートがあればよいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※問 6 で高次脳機能障害があると回答した人

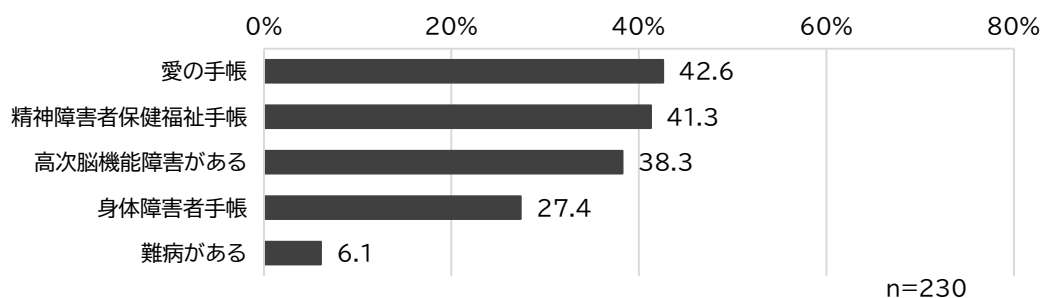
「制度や受けられるサービスの情報提供をしてもらえる」が 48.7%と最も高く、次いで「生活上の相談にのってもらえる」(40.8%)、「障害のある人同士で交流できる場の提供」(15.0%)、「仕事の相談にのってもらえる」(14.2%)、「高次脳機能障害について詳しく教えてもらえる」(12.0%)の順となっています。



## （5）発達障害の状況

発達障害があると回答した人の他の手帳や障害との重複状況は、「愛の手帳」が 42.6%、「精神障害者保健福祉手帳」は 41.3%、「高次脳機能障害がある」は 38.3%、「身体障害者手帳」は 27.4%、「難病がある」は 6.1%となっています。

### 【他の手帳や障害との重複状況】

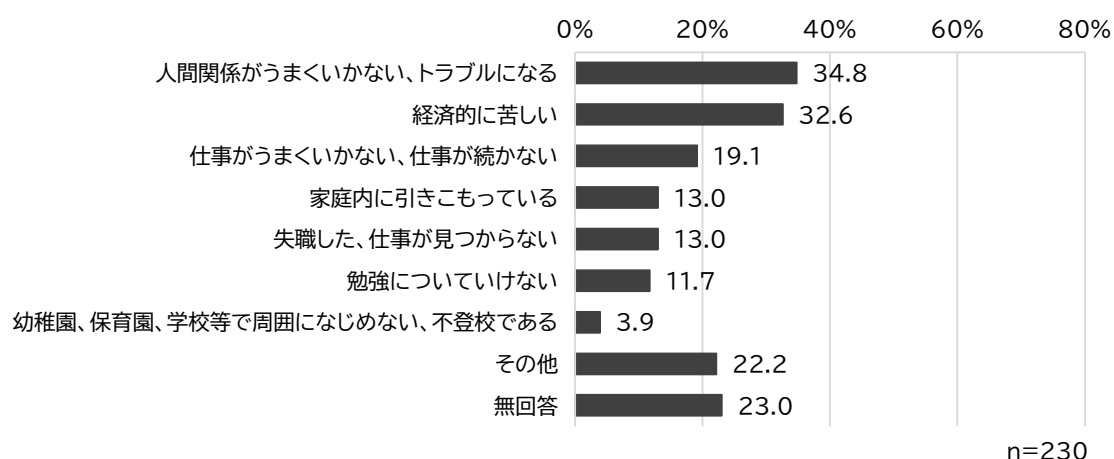


### ①症状により困っていること

問 6-2① 発達障害による症状があることで、日常生活の中で困っていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※問 6 で発達障害があると回答した人

無回答を除くと、「人間関係がうまくいかない、トラブルになる」が 34.8%と最も高く、次いで「経済的に苦しい」(32.6%)、「仕事がうまくいかない、仕事が続かない」(19.1%)、「家庭内に引きこもっている」と「失職した、仕事が見つからない」が 13.0%となっています。

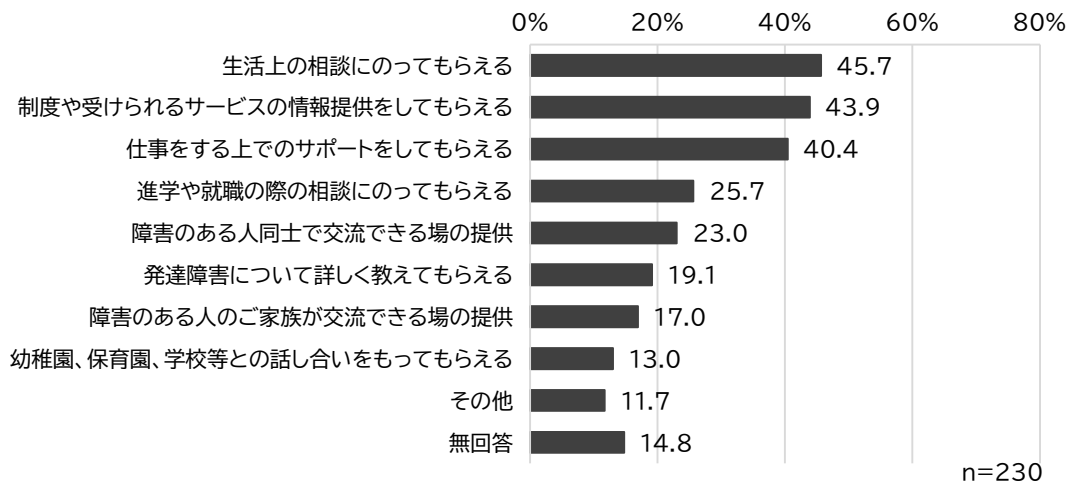


## ②必要なサポート

問 6-2② 前問のようなことに対し、どのようなサポートがあればよいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※問 6 で発達障害があると回答した人

「生活上の相談にのってもらえる」が 45.7%と最も高く、次いで「制度や受けられるサービスの情報提供をしてもらえる」(43.9%)、「仕事をする上でのサポートをしてもらえる」(40.4%)、「進学や就職の際の相談にのってもらえる」(25.7%)、「障害のある人同士で交流できる場の提供」(23.0%)、「発達障害について詳しく教えてもらえる」(19.1%)の順となっています。





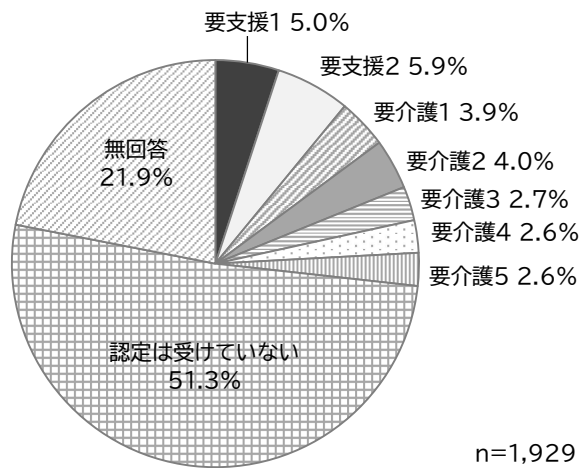
## (6) 介護保険制度の要介護認定状況

### ①要介護認定の状況

問7 あなたは、令和4年12月1日現在、介護保険の要支援・要介護認定を受けていますか。  
(1つだけに○)  
※年齢が40歳以上と回答した人

「認定は受けていない」が51.3%と最も高く、次いで「要支援2」(5.9%)、「要支援1」(5.0%)の順となっています。

障害等の別にみると、“身体障害者手帳”や“高次脳機能障害がある”では、「認定は受けていない」が50%以下となっており、“身体障害者手帳”を所持している人には介護保険の要支援・要介護認定を受けている人の割合が高いことがうかがえます。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,929	1,365	117	312	135	241	117
要支援1	5.0	6.2	1.7	1.9	3.0	7.9	5.1
要支援2	5.9	7.8	0.0	1.3	3.0	8.3	4.3
要介護1	3.9	4.6	0.9	3.5	0.7	4.1	4.3
要介護2	4.0	5.2	0.0	1.3	1.5	4.6	3.4
要介護3	2.7	3.4	1.7	1.3	0.0	3.7	3.4
要介護4	2.6	3.2	2.6	1.3	0.0	3.3	2.6
要介護5	2.6	3.6	0.9	0.0	0.0	6.6	0.9
認定は受けていない	51.3	45.2	69.2	63.5	69.6	48.5	67.5
無回答	21.9	20.9	23.1	26.0	22.2	12.9	8.5

## 2-2 介護・支援の状況について

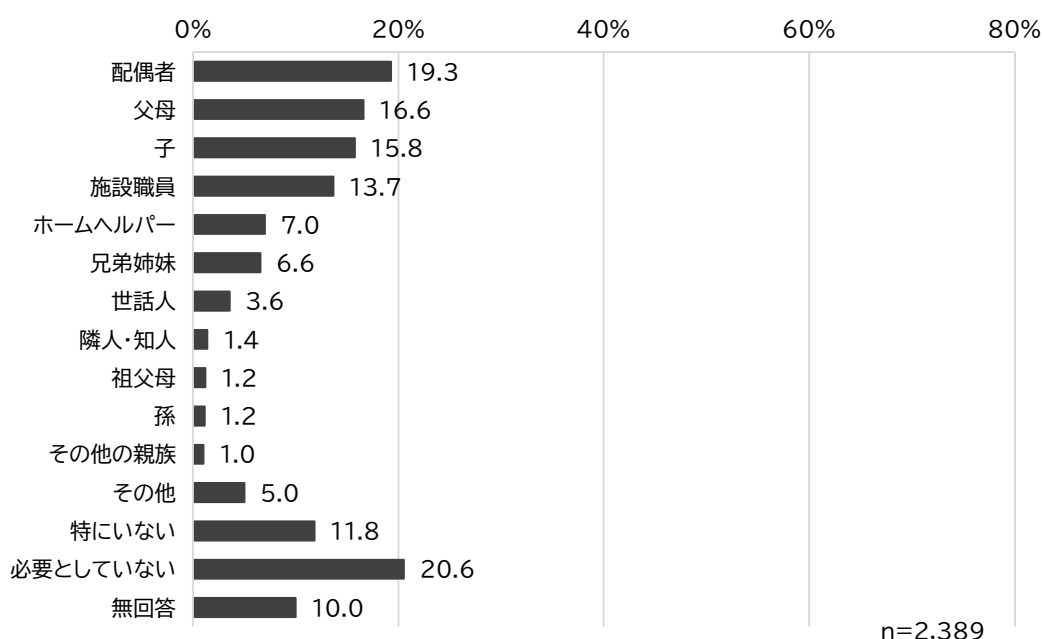
### (1) 介護者・支援者の状況

#### ① 介護・支援をしている人

問8 あなたの介護者・支援者はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「必要としていない」(20.6%)を除くと、「配偶者」が19.3%と最も高く、次いで「父母」(16.6%)、「子」(15.8%)、「施設職員」(13.7%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”と“発達障害がある”では、「父母」が35%以上となっています。“愛の手帳”では「施設職員」も29.5%となっています。



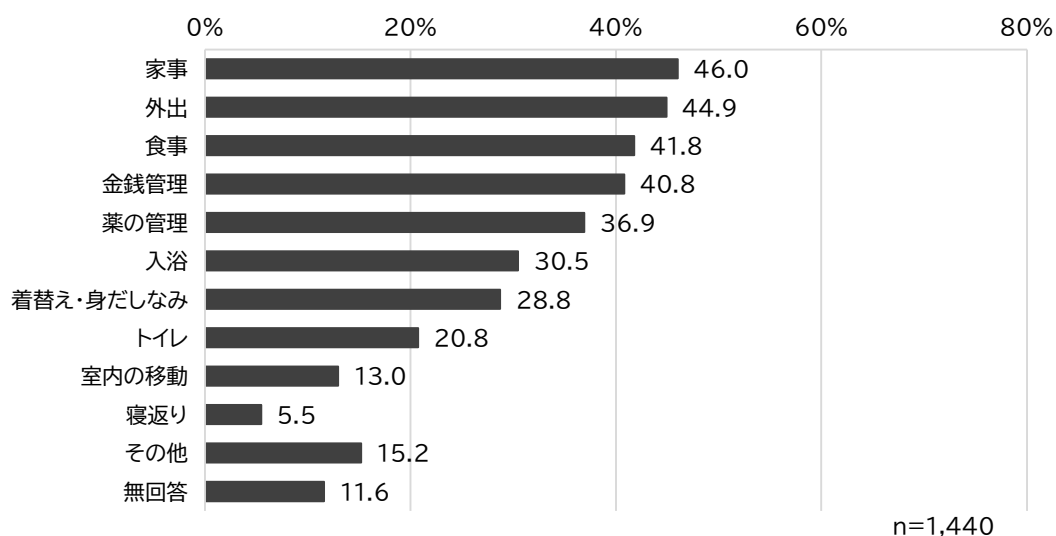
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
配偶者	19.3	25.1	2.9	14.0	16.3	25.8	12.6
父母	16.6	6.8	55.2	24.0	4.1	11.2	37.4
子	15.8	23.0	1.2	6.6	7.6	25.5	7.8
孫	1.2	1.8	0.0	0.2	0.6	2.2	0.9
祖父母	1.2	0.6	3.8	1.8	0.0	0.7	5.2
兄弟姉妹	6.6	4.5	14.2	9.2	2.3	8.2	10.9
その他の親族	1.0	1.0	1.8	0.9	0.0	2.2	3.5
隣人・知人	1.4	1.4	1.2	1.8	1.2	1.1	1.3
ホームヘルパー	7.0	8.2	5.6	6.6	1.2	9.0	5.2
世話人	3.6	0.4	19.8	3.0	0.0	2.6	5.2
施設職員	13.7	10.8	29.5	15.8	1.2	12.7	15.2
その他	5.0	3.7	7.1	9.4	1.2	6.7	8.7
特にいない	11.8	11.4	4.4	19.7	10.5	15.0	16.5
必要としていない	20.6	21.2	5.3	14.4	61.0	7.9	8.3
無回答	10.0	11.6	4.4	10.5	6.4	8.6	7.0

②受けている介護・支援の内容

問9 どのようなことで介護・支援を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※問8で介護者・支援者がいる(「1」~「12」)と回答した人

「家事」が46.0%と最も高く、次いで「外出」(44.9%)、「食事」(41.8%)、「金銭管理」(40.8%)、「薬の管理」(36.9%)の順となっています。

障害等の別にみると、“身体障害者手帳”では「外出」が48.2%で最も高くなっています。“愛の手帳”では「金銭管理」、「食事」、「薬の管理」、「家事」、「外出」など、多くの項目で50%を超えています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,440	851	294	253	42	192	162
食事	41.8	39.8	58.5	32.0	23.8	39.1	40.1
家事	46.0	45.2	53.1	41.9	38.1	38.0	40.1
トイレ	20.8	24.4	24.8	6.3	4.8	20.8	15.4
着替え・身だしなみ	28.8	30.6	42.9	9.9	7.1	29.2	24.7
入浴	30.5	34.8	34.7	13.8	14.3	27.6	22.8
寝返り	5.5	7.8	2.4	2.0	2.4	6.3	2.5
室内の移動	13.0	18.3	7.1	2.8	7.1	17.2	7.4
外出	44.9	48.2	52.7	27.3	31.0	37.5	34.6
金銭管理	40.8	32.7	71.8	37.9	7.1	36.5	45.1
薬の管理	36.9	32.4	56.5	34.8	4.8	31.8	34.0
その他	15.2	13.2	10.9	26.1	21.4	13.5	19.1
無回答	11.6	13.5	7.8	9.5	11.9	17.2	12.3

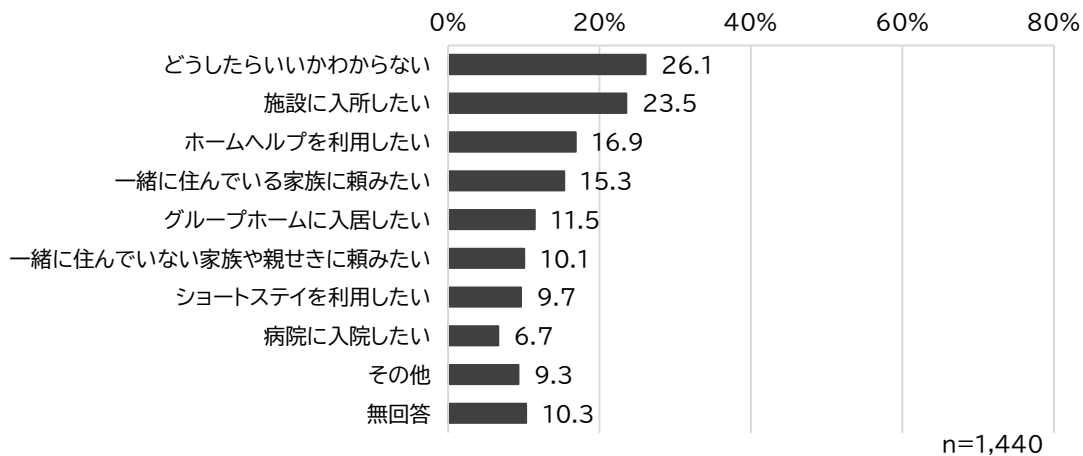
### ③受けている介護・支援が受けられなくなった場合

問 10 介護者・支援者があなたを介護・支援できなくなった場合はどうしたいですか。  
 (あてはまるものすべてに○)  
 ※問 8 で介護者・支援者がいる(「1」~「12」)と回答した人

「どうしたらいいかわからない」が 26.1%と最も高く、次いで「施設に入所したい」(23.5%)、「ホームヘルプを利用したい」(16.9%)、「一緒に住んでいる家族に頼みたい」(15.3%)、「グループホームに入居したい」(11.5%)の順となっています。

障害等の別にみると、それぞれ最も高いものは、“身体障害者手帳”が「施設に入所したい」、「愛の手帳」は「グループホームに入居したい」、「高次脳機能障害がある」は「施設に入所したい」となっています。

“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では「どうしたらいいかわからない」となっています。



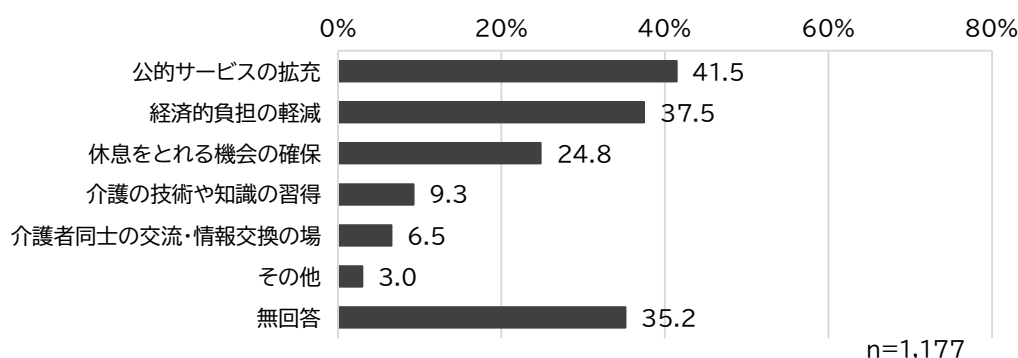
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,440	851	294	253	42	192	162
一緒に住んでいる家族に頼みたい	15.3	15.6	16.3	12.6	19.0	19.8	16.0
一緒に住んでいない家族や親せきに頼みたい	10.1	10.5	10.2	9.9	2.4	11.5	13.0
ホームヘルプを利用したい	16.9	20.7	9.2	10.7	31.0	18.8	14.2
ショートステイを利用したい	9.7	10.8	11.2	4.3	7.1	10.9	8.0
施設に入所したい	23.5	28.3	19.4	13.8	14.3	29.7	19.1
グループホームに入居したい	11.5	5.4	29.9	10.7	9.5	8.9	15.4
病院に入院したい	6.7	8.9	1.0	5.1	9.5	10.4	6.8
どうしたらいいかわからない	26.1	19.3	28.6	44.3	38.1	23.4	42.0
その他	9.3	8.3	11.2	11.5	2.4	9.9	14.2
無回答	10.3	12.3	7.5	7.5	7.1	7.8	5.6

## (2) 介護・支援している家族に必要な支援

問11 障害のある人を介護している家族への支援として必要なことはどんなことですか。  
 (必要と思われるもの2つに○)  
 ※問8で介護者・支援者がいる(「1」~「7」)と回答した人の家族

無回答を除くと、「公的サービスの拡充」が41.5%と最も高く、次いで「経済的負担の軽減」(37.5%)、「休息をとれる機会の確保」(24.8%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”の「公的サービスの拡充」は57.0%となっています。“発達障害がある”、“精神障害者保健福祉手帳”、“愛の手帳”では、「経済的負担の軽減」が45%を超えています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,177	726	214	196	41	163	138
休息をとれる機会の確保	24.8	23.6	34.6	20.9	14.6	23.3	18.1
公的サービスの拡充	41.5	38.3	57.0	38.3	31.7	32.5	47.8
介護の技術や知識の習得	9.3	11.3	7.5	3.1	12.2	14.7	10.9
介護者同士の交流・情報交換の場	6.5	4.3	14.5	7.1	2.4	6.1	13.0
経済的負担の軽減	37.5	32.6	45.8	45.9	39.0	36.2	50.7
その他	3.0	2.9	3.3	3.6	0.0	3.1	4.3
無回答	35.2	39.4	17.8	36.7	43.9	41.1	26.1

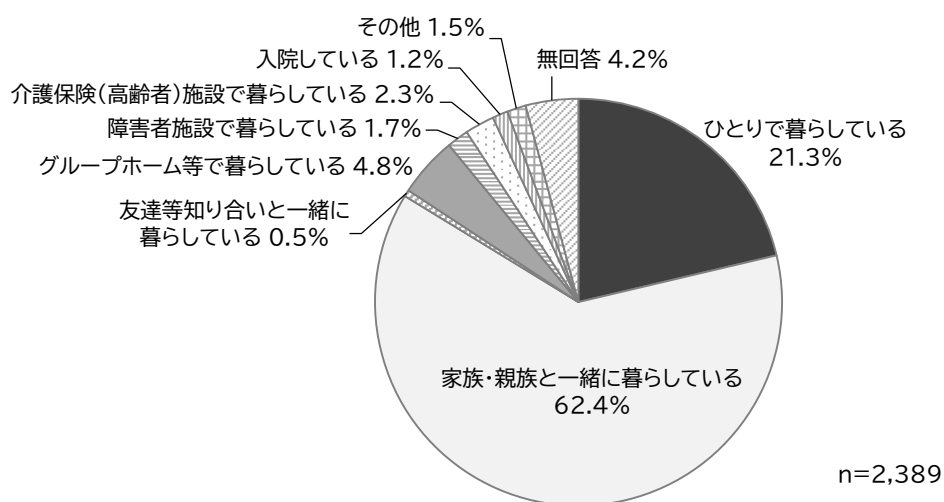
## 2-3 住まいや生活について

### (1) 現在の暮らし方

問12 あなたは、現在、どのように暮らしていますか。(1つだけに○)

「家族・親族と一緒に暮らしている」が62.4%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」(21.3%)、「グループホーム等で暮らしている」(4.8%)、「介護保険(高齢者)施設で暮らしている」(2.3%)、「障害者施設で暮らしている」(1.7%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”では、「ひとりで暮らしている」が30.7%、“愛の手帳”は「グループホーム等で暮らしている」が24.8%となっています。



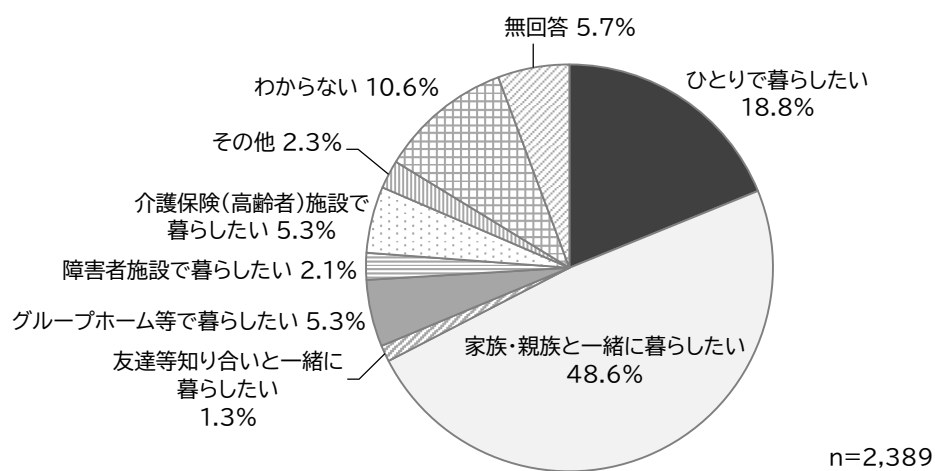
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ひとりで暮らしている	21.3	23.9	5.9	30.7	6.4	27.7	20.4
家族・親族と一緒に暮らしている	62.4	61.8	56.6	57.9	90.1	48.3	60.9
友達等知り合いと一緒に暮らしている	0.5	0.5	0.9	0.5	0.6	0.0	1.3
グループホーム等で暮らしている	4.8	1.2	24.8	2.7	0.0	4.9	7.4
障害者施設で暮らしている	1.7	1.0	5.3	1.8	0.0	1.1	2.2
介護保険施設で暮らしている	2.3	3.4	0.9	0.9	0.0	2.2	0.4
入院している	1.2	1.4	0.0	1.8	0.6	1.9	0.4
その他	1.5	1.7	1.5	1.4	0.0	5.6	4.3
無回答	4.2	5.0	4.1	2.3	2.3	8.2	2.6

## (2) 今後の暮らし方の意向

問13 あなたは、今後、どのようにして暮らしたいですか。(1つだけに○)

「家族・親族と一緒に暮らしたい」が48.6%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしたい」(18.8%)、「わからない」(10.6%)、「グループホーム等で暮らしたい」(5.3%)、「介護保険(高齢者)施設で暮らしたい」(5.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では「グループホーム等で暮らしたい」が26.3%、“精神障害者保健福祉手帳”では「ひとりで暮らしたい」が29.1%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ひとりで暮らしたい	18.8	17.9	13.9	29.1	10.5	18.4	21.3
家族・親族と一緒に暮らしたい	48.6	51.6	33.3	40.5	74.4	38.2	36.5
友達等知り合いと一緒に暮らしたい	1.3	1.0	2.1	1.8	0.6	1.5	3.0
グループホーム等で暮らしたい	5.3	1.4	26.3	4.1	0.0	7.1	9.1
障害者施設で暮らしたい	2.1	2.3	3.8	1.1	0.0	3.0	2.6
介護保険施設で暮らしたい	5.3	7.1	1.8	3.2	1.7	6.0	2.2
その他	2.3	1.7	2.1	5.0	0.6	3.7	6.1
わからない	10.6	10.5	10.3	11.7	9.3	12.7	12.6
無回答	5.7	6.5	6.5	3.4	2.9	9.4	6.5

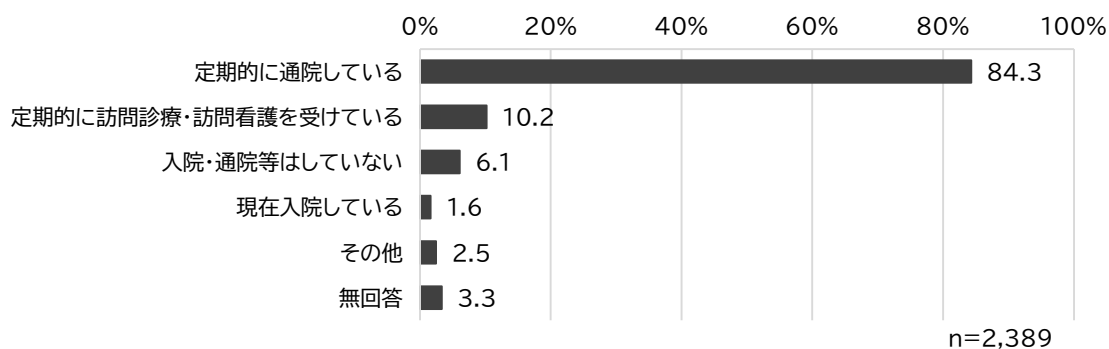
## 2-4 健康や医療について

### (1) 通院の状況

問 14 あなたは医療機関に通院等していますか。(あてはまるものすべてに○)

「定期的に通院している」が 84.3%と最も高く、次いで「定期的に訪問診療・訪問看護を受けている」(10.2%)、「入院・通院等はしていない」(6.1%)、「その他」(2.5%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”や“難病患者福祉手当”では、「定期的に通院している」が 90%を超え、“愛の手帳”では「入院・通院等はしていない」が 18.0%、“精神障害者保健福祉手帳”では、「定期的に訪問診療・訪問看護を受けている」が 16.0%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
定期的に通院している	84.3	83.4	72.3	92.0	95.9	80.5	81.7
定期的に訪問診療・訪問看護を受けている	10.2	10.9	4.1	16.0	1.7	13.9	11.3
現在入院している	1.6	1.9	0.3	2.1	0.6	2.6	1.7
入院・通院等はしていない	6.1	4.9	18.0	2.1	2.9	4.1	8.3
その他	2.5	2.4	3.8	2.3	0.6	4.5	6.5
無回答	3.3	3.6	5.6	1.4	1.7	6.4	3.0



## (2) かかりつけ医の状況

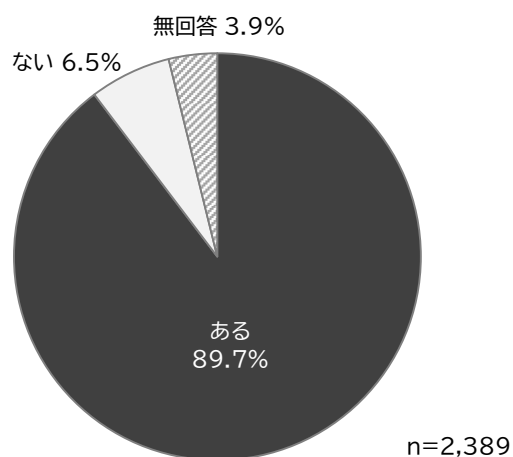
問 15 あなたは健康相談や治療をしてくれる身近な医師等(かかりつけ医)がいますか。  
 (1つだけに○)  
 ※かかりつけの医療機関、歯科医療機関の所在地は、問 15 で「ある」と回答した人

### ①医療機関

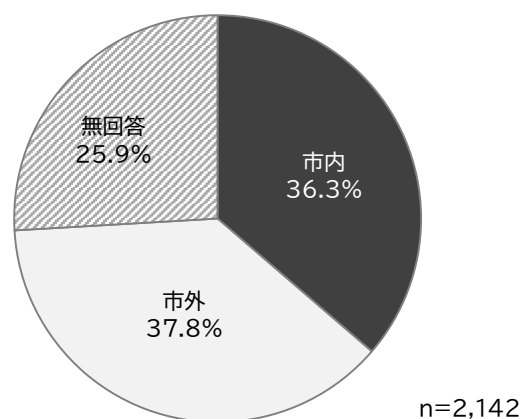
かかりつけの医療機関は、「ある」が 89.7%、「ない」は 6.5%となっています。「ある」場合、その所在地は「市外」が 37.8%、「市内」は 36.3%となっています。

障害等の別にみると、「難病患者福祉手当」、「精神障害者保健福祉手帳」、「発達障害がある」では、「市外」が 50%を超えています。

【かかりつけの医療機関の有無】



【かかりつけの医療機関の所在地】



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ある	89.7	90.8	83.5	89.7	92.4	85.8	86.5
ない	6.5	5.1	10.9	7.6	6.4	4.5	8.7
無回答	3.9	4.1	5.6	2.7	1.2	9.7	4.8

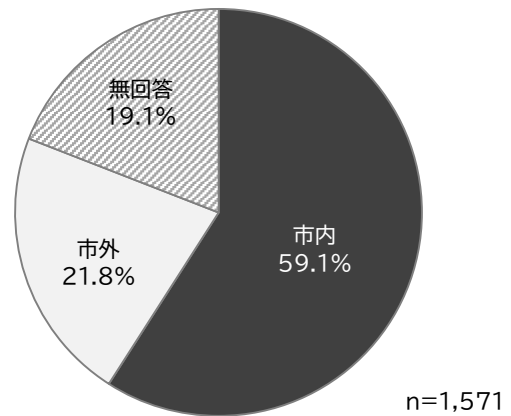
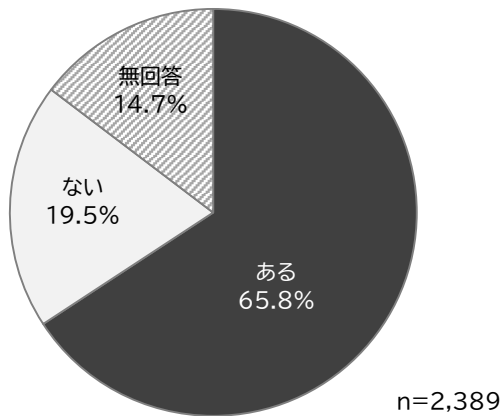
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,142	1,308	283	392	159	229	199
市内	36.3	40.6	36.4	28.6	20.1	30.6	24.6
市外	37.8	29.2	42.0	53.8	61.0	31.0	51.3
無回答	25.9	30.2	21.6	17.6	18.9	38.4	24.1

## ② 歯科医療機関

かかりつけの歯科医療機関は、「ある」が 65.8%、「ない」は 19.5%となっています。「ある」場合、その所在地は「市内」が 59.1%、「市外」は 21.8%となっています。

【かかりつけの歯科医療機関の有無】

【かかりつけの歯科医療機関の所在地】



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ある	65.8	66.3	65.2	61.8	72.7	58.1	58.3
ない	19.5	16.4	24.5	25.2	22.1	18.4	26.1
無回答	14.7	17.3	10.3	13.0	5.2	23.6	15.7

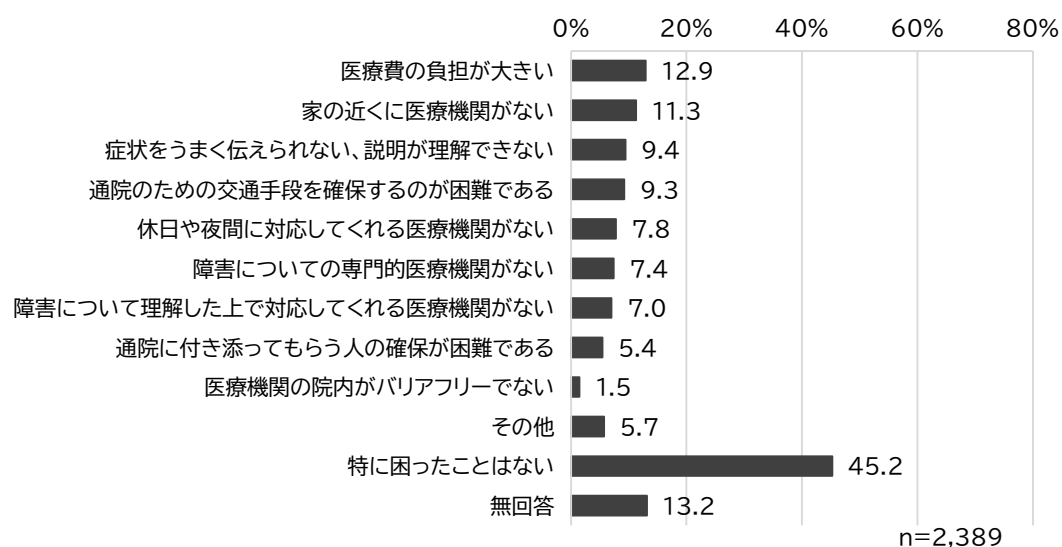
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,571	955	221	270	125	155	134
市内	59.1	56.4	54.3	65.6	73.6	51.6	64.2
市外	21.8	21.8	27.1	21.9	12.8	18.1	21.6
無回答	19.1	21.8	18.6	12.6	13.6	30.3	14.2

### (3) 医療機関で困っていること

問16 あなたは医療機関について困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特に困ったことはない」が45.2%と最も高く、次いで「医療費の負担が大きい」(12.9%)、「家の近くに医療機関がない」(11.3%)、「症状をうまく伝えられない、説明が理解できない」(9.4%)、「通院のための交通手段を確保するのが困難である」(9.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、“難病患者福祉手当”では「医療費の負担が大きい」が31.4%となっています。“愛の手帳”や“発達障害がある”では、「症状をうまく医師に伝えられない、説明が理解できない」が20%以上、「障害について理解した上で対応してくれる医療機関がない」も20%弱となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
家の近くに医療機関がない	11.3	8.1	9.7	19.5	19.8	12.4	17.4
障害についての専門的医療機関がない	7.4	6.4	7.1	11.2	7.0	10.9	16.1
障害について理解した上で対応してくれる医療機関がない	7.0	5.1	15.0	8.7	2.9	10.1	19.1
休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	7.8	7.4	8.8	8.9	6.4	9.7	10.4
通院のための交通手段を確保するのが困難である	9.3	9.0	7.1	12.4	8.1	13.9	13.9
通院に付き添ってもらおう人の確保が困難である	5.4	4.6	6.8	7.6	4.7	11.2	10.9
医療機関の院内がバリアフリーでない	1.5	2.2	0.0	0.7	0.0	3.0	2.2
症状をうまく医師に伝えられない、説明が理解できない	9.4	5.6	23.6	13.7	2.9	11.6	23.0
医療費の負担が大きい	12.9	11.2	8.8	14.6	31.4	16.1	15.7
その他	5.7	4.4	4.4	9.8	8.7	8.2	13.9
特に困ったことはない	45.2	48.4	42.5	38.0	42.4	34.5	30.4
無回答	13.2	16.9	8.3	8.0	5.2	16.9	8.7

## 2-5 就学・就業について

### (1) 就業の状況

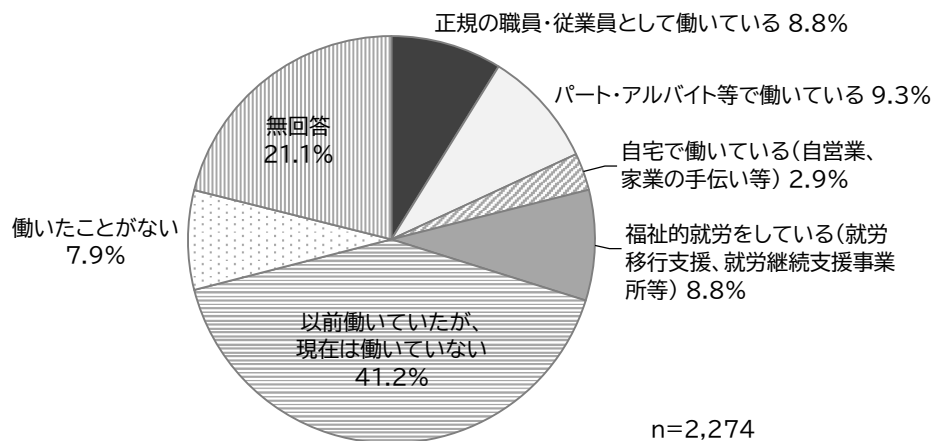
#### ①現在の就業状況

問 17 あなたは現在、働いていますか。(1つだけに○)  
※年齢が18歳以上と回答した人

「以前働いていたが、現在は働いていない」が41.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で働いている」(9.3%)、「正規の職員・従業員として働いている」と「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援事業所等)」が8.8%となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援事業所等)」が38.7%で最も高くなっています。

“難病患者福祉手当”では、「正規の職員・従業員として働いている」が23.7%、「パート・アルバイト等で働いている」が20.1%と他の障害等に比べて就業率が高くなっています。



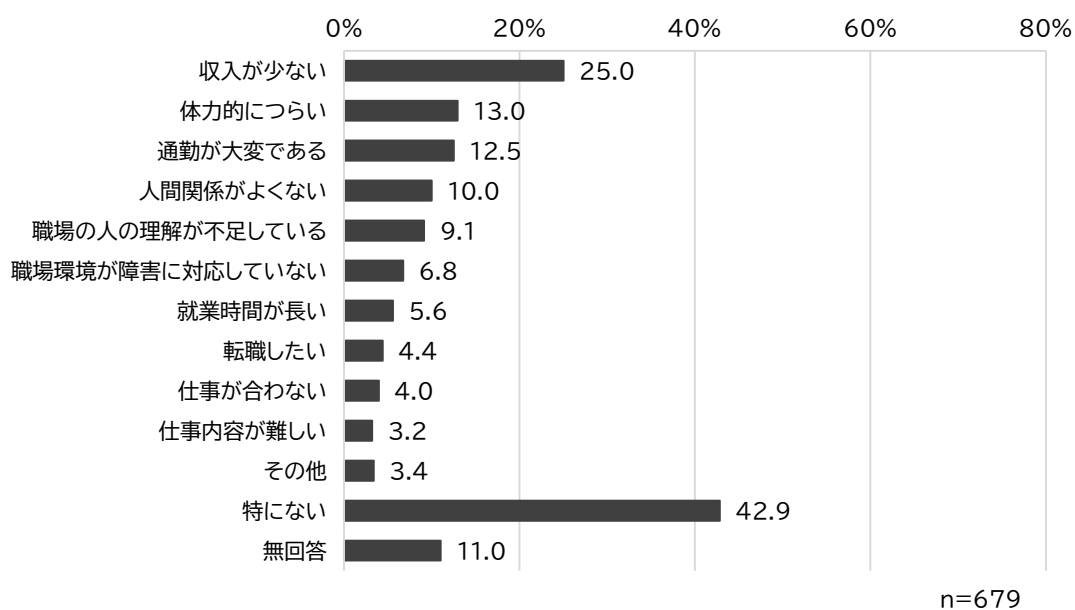
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,274	1,408	271	426	169	261	198
正規の職員・従業員として働いている	8.8	6.7	11.4	8.5	23.7	6.9	12.6
パート・アルバイト等で働いている	9.3	6.3	14.4	11.5	20.1	8.0	11.1
自宅で働いている(自営業、手伝い等)	2.9	3.6	0.7	1.6	4.1	2.7	2.5
福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援事業所等)	8.8	2.5	38.7	14.1	0.0	8.4	16.7
以前働いていたが、現在は働いていない	41.2	45.7	8.1	46.9	41.4	38.3	31.3
働いたことがない	7.9	6.3	18.5	8.5	2.4	5.4	8.6
無回答	21.1	28.8	8.1	8.9	8.3	30.3	17.2

②仕事をする上で困っていること

問 18 仕事をする上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※年齢が18歳以上、問17で現在就業している(「1」～「4」)と回答した人

「特にない」が42.9%と最も高く、次いで「収入が少ない」(25.0%)、「体力的につらい」(13.0%)、「通勤が大変である」(12.5%)、「人間関係がよくない」(10.0%)の順となっています。

障害等の別にみると、“発達障害がある”と“精神障害者保健福祉手帳”では、「収入が少ない」が40%前後となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	679	269	177	152	81	68	85
職場環境が障害に対応していない	6.8	6.3	2.8	12.5	6.2	11.8	10.6
通勤が大変である	12.5	11.5	6.2	20.4	14.8	11.8	15.3
就業時間が長い	5.6	4.1	3.4	10.5	6.2	4.4	14.1
仕事内容が難しい	3.2	1.5	3.4	7.2	1.2	1.5	4.7
職場の人の理解が不足している	9.1	5.6	6.8	19.1	7.4	11.8	18.8
人間関係がよくない	10.0	5.6	15.3	14.5	4.9	14.7	17.6
体力的につらい	13.0	13.4	6.2	15.1	22.2	7.4	20.0
収入が少ない	25.0	19.3	23.2	37.5	24.7	27.9	42.4
仕事が合わない	4.0	1.9	4.0	8.6	2.5	1.5	8.2
転職したい	4.4	3.0	2.3	9.2	4.9	4.4	8.2
その他	3.4	2.6	3.4	4.6	3.7	4.4	2.4
特にない	42.9	45.0	46.9	30.9	49.4	36.8	29.4
無回答	11.0	15.6	11.3	6.6	3.7	16.2	9.4

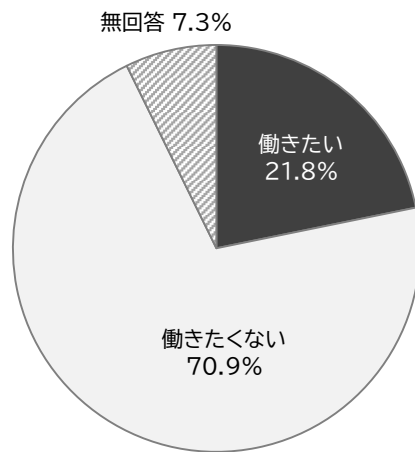
## (2) 今後の就業意向

問 19 あなたは今後働きたいと思っていますか。(1つだけに○)

※年齢が 18 歳以上、問 17 で現在は就業していない(「5」～「6」)と回答した人

「働きたくない」が 70.9%、「働きたい」は 21.8%となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”と“発達障害がある”では、「働きたい」が 40%を超えています。



n=1,115

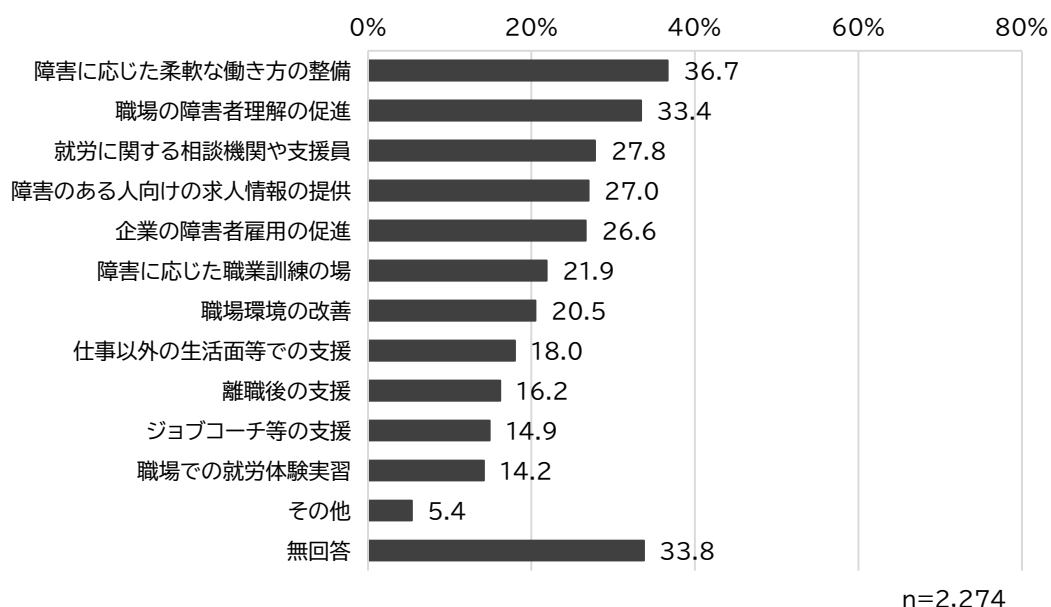
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	1,115	733	72	236	74	114	79
働きたい	21.8	12.7	23.6	46.2	32.4	19.3	40.5
働きたくない	70.9	79.0	66.7	49.2	64.9	68.4	51.9
無回答	7.3	8.3	9.7	4.7	2.7	12.3	7.6

### (3) 障害がある人が就業するために必要なこと

問 20 障害のある人が働くためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
 (あてはまるものすべてに○)  
 ※年齢が18歳以上と回答した人

「障害に応じた柔軟な働き方の整備」が36.7%と最も高く、次いで「職場の障害者理解の促進」(33.4%)、「就労に関する相談機関や支援員」(27.8%)、「障害のある人向けの求人情報の提供」(27.0%)、「企業の障害者雇用の促進」(26.6%)の順となっています。

障害等の別にみると、“難病患者福祉手当”、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達障害がある”では、「障害に応じた柔軟な働き方の整備」が50%前後となっています。



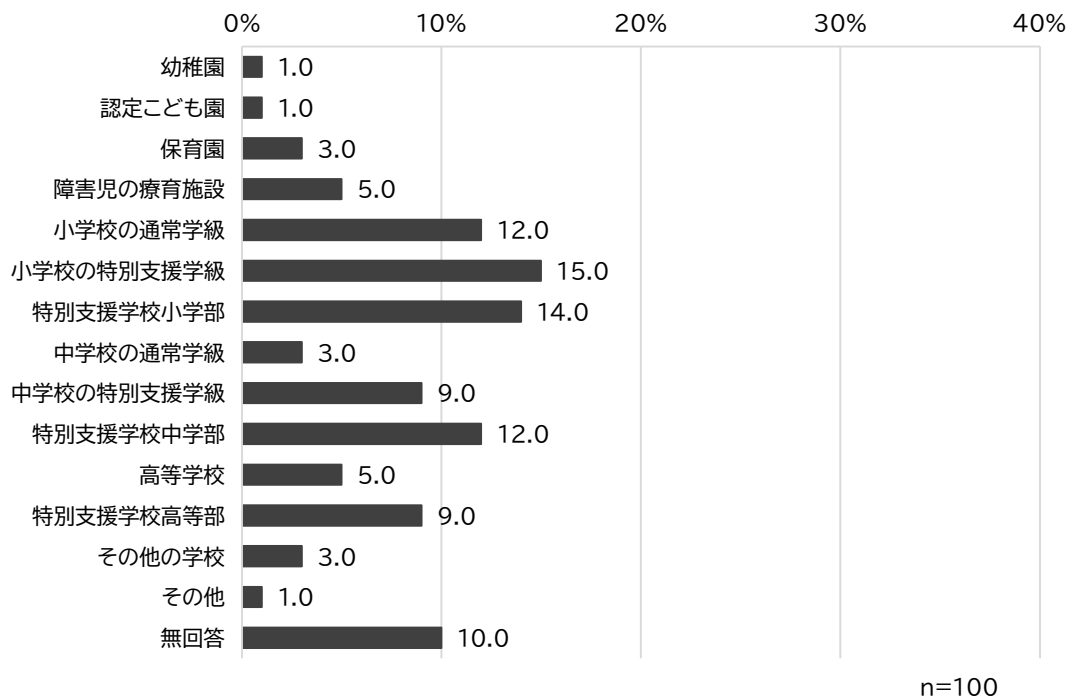
<回答者数>	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,274	1,408	271	426	169	261	198
就労に関する相談機関や支援員	27.8	20.7	38.7	39.0	41.4	25.3	38.4
障害に応じた職業訓練の場	21.9	18.4	25.8	28.2	28.4	18.8	31.8
職場での就労体験実習	14.2	9.1	26.9	23.5	13.0	12.3	22.2
障害者向けの求人情報の提供	27.0	21.2	32.1	40.1	33.7	23.0	37.4
企業の障害者雇用の促進	26.6	22.3	25.8	36.9	38.5	19.2	33.3
職場の障害者理解の促進	33.4	25.4	44.6	46.2	50.3	23.8	43.4
職場環境の改善	20.5	15.8	28.0	26.5	32.0	14.6	25.3
ジョブコーチ等の支援	14.9	10.2	24.7	23.2	17.8	10.7	25.3
障害に応じた柔軟な働き方の整備	36.7	30.0	33.9	53.3	55.0	29.5	47.0
離職後の支援	16.2	11.4	21.8	26.1	21.9	14.9	22.2
仕事以外の生活面等での支援	18.0	13.8	25.8	27.5	16.0	19.2	33.3
その他	5.4	3.9	7.0	9.4	4.7	6.1	9.1
無回答	33.8	44.7	16.6	16.2	14.2	40.2	21.2

## (4) 就学の状況

### ① 主な通園・通学先

問 21 あなたが主に通園・通学している所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)  
※年齢が 18 歳未満と回答した人

「小学校の特別支援学級」が 15.0%と最も高く、次いで「特別支援学校小学部」(14.0%)、「小学校の通常学級」と「特別支援学校中学部」が 12.0%となっています。



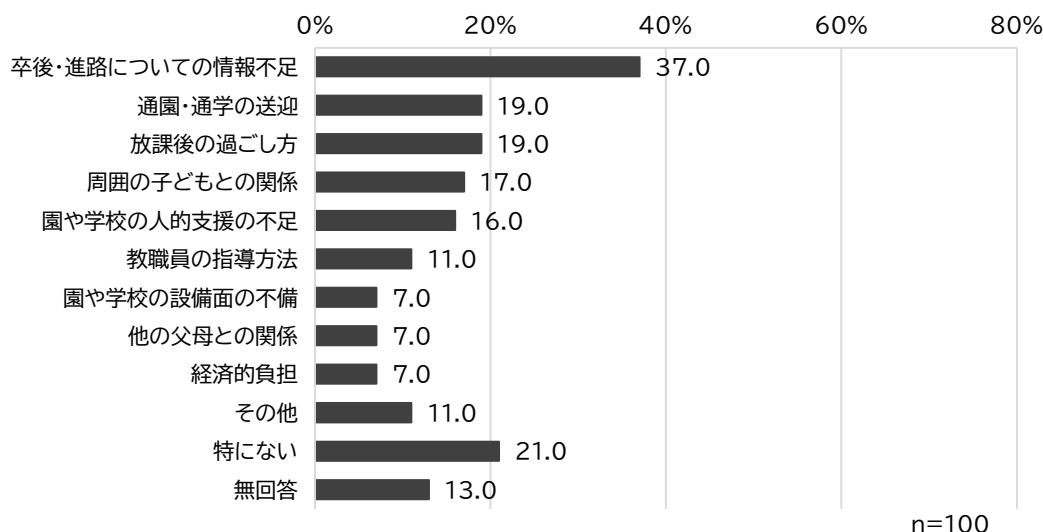
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	100	26	63	9	2	4	29
幼稚園	1.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
認定こども園	1.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
保育園	3.0	3.8	3.2	0.0	0.0	25.0	6.9
障害児の療育施設	5.0	7.7	4.8	0.0	0.0	0.0	3.4
小学校の通常学級	12.0	15.4	7.9	22.2	50.0	0.0	10.3
小学校の特別支援学級	15.0	3.8	19.0	22.2	0.0	0.0	17.2
特別支援学校小学部	14.0	11.5	15.9	11.1	0.0	0.0	6.9
中学校の通常学級	3.0	7.7	0.0	11.1	0.0	25.0	3.4
中学校の特別支援学級	9.0	3.8	11.1	11.1	0.0	0.0	20.7
特別支援学校中学部	12.0	19.2	11.1	0.0	0.0	25.0	6.9
高等学校	5.0	7.7	3.2	11.1	0.0	0.0	3.4
特別支援学校高等部	9.0	3.8	12.7	0.0	0.0	0.0	10.3
その他の学校	3.0	7.7	0.0	11.1	0.0	0.0	3.4
その他	1.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	3.4
無回答	10.0	15.4	9.5	0.0	0.0	25.0	3.4



②通園・通学で困っていること、心配なこと

問 22 通園・通学において困っていること、心配なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※年齢が18歳未満と回答した人

「卒後・進路についての情報不足」が37.0%と最も高く、次いで「特にない」(21.0%)、「通園・通学の送迎」と「放課後の過ごし方」が19.0%、「周囲の子どもとの関係」(17.0%)の順となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	100	26	63	9	2	4	29
通園・通学の送迎	19.0	19.2	19.0	11.1	50.0	25.0	31.0
園や学校の設備面の不備	7.0	7.7	4.8	22.2	0.0	50.0	13.8
園や学校の人的支援の不足	16.0	23.1	12.7	11.1	50.0	25.0	17.2
周囲の子どもとの関係	17.0	19.2	12.7	44.4	0.0	25.0	27.6
教職員の指導方法	11.0	7.7	9.5	33.3	0.0	25.0	13.8
他の父母との関係	7.0	11.5	4.8	11.1	0.0	25.0	3.4
放課後の過ごし方	19.0	19.2	15.9	33.3	50.0	0.0	17.2
卒後・進路についての情報不足	37.0	46.2	28.6	55.6	100.0	50.0	41.4
経済的負担	7.0	7.7	1.6	44.4	0.0	25.0	13.8
その他	11.0	7.7	12.7	0.0	50.0	0.0	13.8
特にない	21.0	19.2	23.8	11.1	0.0	25.0	13.8
無回答	13.0	15.4	14.3	0.0	0.0	25.0	10.3

## 2-6 外出・社会参加について

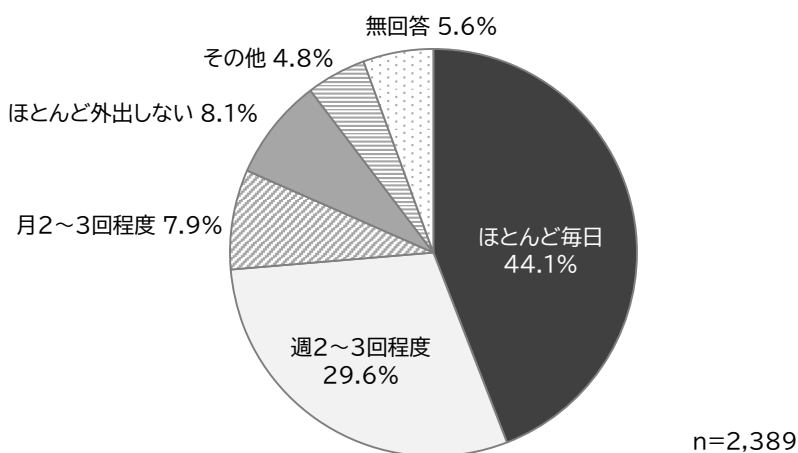
### (1) 外出の状況

#### ① 外出の頻度

問 23 あなたの外出回数はどれくらいですか。(1つだけに○)

「ほとんど毎日」が44.1%と最も高く、次いで「週2～3回程度」(29.6%)、「ほとんど外出しない」(8.1%)、「月2～3回程度」(7.9%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では「ほとんど毎日」が71.1%となっています。



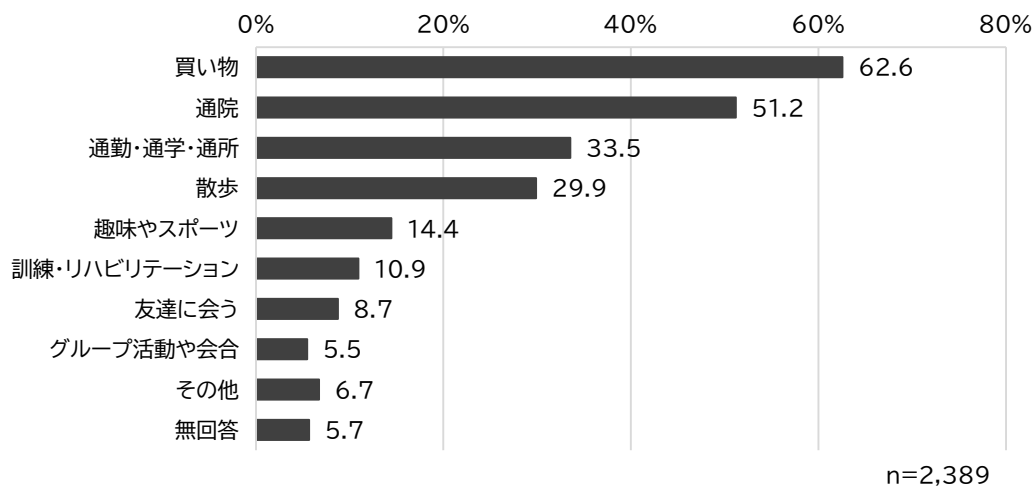
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ほとんど毎日	44.1	35.0	71.1	47.8	57.6	34.1	52.6
週2～3回程度	29.6	34.4	10.9	28.1	29.1	32.2	24.3
月2～3回程度	7.9	9.0	4.1	8.5	5.2	5.6	6.1
ほとんど外出しない	8.1	9.9	4.4	6.9	2.9	10.5	3.5
その他	4.8	4.8	4.7	5.7	2.3	5.6	6.1
無回答	5.6	6.9	4.7	3.0	2.9	12.0	7.4

②外出の目的

問 24 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(多い目的3つに○)

「買い物」が 62.6%と最も高く、次いで「通院」(51.2%)、「通勤・通学・通所」(33.5%)、「散歩」(29.9%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では「通勤・通学・通所」が 77.9%で最も高くなっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
通勤・通学・通所	33.5	20.0	77.9	40.0	43.0	23.6	49.6
訓練・リハビリテーション	10.9	14.4	6.5	5.5	4.1	15.0	11.7
通院	51.2	52.3	32.7	62.5	50.0	49.4	44.8
買い物	62.6	58.0	57.8	73.9	81.4	56.2	63.0
趣味やスポーツ	14.4	13.5	15.9	15.8	16.3	8.6	14.8
グループ活動や会合	5.5	6.0	9.7	2.1	1.2	6.0	4.3
散歩	29.9	30.3	33.6	23.1	36.0	24.0	23.9
友達に会う	8.7	8.2	8.3	10.8	9.3	7.1	13.5
その他	6.7	5.8	7.4	8.9	8.1	10.5	10.0
無回答	5.7	8.3	1.8	2.1	1.2	9.7	4.3

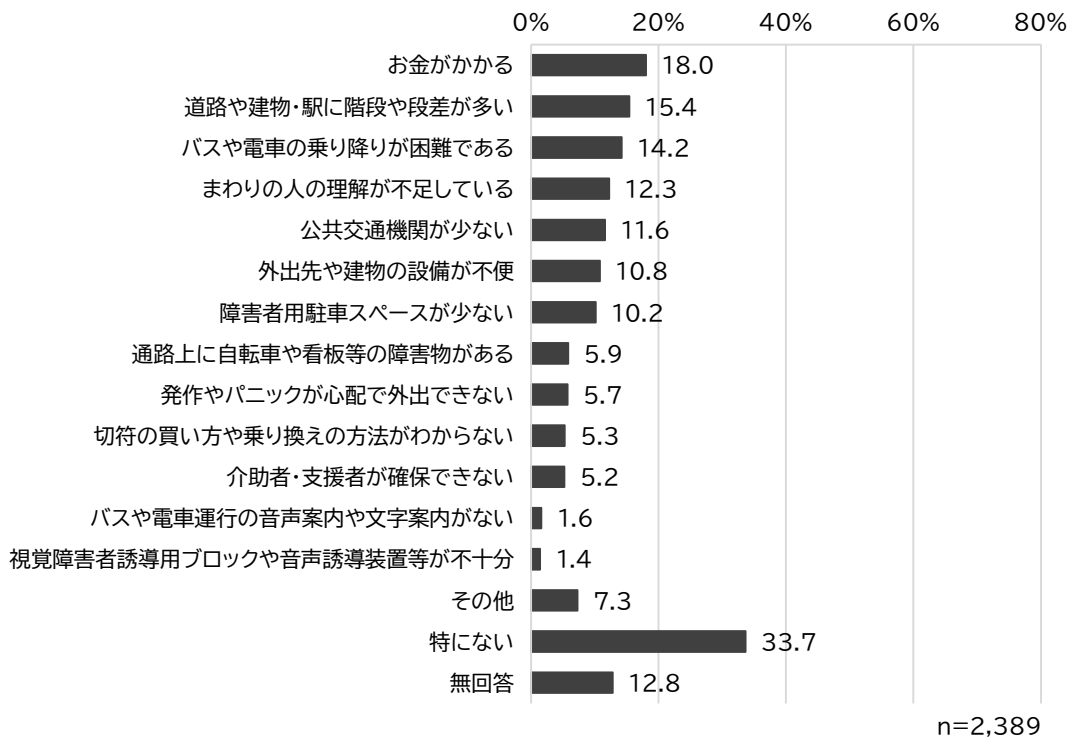
### ③外出の際、困っていること

問 25 あなたが外出の際、困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」が 33.7%と最も高く、次いで「お金がかかる」(18.0%)、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」(15.4%)、「バスや電車の乗り降りが困難である」(14.2%)、「まわりの人の障害のある人に対する理解が不足」(12.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、「特にない」を除きそれぞれ最も高いものは、“身体障害者手帳”が「道路や建物・駅に階段や段差が多い」(20.3%)、“愛の手帳”は「まわりの人の理解が不足している」(24.5%)、“精神障害者保健福祉手帳”(33.4%)と“難病患者福祉手当”(20.9%)は「お金がかかる」となっています。

“高次脳機能障害がある”は「バスや電車の乗り降りが困難」(21.3%)、“発達障害がある”は「お金がかかる」(29.6%)となっています。



## 問25 外出の際困っていること

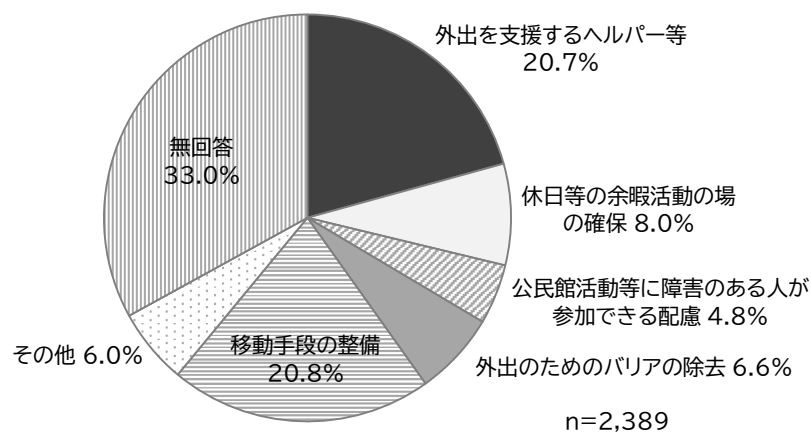
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
公共交通機関が少ない	11.6	13.0	6.8	11.7	9.3	12.0	9.1
バスや電車の乗り降りが困難	14.2	17.9	7.4	11.2	4.7	21.3	10.9
道路や建物・駅に階段や段差が多い	15.4	20.3	6.5	7.6	12.8	19.1	9.6
外出先や建物の設備が不便	10.8	14.0	5.9	5.0	8.1	13.9	8.7
バスや電車運行の音声案内や文字案内がない	1.6	2.2	0.9	1.1	0.0	2.6	1.3
視覚障害者誘導用ブロックや音声誘導装置等が不十分	1.4	2.1	0.3	0.2	1.2	2.2	0.9
障害者用の駐車スペースが少ない	10.2	14.5	4.1	3.7	2.3	13.5	5.7
通路上に自転車や看板等があつて通りにくい	5.9	7.6	1.8	3.4	5.2	8.6	4.8
介助者・支援者が確保できない	5.2	4.9	10.0	3.9	2.3	9.4	4.3
お金がかかる	18.0	13.9	14.2	33.4	20.9	20.6	29.6
発作やパニックが心配で外出できない	5.7	1.9	7.1	17.8	4.1	7.1	14.3
まわりの人の理解が不足している	12.3	8.6	24.5	17.2	6.4	14.6	27.4
切符の買い方や乗り換えの方法がわからない	5.3	3.3	15.6	5.7	0.0	9.7	9.6
その他	7.3	6.0	6.2	12.4	7.6	7.9	12.2
特にない	33.7	32.1	38.6	27.9	51.7	21.3	26.1
無回答	12.8	16.5	8.0	8.2	2.9	18.7	12.2

## (2) 社会参加に必要な支援

問 26 障害のある人の社会参加のために最も必要と思う支援は何ですか。(1つだけに○)

無回答を除くと、「移動手段の整備」が 20.8%と最も高く、次いで「外出を支援するヘルパー等」(20.7%)、「休日等の余暇活動の場の確保」(8.0%)、「外出のためのバリアの除去」(6.6%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では「外出を支援するヘルパー等」が 34.2%、「休日等の余暇活動の場の確保」は 18.9%となっています。“難病患者福祉手当”では「移動手段の整備」が 28.5%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
外出を支援するヘルパー等	20.7	17.8	34.2	17.2	27.9	17.2	21.3
休日等の余暇活動の場の確保	8.0	3.7	18.9	14.9	5.2	5.6	13.5
公民館活動等に障害者が参加できる配慮	4.8	5.7	2.7	4.3	2.3	4.9	5.2
外出のためのバリアの除去	6.6	6.6	3.5	6.2	14.0	4.1	3.9
移動手段の整備	20.8	22.8	8.8	20.8	28.5	18.7	12.2
その他	6.0	4.5	6.8	11.2	4.1	7.5	8.7
無回答	33.0	38.9	25.1	25.4	18.0	41.9	35.2

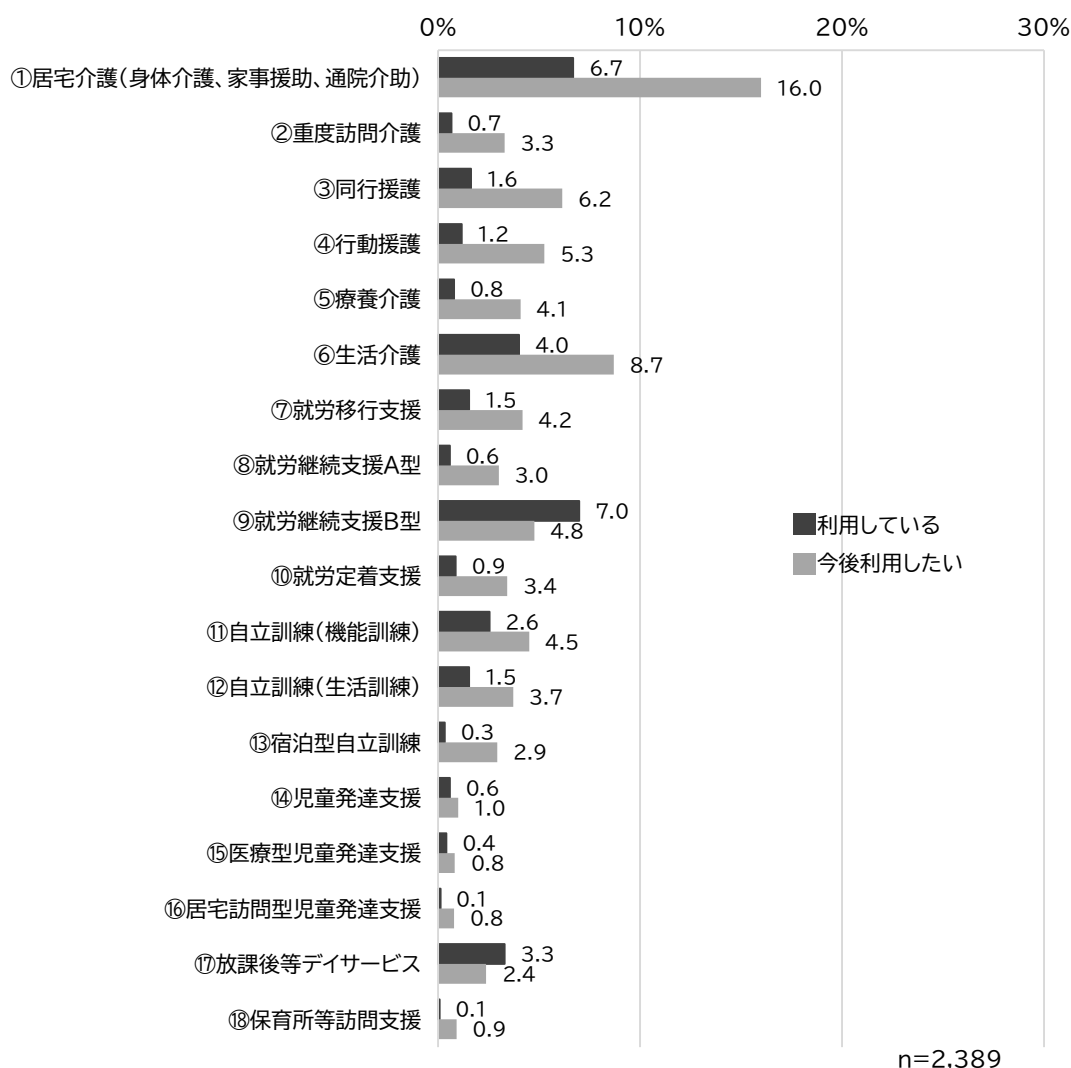
## 2-7 障害福祉サービスの利用について

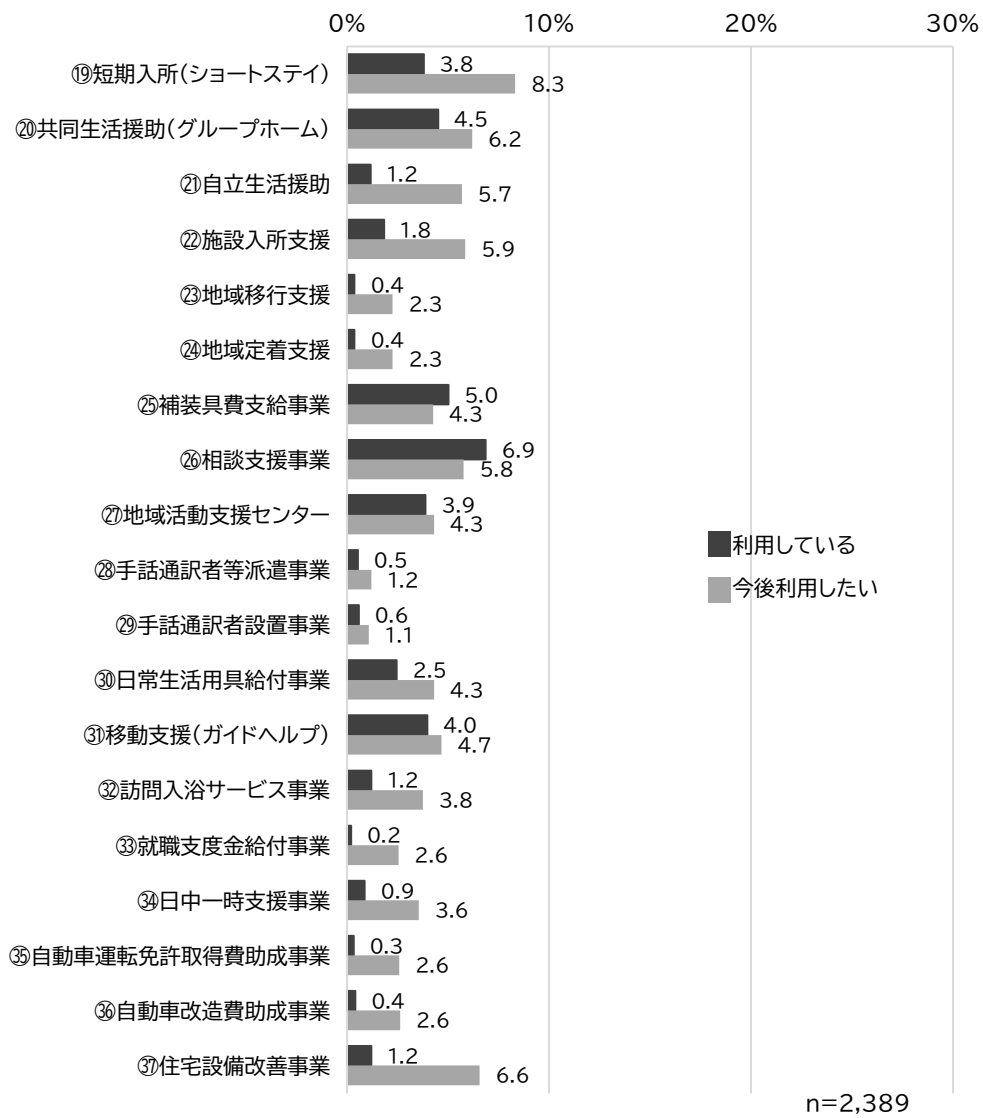
問 27 障害福祉サービスの利用について、利用している場合は、「利用している」に○をして、評価欄のいずれかに○をしてください。  
 今後利用したいサービスがあれば、「今後利用したい」に○をしてください。  
 (現在利用していて、今後も利用したい場合も○をしてください。)

### (1) 利用状況と今後の利用意向

障害者総合支援法に基づく自立支援給付サービス及び地域生活支援事業の利用状況は、⑨就労継続支援 B 型が 7.0% で最も高く、次いで⑯相談支援事業(6.9%)、①居宅介護(身体介護、家事援助、通院介助)(6.7%)の順となっています。

今後の利用意向について、①から⑯の自立支援給付サービスでは、⑨就労継続支援 B 型、⑰放課後等デイサービス、⑮補装具費支給事業、⑯相談支援事業以外は、「今後利用したい」が「利用している」を上回っています。また、⑲から⑳の地域生活支援事業では、いずれのサービスとも「今後利用したい」が「利用している」を上回っています。







## 【利用している障害福祉サービス】

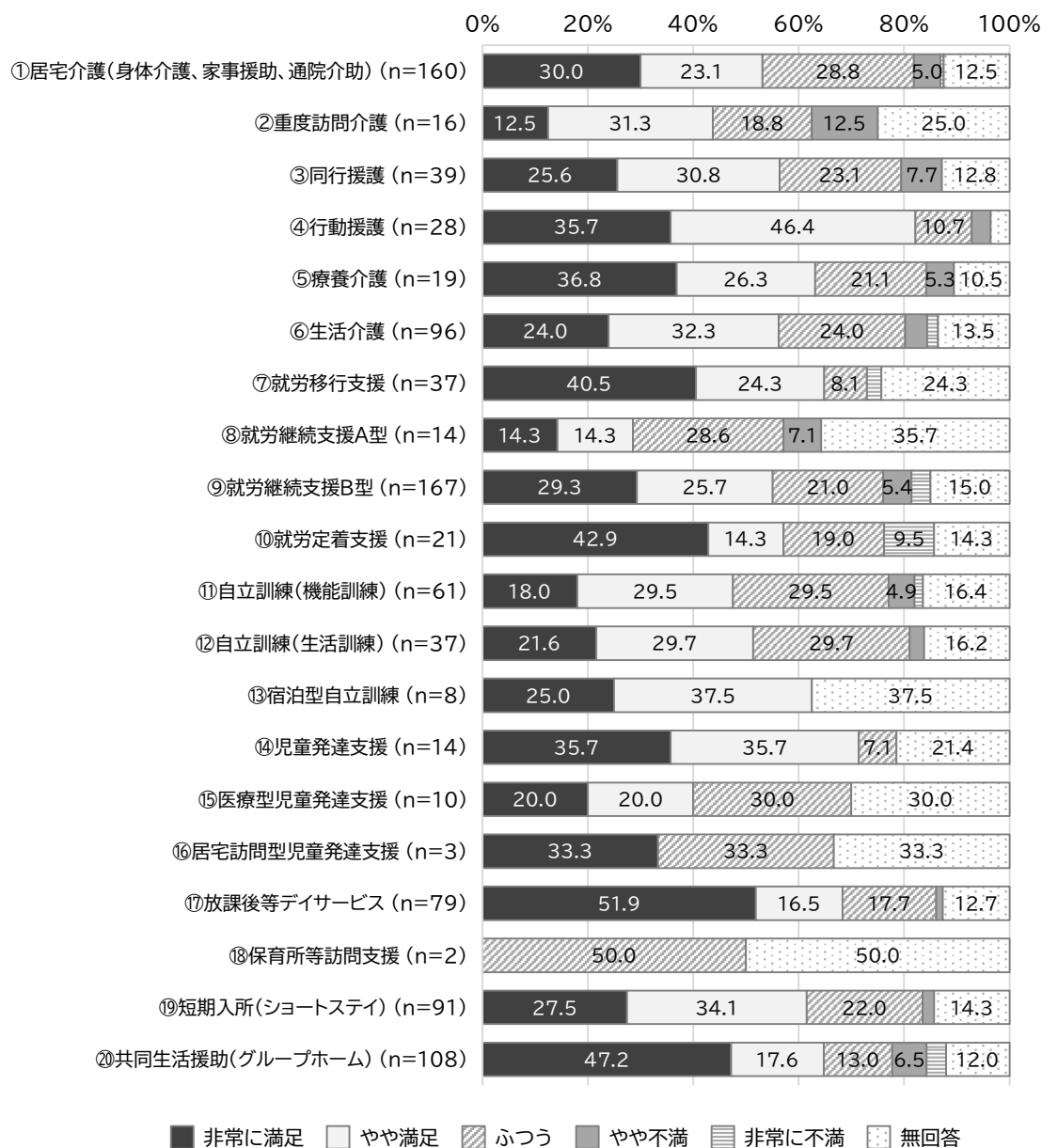
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
①居宅介護(身体介護、家事援助、通院介助)	6.7	7.9	5.0	6.2	1.2	9.0	4.3
②重度訪問介護	0.7	1.1	0.0	0.0	0.0	1.5	0.9
③同行援護	1.6	2.3	1.2	0.5	0.0	2.6	1.3
④行動援護	1.2	1.2	2.9	0.2	0.0	2.2	1.7
⑤療養介護	0.8	1.2	0.3	0.0	0.0	3.7	1.3
⑥生活介護	4.0	2.5	13.0	3.7	0.0	6.0	4.8
⑦就労移行支援	1.5	0.4	2.9	4.8	0.0	0.7	6.1
⑧就労継続支援A型	0.6	0.3	0.9	1.6	0.0	0.4	1.7
⑨就労継続支援B型	7.0	2.2	21.2	14.4	0.0	7.5	10.4
⑩就労定着支援	0.9	0.4	1.5	2.3	0.0	0.4	2.2
⑪自立訓練(機能訓練)	2.6	3.6	1.2	1.1	0.0	4.9	2.2
⑫自立訓練(生活訓練)	1.5	1.7	1.5	1.8	0.0	3.4	2.2
⑬宿泊型自立訓練	0.3	0.2	1.2	0.2	0.0	1.5	0.9
⑭児童発達支援	0.6	0.5	1.8	0.2	0.0	0.4	2.6
⑮医療型児童発達支援	0.4	0.3	1.5	0.0	0.6	0.4	2.2
⑯居宅訪問型児童発達支援	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.7	0.9
⑰放課後等デイサービス	3.3	1.9	12.7	1.4	1.2	2.2	5.7
⑱保育所等訪問支援	0.1	0.1	0.3	0.0	0.0	0.4	0.4
⑲短期入所(ショートステイ)	3.8	3.2	11.2	1.6	0.0	7.1	3.9
⑳共同生活援助(グループホーム)	4.5	1.2	24.2	2.1	0.0	4.5	6.1
㉑自立生活援助	1.2	0.9	0.3	3.2	0.0	4.9	3.9
㉒施設入所支援	1.8	1.6	4.1	1.6	0.0	3.0	0.9
㉓地域移行支援	0.4	0.5	0.0	0.5	0.0	1.1	0.9
㉔地域定着支援	0.4	0.3	0.0	0.9	0.0	1.9	1.7
㉕補装具費支給事業	5.0	7.6	2.1	0.7	0.6	6.7	3.0
㉖相談支援事業	6.9	2.8	17.4	14.9	0.0	3.7	11.7
㉗地域活動支援センター	3.9	2.4	2.9	11.2	0.0	1.9	3.9
㉘手話通訳者等派遣事業	0.5	0.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.9
㉙手話通訳者設置事業	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.9
㉚日常生活用具給付事業	2.5	3.6	1.8	0.2	0.0	3.0	1.7
㉛移動支援(ガイドヘルプ)	4.0	1.5	21.2	0.2	0.0	2.6	5.7
㉜訪問入浴サービス事業	1.2	1.9	0.0	0.2	0.0	1.5	0.9
㉝就職支度金給付事業	0.2	0.2	0.0	0.5	0.0	0.7	1.3
㉞日中一時支援事業	0.9	0.3	4.4	0.2	0.0	1.1	2.2
㉟自動車運転免許取得費助成事業	0.3	0.4	0.6	0.0	0.0	0.4	0.9
㊱自動車改造費助成事業	0.4	0.6	0.3	0.0	0.0	0.4	0.4
㊲住宅設備改善事業	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.4

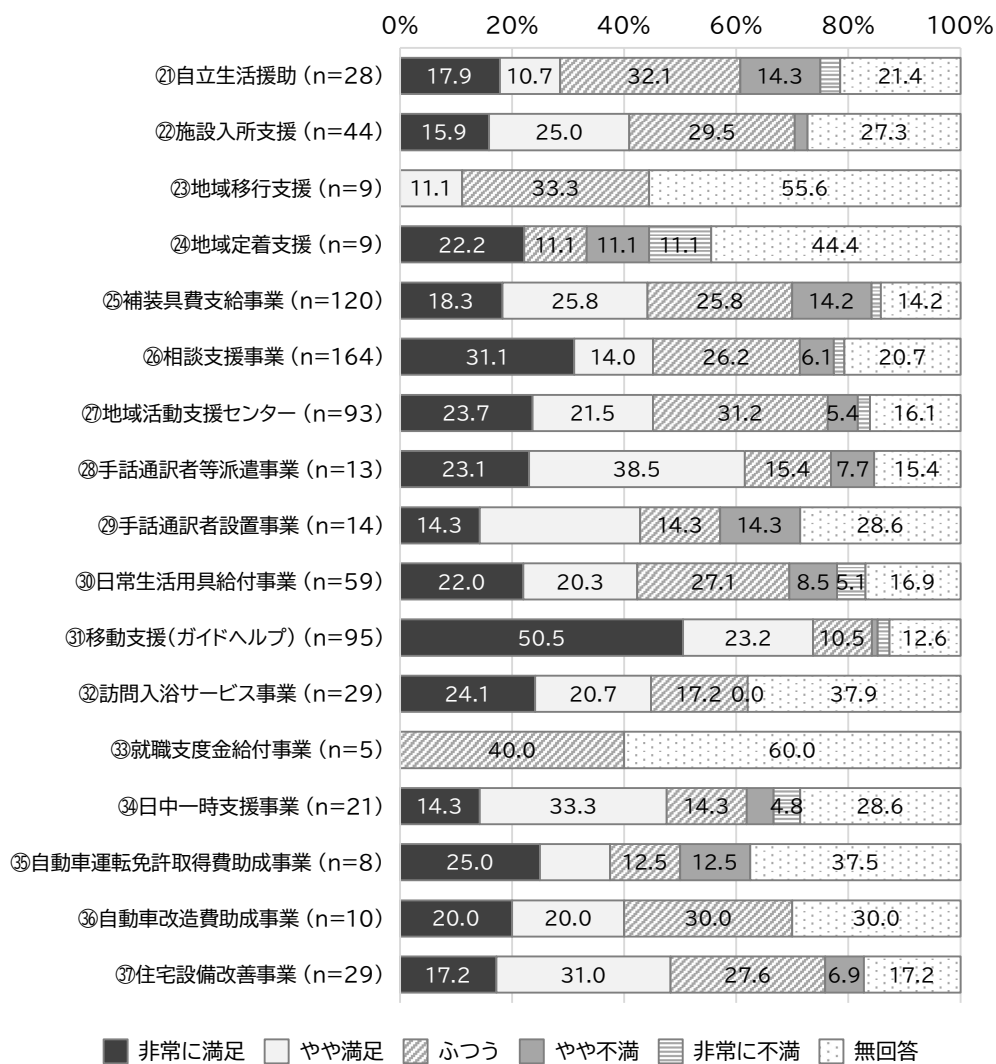
【今後、利用したい障害福祉サービス】

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
①居宅介護(身体介護、家事援助、通院介助)	16.0	18.4	8.6	14.0	15.7	16.9	9.6
②重度訪問介護	3.3	3.6	2.4	2.7	4.1	5.2	4.3
③同行援護	6.2	6.4	7.1	5.5	4.1	6.7	7.4
④行動援護	5.3	5.2	6.2	5.0	4.7	6.7	6.1
⑤療養介護	4.1	4.6	1.8	3.7	5.2	5.2	3.0
⑥生活介護	8.7	8.9	10.3	7.8	6.4	9.4	8.7
⑦就労移行支援	4.2	2.2	6.5	9.6	2.3	2.6	12.2
⑧就労継続支援A型	3.0	1.5	4.7	7.3	1.7	1.9	8.7
⑨就労継続支援B型	4.8	1.9	11.2	10.8	1.2	4.5	10.9
⑩就労定着支援	3.4	1.8	5.9	7.3	2.3	3.0	9.1
⑪自立訓練(機能訓練)	4.5	5.1	3.2	4.6	2.3	7.1	6.1
⑫自立訓練(生活訓練)	3.7	3.3	4.4	5.0	2.3	4.5	4.8
⑬宿泊型自立訓練	2.9	1.7	7.1	4.1	2.3	3.4	7.0
⑭児童発達支援	1.0	0.6	1.5	1.8	1.2	1.1	2.6
⑮医療型児童発達支援	0.8	0.6	0.6	1.6	1.7	1.1	0.4
⑯居宅訪問型児童発達支援	0.8	0.6	0.6	1.4	1.2	1.1	0.9
⑰放課後等デイサービス	2.4	1.4	5.9	3.0	2.3	2.6	3.0
⑱保育所等訪問支援	0.9	0.5	1.8	1.6	1.2	1.1	1.3
⑲短期入所(ショートステイ)	8.3	7.4	16.2	5.9	6.4	12.4	12.2
⑳共同生活援助(グループホーム)	6.2	2.6	19.8	7.3	6.4	6.4	11.3
㉑自立生活援助	5.7	5.1	6.8	7.8	2.9	7.1	10.9
㉒施設入所支援	5.9	5.6	7.7	5.0	6.4	8.2	7.0
㉓地域移行支援	2.3	1.7	3.8	2.7	2.3	4.5	5.7
㉔地域定着支援	2.3	1.7	3.2	3.4	2.3	4.5	4.8
㉕補装具費支給事業	4.3	5.6	2.1	2.1	3.5	4.1	2.6
㉖相談支援事業	5.8	4.2	9.7	8.9	2.9	4.9	8.7
㉗地域活動支援センター	4.3	3.1	5.0	8.7	1.7	4.5	7.8
㉘手話通訳者等派遣事業	1.2	1.2	0.9	1.4	1.2	1.5	0.9
㉙手話通訳者設置事業	1.1	1.1	0.6	1.4	1.2	1.5	0.4
㉚日常生活用具給付事業	4.3	5.5	2.4	2.1	4.1	4.9	4.8
㉛移動支援(ガイドヘルプ)	4.7	3.3	13.6	3.2	2.3	4.5	6.1
㉜訪問入浴サービス事業	3.8	4.6	0.9	2.5	5.2	5.2	1.7
㉝就職支度金給付事業	2.6	1.4	2.7	5.7	4.1	2.6	7.4
㉞日中一時支援事業	3.6	3.3	5.9	3.2	1.7	3.4	3.9
㉟自動車運転免許取得費助成事業	2.6	1.9	3.8	4.1	1.7	3.7	6.1
㊱自動車改造費助成事業	2.6	3.2	1.5	2.1	1.7	3.4	3.0
㊲住宅設備改善事業	6.6	8.3	2.7	4.8	4.7	7.1	6.1

## (2) 利用者における評価

「非常に満足」と「やや満足」を合わせて、満足度が60%を超えているサービスは、④行動援護(82.1%)、⑳移動支援(ガイドヘルプ)(73.7%)、⑭児童発達支援(71.4%)、⑰放課後等デイサービス(68.4%)、㉑共同生活援助(グループホーム)(64.8%)、⑤療養介護(63.2%)、⑬宿泊型自立訓練(62.5%)、㉒手話通訳者等派遣事業(61.5%)となっています。



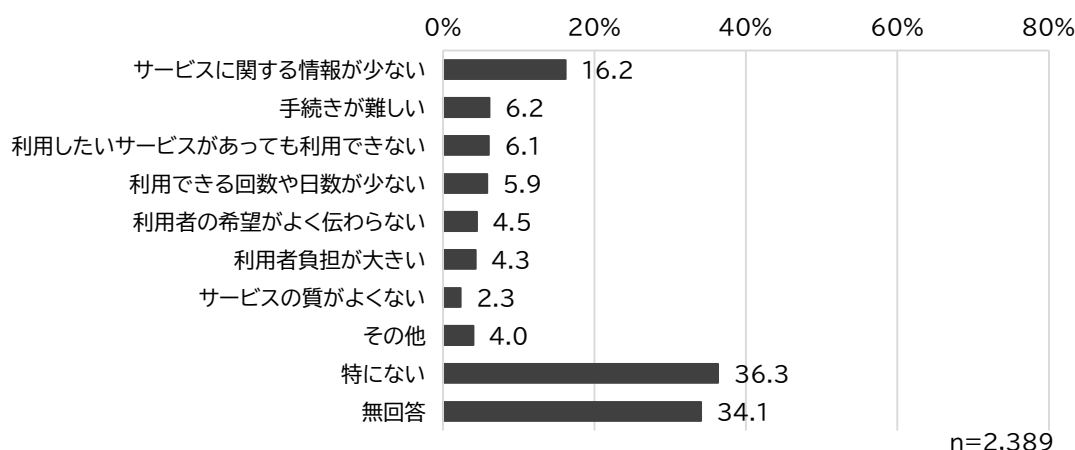


### (3) サービス利用に関して困っていること

問 28 サービス利用に関して困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」が 36.3%と最も高く、次いで「サービスに関する情報が少ない」(16.2%)、「手続きが難しい」(6.2%)、「利用したいサービスがあっても利用できない」(6.1%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「サービスに関する情報が少ない」が 20%を超えています。“愛の手帳”では、「利用したいサービスがあっても利用できない」が 15.3%、「利用できる回数や日数が少ない」は 12.1%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
利用したいサービスがあっても利用できない	6.1	4.3	15.3	6.6	1.2	7.1	10.4
利用できる回数や日数が少ない	5.9	4.2	12.1	8.0	1.7	6.0	9.1
サービスの質がよくない	2.3	1.9	1.5	5.0	1.2	4.1	5.2
利用者の希望がよく伝わらない	4.5	3.5	6.5	7.6	1.2	9.0	8.7
利用者負担が大きい	4.3	4.9	1.5	5.3	2.9	10.1	6.5
手続きが難しい	6.2	4.2	7.4	11.4	6.4	10.9	12.6
サービスに関する情報が少ない	16.2	12.6	17.1	25.9	20.3	15.7	26.5
その他	4.0	3.1	3.8	5.9	7.0	2.6	7.8
特にない	36.3	33.6	43.4	36.8	44.2	26.2	27.4
無回答	34.1	42.7	17.7	21.1	26.7	39.3	24.3

## 2-8 福祉や生活に関する相談について

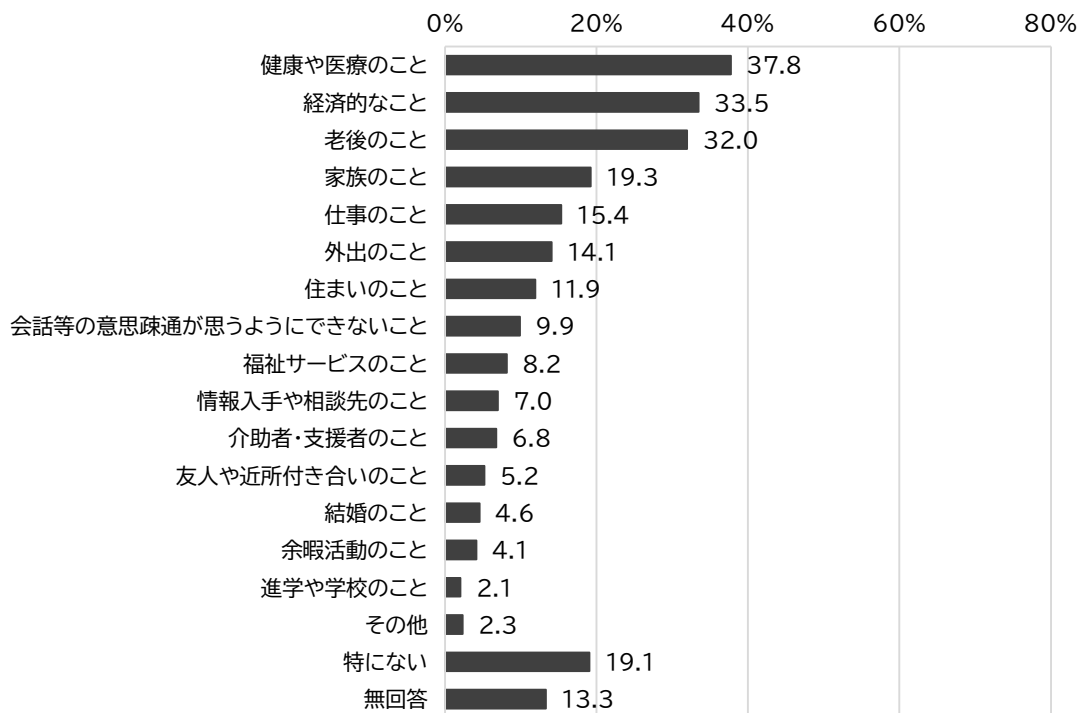
### (1) 生活で困っていること

問 29 あなたは、現在の生活で困ったり、不安に思っていることがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「健康や医療のこと」が 37.8%と最も高く、次いで「経済的なこと」(33.5%)、「老後のこと」(32.0%)、「家族のこと」(19.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「経済的なこと」が 40%を超えています。さらに、“精神障害者保健福祉手帳”と“難病患者福祉手当”では、「健康や医療のこと」も 45%を超えています。

“発達障害がある”と”愛の手帳“では「会話等の意思疎通が思うようにできないこと」が 20%を超えています。



n=2,389

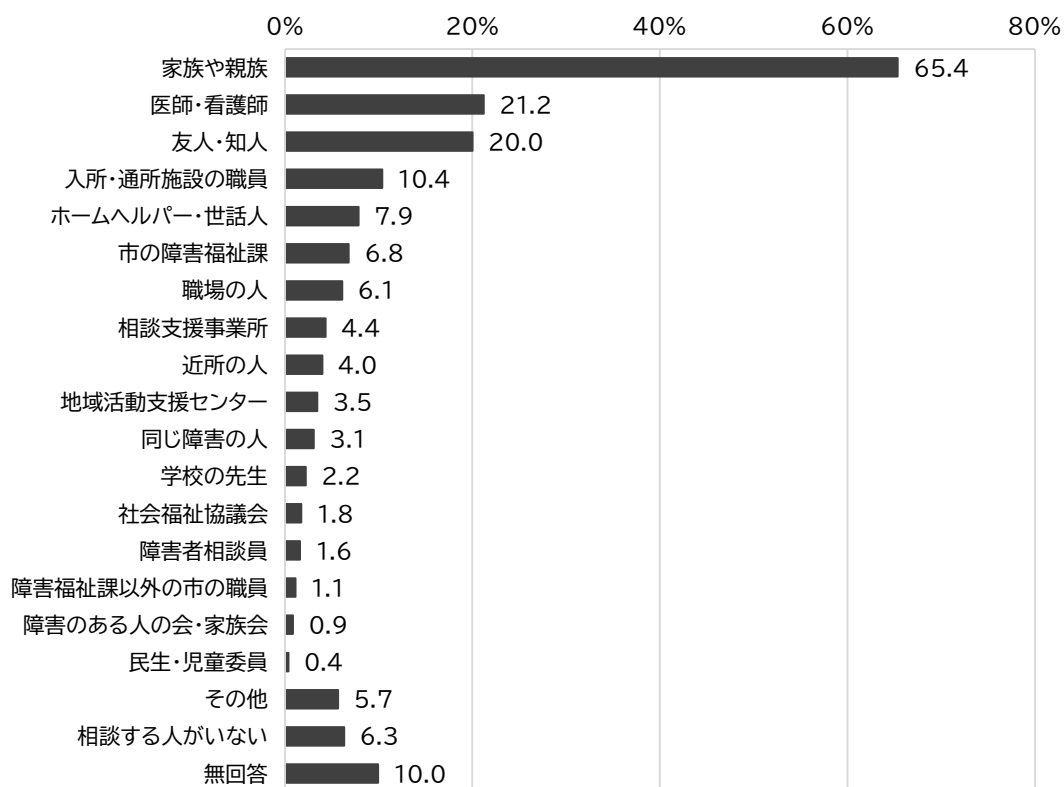
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
仕事のこと	15.4	7.9	17.7	35.9	20.9	10.5	31.7
経済的なこと	33.5	26.6	26.3	57.7	44.2	29.6	44.8
健康や医療のこと	37.8	35.5	28.3	48.1	48.8	36.7	38.7
住まいのこと	11.9	9.0	10.3	23.3	11.0	12.0	18.7
外出のこと	14.1	11.5	16.2	23.1	8.7	17.2	18.3
家族のこと	19.3	16.1	15.6	31.1	22.7	17.2	27.4
余暇活動のこと	4.1	2.2	8.0	8.5	2.3	1.9	10.0
介助者・支援者のこと	6.8	7.1	8.8	6.2	1.7	11.6	8.3
福祉サービスのこと	8.2	7.6	9.7	10.1	5.2	12.4	9.1
情報入手や相談先のこと	7.0	5.1	8.3	13.0	5.2	6.0	12.6
進学や学校のこと	2.1	0.9	6.5	3.2	0.0	1.9	9.6
結婚のこと	4.6	1.9	7.4	11.0	5.2	3.0	10.0
老後のこと	32.0	27.3	27.7	45.8	44.2	30.7	33.0
友人や近所付き合いのこと	5.2	2.4	5.9	15.6	1.7	4.1	13.0
会話等の意思疎通が思うようにできないこと	9.9	7.0	22.7	12.6	2.3	10.9	23.5
その他	2.3	1.8	2.9	3.9	1.7	3.4	5.2
特になし	19.1	21.1	20.1	11.0	20.9	14.6	13.9
無回答	13.3	18.2	8.0	4.8	4.7	15.4	8.3

## (2) 困っていることの相談先

問 30 あなたが困ったり不安を感じた時に、誰(どこ)に相談していますか。  
(よく相談している人や場所に○)

「家族や親族」が 65.4%と最も高く、次いで「医師・看護師」(21.2%)、「友人・知人」(20.0%)、「入所・通所施設の職員」(10.4%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”では、「入所・通所施設の職員」が 26.3%となっています。“精神障害者保健福祉手帳”と“難病患者福祉手当”では、「医師・看護師」が 30%前後となっています。



n=2,389



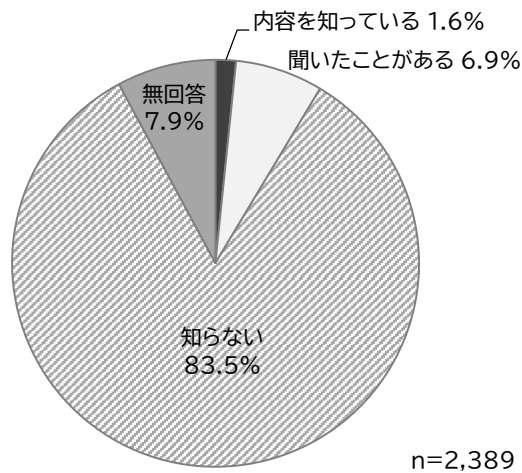
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
家族や親族	65.4	67.7	58.4	58.6	76.7	58.1	57.0
友人・知人	20.0	19.7	9.1	24.0	33.7	21.7	17.8
近所の人	4.0	5.3	1.2	1.8	4.1	6.0	3.9
職場の人	6.1	3.2	16.5	6.4	9.3	4.5	7.4
同じ障害の人	3.1	2.7	2.4	5.5	1.7	2.2	4.3
障害者の会・家族会	0.9	1.0	1.5	0.5	0.0	0.4	0.9
ホームヘルパー・世話人	7.9	6.3	19.2	6.4	2.3	10.5	8.7
入所・通所施設の職員	10.4	6.5	26.3	14.6	0.6	9.0	15.2
学校の先生	2.2	0.4	11.5	1.8	0.0	0.4	8.3
医師・看護師	21.2	19.6	11.2	31.6	27.9	17.6	19.6
民生・児童委員	0.4	0.4	0.3	0.5	0.0	0.7	0.0
障害者相談員	1.6	1.4	2.7	2.3	0.0	2.2	3.0
市の障害福祉課	6.8	6.2	8.6	9.2	2.9	8.2	10.0
障害福祉課以外の市の職員	1.1	0.6	1.8	2.7	0.6	1.5	2.6
相談支援事業所	4.4	1.9	15.0	5.7	0.0	2.2	7.0
地域活動支援センター	3.5	3.2	2.9	5.9	0.6	6.7	5.2
社会福祉協議会	1.8	1.2	1.8	4.3	0.0	1.9	1.3
その他	5.7	4.1	5.6	11.7	4.1	7.9	12.6
相談する人がいない	6.3	5.1	4.7	10.3	9.3	8.2	10.9
無回答	10.0	13.6	5.6	3.7	4.1	12.0	6.1

### (3) 地域生活支援拠点 ういずねっと i について

#### ① 認知度

問 31 あなたは、「地域生活支援拠点 ういずねっと i」を知っていますか。(1つだけに○)

「知らない」が 83.5%、「聞いたことがある」は 6.9%、「内容を知っている」は 1.6%となっています。

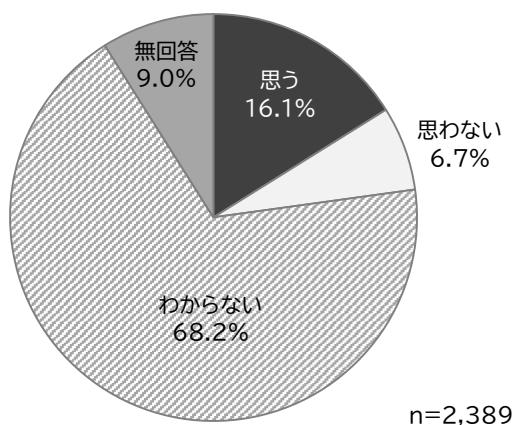


	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
内容を知っている	1.6	1.7	2.4	1.6	0.0	1.9	1.3
聞いたことがある	6.9	7.6	9.7	3.7	4.1	6.7	8.7
知らない	83.5	80.2	83.5	90.8	93.0	80.1	85.2
無回答	7.9	10.5	4.4	3.9	2.9	11.2	4.8

②今後の利用意向

問 32 「地域生活支援拠点 ういずねっとi」を今後利用したいと思いますか。(1つだけに○)

「わからない」が68.2%、「思う」は16.1%、「思わない」は6.7%となっています。  
 障害等の別にみると、“発達障害がある”と“愛の手帳”では、「思う」が20%を超えています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
思う	16.1	14.2	23.9	18.3	11.6	19.1	24.3
思わない	6.7	7.0	3.5	8.5	5.8	6.0	5.7
わからない	68.2	66.7	67.6	69.1	80.2	64.0	64.3
無回答	9.0	12.1	5.0	4.1	2.3	10.9	5.7

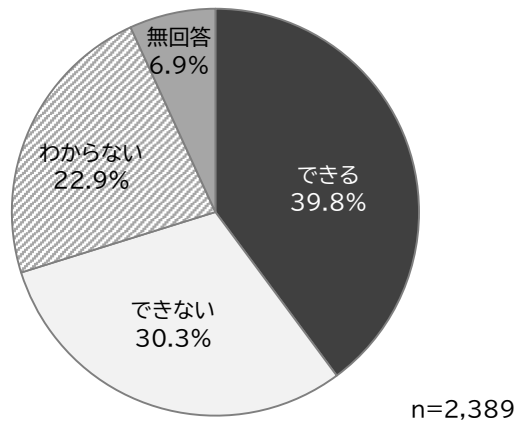
## 2-9 災害時の避難・対策等について

### (1) 災害時の状況

#### ① 避難の状況

問 33 あなたは、火事や地震、風水害等の災害時にひとりで避難できますか。(1つだけに○)

「できる」が 39.8%、「できない」は 30.3%、「わからない」は 22.9%となっています。  
障害等の別にみると、“愛の手帳”では「できない」が 45.1%となっています。



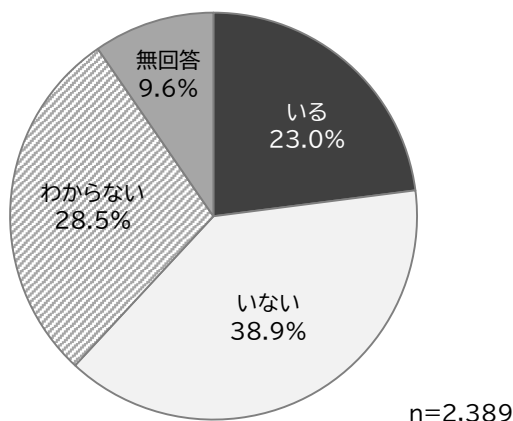
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
できる	39.8	37.8	26.0	45.5	69.8	31.5	36.1
できない	30.3	34.4	45.1	14.4	8.1	33.3	26.5
わからない	22.9	19.2	25.7	35.9	16.3	24.3	32.6
無回答	6.9	8.7	3.2	4.1	5.8	10.9	4.8

②助けてくれる人の有無

問 34 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。  
(1つだけに○)

「いない」が 38.9%、「わからない」は 28.5%、「いる」は 23.0%となっています。

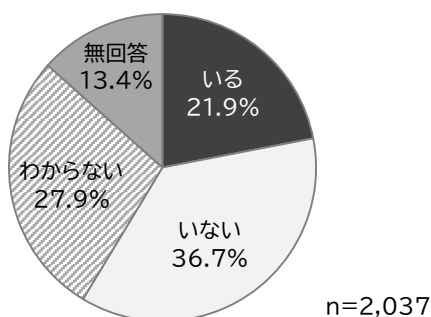
障害等の別に見ると、“精神障害者保健福祉手帳”と“発達障害がある”では、「いない」が 50%を超えています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
いる	23.0	24.1	24.2	17.4	25.6	22.1	15.7
いない	38.9	35.7	38.9	52.2	32.0	40.8	51.3
わからない	28.5	27.7	31.6	25.4	36.6	25.5	28.3
無回答	9.6	12.5	5.3	5.0	5.8	11.6	4.8

《前回調査》

問 35 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。  
(1つだけに○)



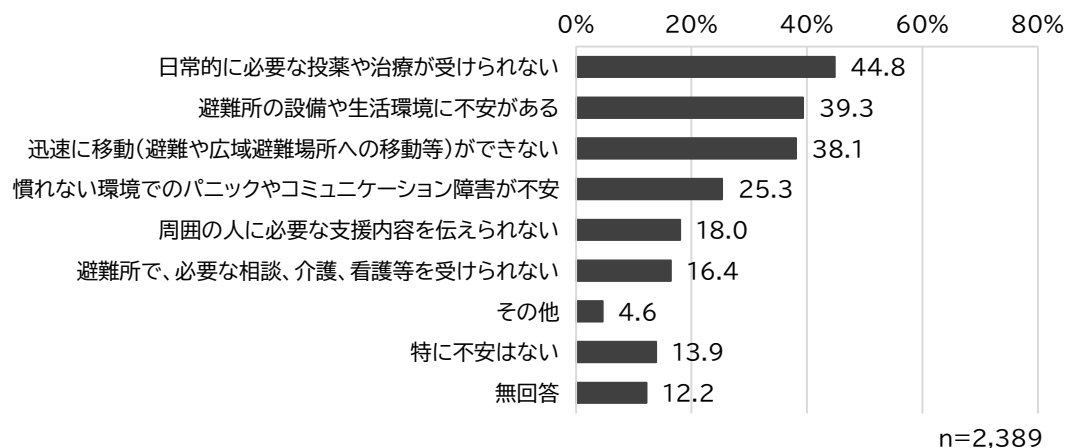
## (2) 災害時に困ること

問 35 火事や地震、風水害等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「日常的に必要な投薬や治療が受けられない」が 44.8%と最も高く、次いで「避難所の設備や生活環境に不安がある」(39.3%)、「迅速に移動(避難や広域避難場所への移動等)ができない」(38.1%)、「慣れない環境でのパニックやコミュニケーション障害が不安」(25.3%)の順となっています。

障害等の別にみると、“愛の手帳”、“発達障害がある”、“精神障害者保健福祉手帳”では、「慣れない環境でのパニックやコミュニケーション障害が不安」が 45%を超えています。“愛の手帳”では「周囲の人に必要な支援内容を伝えられない」も 44.0%となっています。

“難病患者福祉手当”では、「日常的に必要な投薬や治療が受けられない」が 62.2%と、他の障害等に比べてかなり高くなっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
日常的に必要な投薬や治療が受けられない	44.8	42.2	29.2	58.8	62.2	42.7	41.3
迅速に移動(避難や広域避難場所への移動等)ができない	38.1	44.5	39.8	24.3	16.9	49.4	33.0
周囲の人に必要な支援内容を伝えられない	18.0	12.9	44.0	20.4	4.1	24.0	30.0
避難所の設備や生活環境に不安がある	39.3	36.2	44.5	46.7	36.6	35.6	42.6
避難所で、必要な相談、介護、看護を受けられない	16.4	15.1	20.1	19.7	11.6	16.9	20.4
慣れない環境でのパニックやコミュニケーション障害が不安	25.3	15.2	50.7	45.1	9.9	24.3	47.0
その他	4.6	3.5	3.5	9.4	4.1	7.1	11.3
特に不安はない	13.9	14.8	11.2	12.8	14.0	12.4	10.9
無回答	12.2	15.5	8.0	5.7	9.3	13.5	7.0

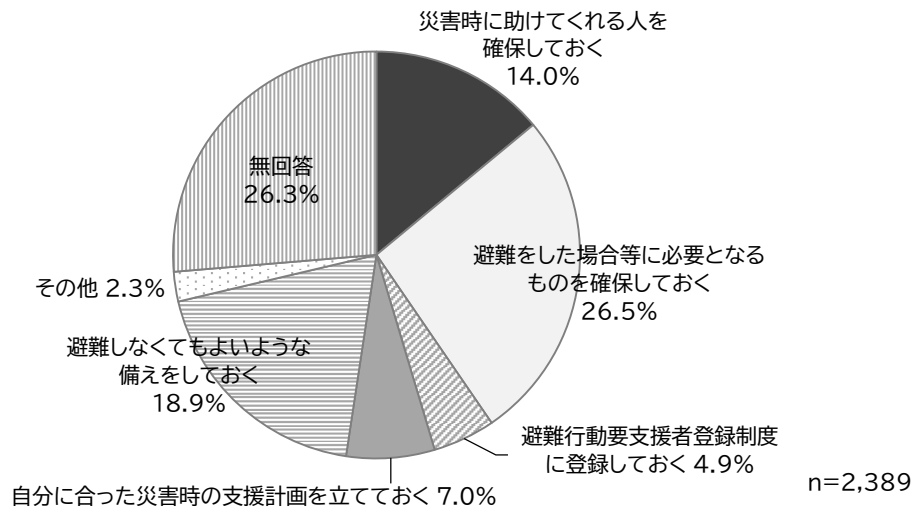
### (3) 災害時への備え

#### ①必要だと思う備え

問 36 あなたは、災害に対してどのような備えをしておくことが最も必要だと思いますか。  
(1つだけに○)

「避難をした場合等に必要となるものを確保しておく」が 26.5%と最も高く、次いで「避難しなくてもよいような備えをしておく」(18.9%)、「災害時に助けてくれる人を確保しておく」(14.0%)の順となっています。

障害等の別にみると、“難病患者福祉手当”では「避難をした場合等に必要となるものを確保しておく」が 45.3%と、他の障害等に比べてかなり高くなっています。



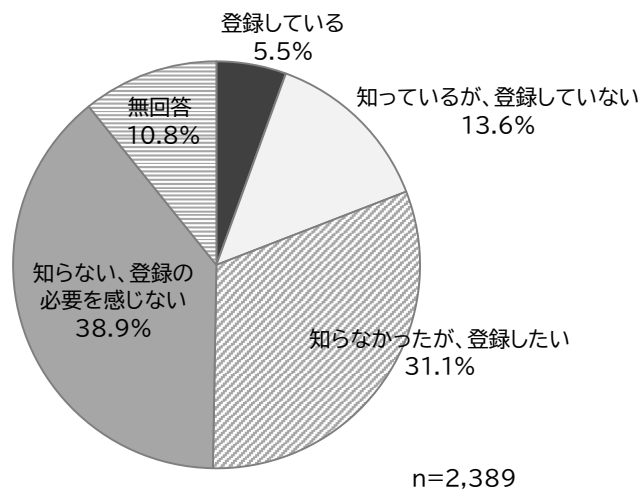
	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
災害時に助けてくれる人を確保しておく	14.0	13.6	23.0	11.9	4.7	16.1	13.5
避難をした場合等に必要となるものを確保しておく	26.5	24.4	16.8	33.2	45.3	18.7	26.5
避難行動要支援者登録制度に登録しておく	4.9	6.0	5.0	2.5	1.7	9.0	3.9
自分に合った災害時の支援計画を立てておく	7.0	6.4	9.4	7.3	7.0	10.5	9.1
避難しなくてもよいような備えをしておく	18.9	18.5	19.2	18.8	22.1	11.2	13.5
その他	2.3	1.8	3.2	3.7	1.7	3.7	4.3
無回答	26.3	29.2	23.3	22.7	17.4	30.7	29.1

②避難行動要支援者登録制度への登録

問 37 あなたは、「避難行動要支援者登録制度」に登録していますか。(1つだけに○)

「知らない、登録の必要を感じない」が 38.9%と最も高く、次いで「知らなかったが、登録したい」(31.1%)、「知っているが、登録していない」(13.6%)、「登録している」(5.5%)の順となっています。

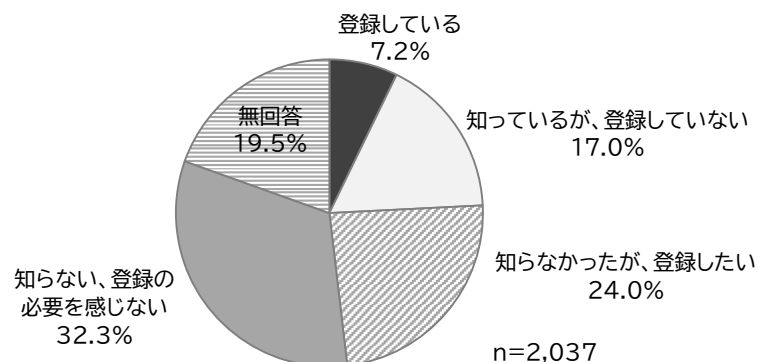
障害等の別にみると、“発達障害がある”と“高次脳機能障害がある”では、「知らなかったが、登録したい」が 40%前後となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
登録している	5.5	6.4	7.1	3.7	0.0	5.2	7.0
知っているが、登録していない	13.6	14.9	13.9	11.2	8.7	13.1	14.8
知らなかったが、登録したい	31.1	32.0	36.9	27.9	20.9	42.3	39.6
知らない、登録の必要を感じない	38.9	33.4	34.5	51.3	62.2	25.1	30.0
無回答	10.8	13.3	7.7	5.9	8.1	14.2	8.7

《前回調査》

問 38 あなたは、「災害時要支援者名簿」に登録していますか。(1つだけに○)

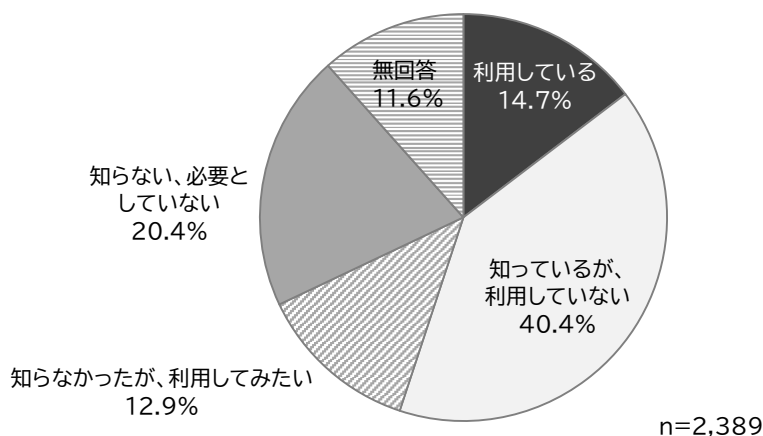




③ヘルプカードの利用

問 38 あなたは、「ヘルプカード」を利用していますか。(1つだけに○)

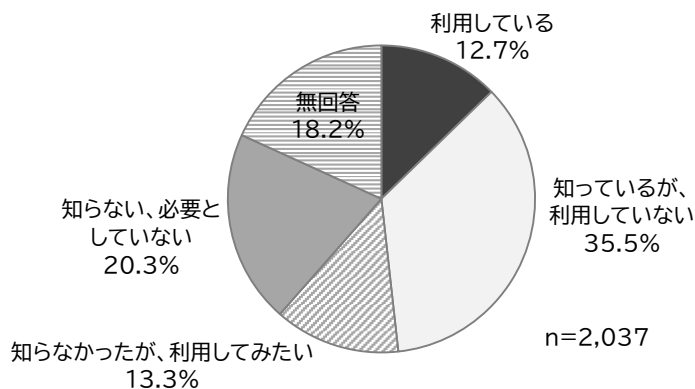
「知っているが、利用していない」が 40.4%と最も高く、次いで「知らない、必要としていない」(20.4%)、「利用している」(14.7%)、「知らなかったが、利用してみたい」(12.9%)の順となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
利用している	14.7	12.4	28.0	14.2	8.1	12.7	20.9
知っているが、利用していない	40.4	38.0	43.4	43.7	46.5	34.8	37.0
知らなかったが、利用してみたい	12.9	15.3	8.6	10.3	8.1	21.3	18.7
知らない、必要としていない	20.4	19.8	13.0	24.7	29.7	13.1	10.4
無回答	11.6	14.5	7.1	7.1	7.6	18.0	13.0

《前回調査》

問 39 あなたは、「ヘルプカード」を利用していますか。(1つだけに○)



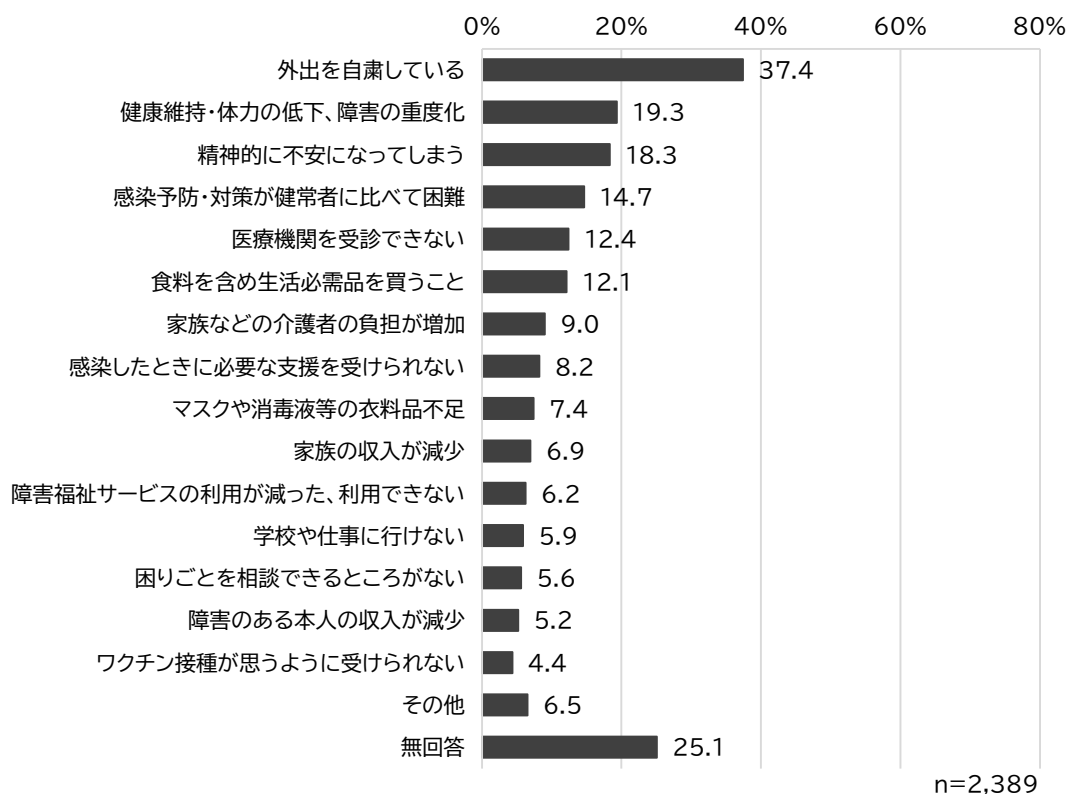
## 2-10 新型コロナウイルス感染症の生活への影響について

### (1) コロナ禍で困ったこと

問 39 あなたが、コロナ禍で困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「外出を自粛している」が 37.4%と最も高く、次いで「健康維持・体力の低下、障害の重度化」(19.3%)、「精神的に不安になってしまう」(18.3%)、「感染予防・対策が健常者に比べて困難」(14.7%)、「医療機関を受診できない」(12.4%)、「食料を含め生活必需品を買うこと」(12.1%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”と“発達障害がある”では、「精神的に不安になってしまう」が 25%を超えています。

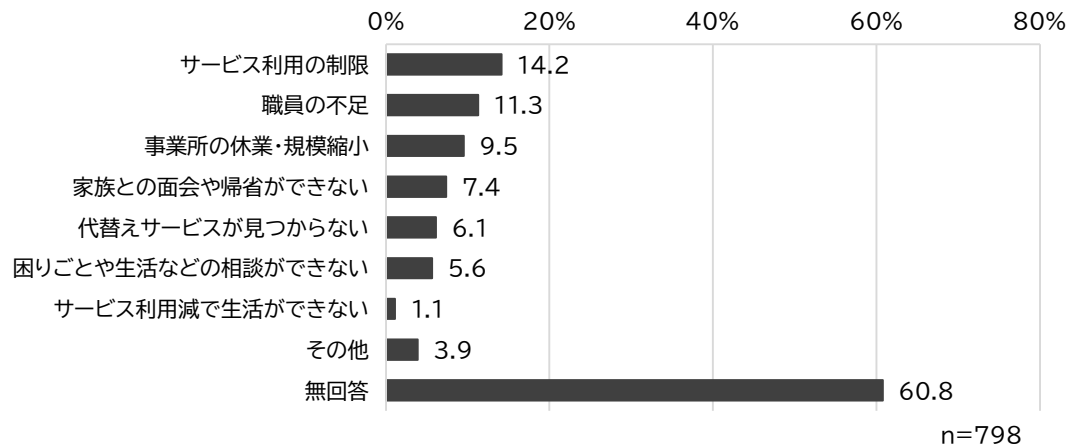


	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
感染予防・対策が健常者に比べて困難	14.7	13.4	26.0	9.8	15.1	17.2	16.1
医療機関を受診できない	12.4	11.1	14.7	11.9	20.3	11.6	12.2
マスクや消毒液等の衣料品不足	7.4	5.1	8.6	12.6	11.0	7.5	8.3
外出を自粛している	37.4	38.1	41.0	30.0	43.6	30.3	30.4
食料を含め生活必需品を買うこと	12.1	11.1	8.3	19.2	10.5	20.2	15.7
健康維持・体力の低下、障害の重度化	19.3	20.5	10.0	22.2	20.9	19.9	17.8
学校や仕事に行けない	5.9	2.8	15.6	7.6	8.1	4.9	17.8
障害福祉サービスの利用が減った、利用できない	6.2	4.2	15.3	8.0	1.2	6.0	9.6
障害のある本人の収入が減少	5.2	4.1	5.6	8.5	5.2	7.5	7.8
家族の収入が減少	6.9	6.0	7.7	8.0	11.0	10.5	12.6
困りごとを相談できるところがない	5.6	4.9	4.4	10.1	2.3	9.4	9.1
精神的に不安になってしまう	18.3	12.7	18.6	37.5	16.3	19.5	28.7
家族などの介護者の負担が増加	9.0	9.9	11.2	5.9	4.7	10.5	9.1
ワクチン接種が思うように受けられない	4.4	3.7	3.2	6.4	7.0	6.4	6.1
感染したときに必要な支援を受けられない	8.2	7.8	9.1	9.2	8.1	10.5	12.2
その他	6.5	5.0	7.1	12.8	2.3	8.2	12.2
無回答	25.1	29.5	17.1	18.1	21.5	24.3	19.6

## (2) 障害福祉サービス利用で困ったこと

問 40 障害福祉サービス利用で困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)  
 ※問 27 で障害福祉サービスを利用していると回答した人

無回答を除くと、「サービス利用の制限」が 14.2%と最も高く、次いで「職員の不足」(11.3%)、「事業所の休業・規模縮小」(9.5%)の順となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	798	391	232	170	5	90	93
事業所の休業・規模縮小	9.5	7.7	12.5	10.0	0.0	7.8	10.8
サービス利用の制限	14.2	12.5	13.8	18.8	0.0	15.6	18.3
代替えサービスが見つからない	6.1	5.1	7.8	5.9	20.0	7.8	9.7
サービス利用減で生活ができない	1.1	1.5	0.4	1.2	0.0	6.7	3.2
職員の不足	11.3	10.7	13.8	9.4	0.0	14.4	17.2
困りごとや生活などの相談ができない	5.6	5.1	4.3	8.8	0.0	13.3	7.5
家族との面会や帰省ができない	7.4	7.2	11.2	2.9	0.0	7.8	2.2
その他	3.9	2.6	4.7	5.9	0.0	8.9	6.5
無回答	60.8	69.1	47.4	59.4	80.0	46.7	49.5

## 2-11 障害のある人の権利擁護・理解促進について

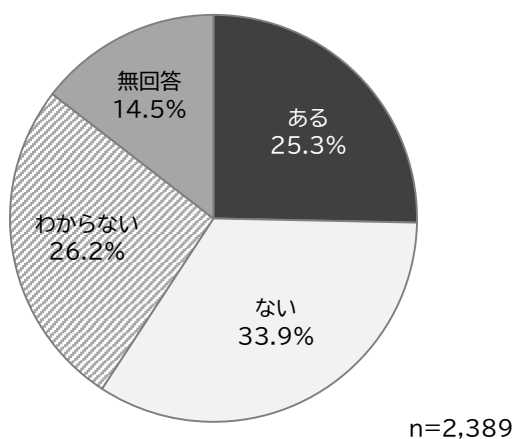
### (1) 差別・偏見や疎外感

#### ① 差別・偏見や疎外感を感じること

問 41 あなたは日常生活で、障害のある人への差別・偏見や疎外感を感じることはありますか。(1つに○)

「ない」が 33.9%、「わからない」は 26.2%、「ある」は 25.3%となっています。

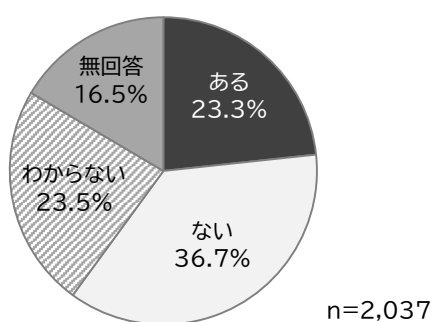
障害等の別に見ると、「発達障害がある」、「精神障害者保健福祉手帳」、「愛の手帳」では、「ある」が 35%を超えています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
ある	25.3	18.3	35.4	42.6	20.9	25.5	45.7
ない	33.9	39.1	23.0	26.5	30.2	33.0	21.3
わからない	26.2	22.8	35.4	25.2	40.1	22.1	21.3
無回答	14.5	19.8	6.2	5.7	8.7	19.5	11.7

#### 《前回調査》

問 40 あなたは日常生活で、障害のある人への差別・偏見や疎外感を感じることはありますか。(1つに○)



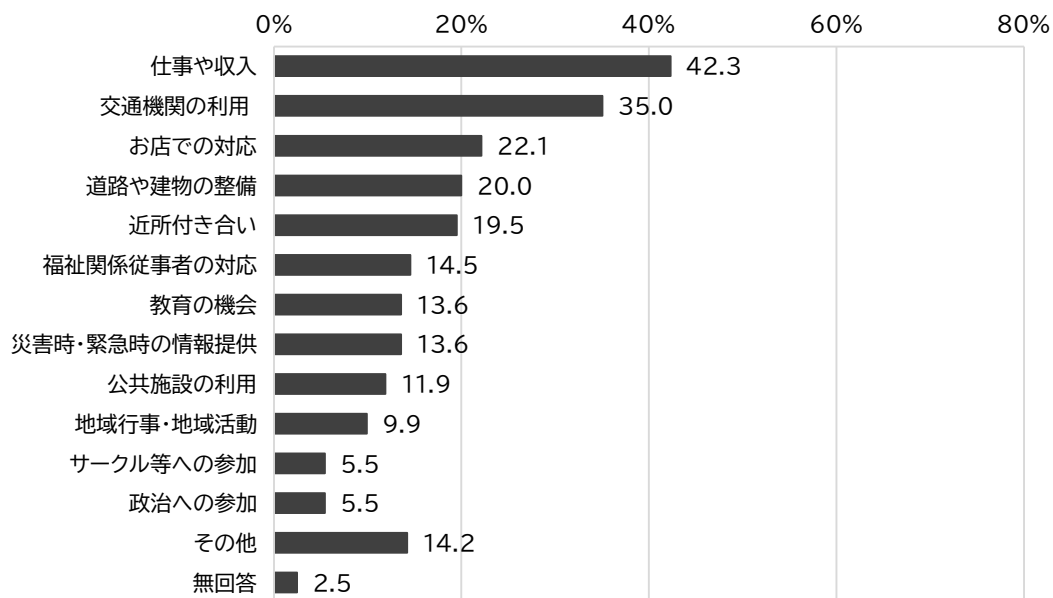
## ②差別・偏見や疎外感を感じる場面

問 42 どのようなところに、差別・偏見や疎外感を感じますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※問 41 で差別・偏見や疎外感を感じたことがあると回答した人

「仕事や収入」が 42.3%と最も高く、次いで「交通機関の利用」(35.0%)、「お店での対応」(22.1%)、「道路や建物の整備」(20.0%)、「近所付き合い」(19.5%)の順となっています。

障害等の別にみると、“難病患者福祉手当”、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達障害がある”では「仕事や収入」が 50%を超えています。“身体障害者手帳”では、「交通機関の利用」が 45.6%となっています。“愛の手帳”では「お店での対応」が 36.7%となっています。



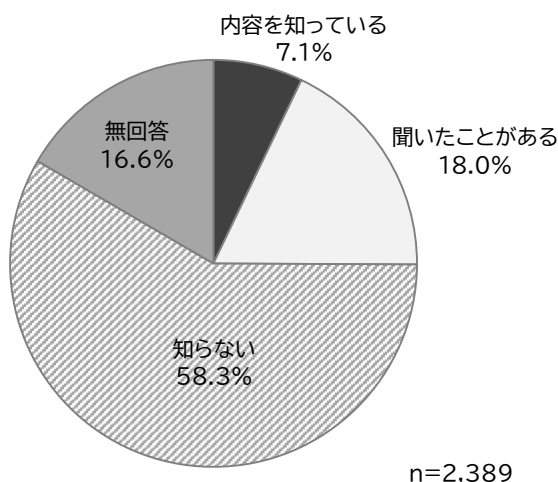
n=605

	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	605	263	120	186	36	68	105
教育の機会	13.6	11.4	22.5	9.7	19.4	8.8	21.0
仕事や収入	42.3	33.8	35.8	54.8	61.1	26.5	50.5
サークル等への参加	5.5	3.8	8.3	7.0	0.0	8.8	10.5
地域行事・地域活動	9.9	11.0	12.5	7.0	8.3	10.3	9.5
近所付き合い	19.5	14.8	21.7	25.3	16.7	20.6	24.8
お店での対応	22.1	22.1	36.7	14.0	16.7	16.2	22.9
道路や建物の整備	20.0	35.4	5.8	7.0	22.2	22.1	14.3
交通機関の利用	35.0	45.6	30.0	24.2	30.6	32.4	26.7
福祉関係従事者の対応	14.5	13.7	10.8	19.4	8.3	22.1	17.1
災害時・緊急時の情報提供	13.6	21.7	5.8	8.1	8.3	23.5	13.3
政治への参加	5.5	4.6	4.2	8.1	2.8	1.5	7.6
公共施設の利用	11.9	12.9	12.5	9.7	13.9	14.7	15.2
その他	14.2	11.8	10.0	19.4	19.4	14.7	17.1
無回答	2.5	2.7	3.3	2.2	0.0	5.9	3.8

## (2) 障害者差別解消法の認知状況

問 43 あなたは平成 28 年 4 月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。(1つに○)

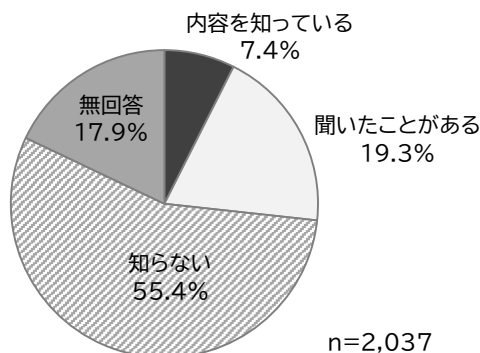
「知らない」が 58.3%、「聞いたことがある」は 18.0%、「内容を知っている」は 7.1%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
内容を知っている	7.1	6.8	10.6	6.6	4.1	6.7	12.2
聞いたことがある	18.0	17.3	19.2	18.8	19.2	14.2	18.7
知らない	58.3	53.9	61.1	67.7	65.7	59.2	59.1
無回答	16.6	22.0	9.1	6.9	11.0	19.9	10.0

### 《前回調査》

問 42 あなたは平成 28 年 4 月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。(1つに○)



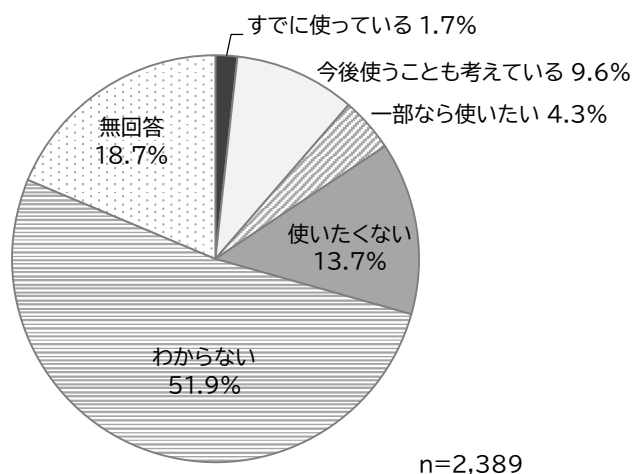


### (3) 成年後見制度の利用

問44 あなたは、「成年後見制度」を使うことについて、どう思いますか。(1つに○)

「わからない」が 51.9%と最も高く、次いで「使いたくない」(13.7%)、「今後使うことも考えている」(9.6%)の順となっています。

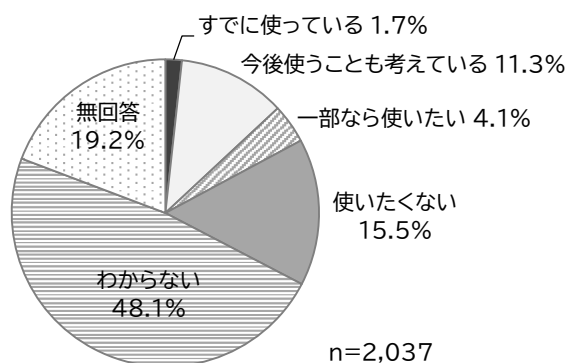
障害等の別にみると、“愛の手帳”では「今後使うことも考えている」が 21.8%となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
すでに使っている	1.7	1.0	5.0	2.3	0.0	2.2	2.6
今後使うことも考えている	9.6	6.9	21.8	10.3	6.4	12.0	15.2
一部なら使いたい	4.3	3.3	4.7	7.1	5.2	3.0	3.5
使いたくない	13.7	14.4	6.5	16.0	16.9	7.9	11.7
わからない	51.9	49.8	53.1	55.8	58.1	55.1	55.2
無回答	18.7	24.7	8.8	8.5	13.4	19.9	11.7

#### 《前回調査》

問43 あなたは、「成年後見制度」を使うことについて、どう思いますか。(1つに○)

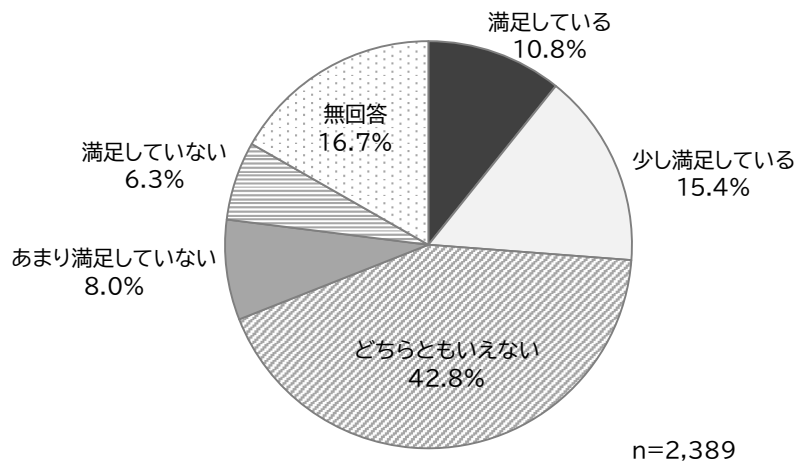


## 2-12 今後の施策について

### (1) 東大和市の障害のある人への施策について

問 45 東大和市の障害のある人への施策について、どうお考えですか。(1つだけに○)

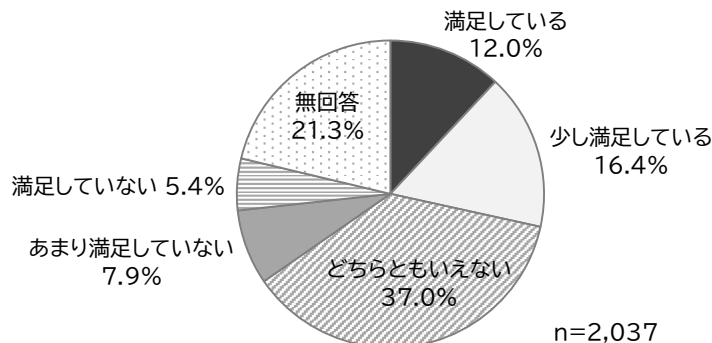
「どちらともいえない」が 42.8%と最も高く、次いで「少し満足している」(15.4%)、「満足している」(10.8%)、「あまり満足していない」(8.0%)、「満足していない」(6.3%)の順となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
満足している	10.8	9.9	16.5	11.4	5.2	8.6	10.4
少し満足している	15.4	14.6	16.2	16.9	17.4	14.6	12.2
どちらともいえない	42.8	40.9	44.2	42.8	56.4	39.0	39.6
あまり満足していない	8.0	6.9	8.8	11.4	5.8	11.6	15.2
満足していない	6.3	5.1	6.2	11.0	4.7	6.0	12.2
無回答	16.7	22.7	8.0	6.4	10.5	20.2	10.4

《前回調査》

問 44 東大和市の障害のある人への施策について、どうお考えですか。(1つだけに○)



## (2) 重要だと思う障害のある人への施策

問46 障害のある人が地域で自立して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(重要だと思うこと5つに○)

「障害への理解促進」が40.2%と最も高く、次いで「保健・医療の充実」(31.4%)、「経済的支援の充実」(30.8%)、「雇用・就労支援の充実」(22.0%)、「医療費助成制度の充実」(21.7%)の順となっています。

障害等の別にみると、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達障害がある”では、「障害者の理解促進」が50%、「雇用・就労支援の充実」は35%を超えています。“精神障害者保健福祉手帳”では、「相談支援体制の充実」が23.8%となっています。

“難病患者福祉手当”では、「医療費助成制度の充実」，“精神障害者保健福祉手帳”と“難病患者福祉手当”では、「経済的支援の充実」が40%を超えています。

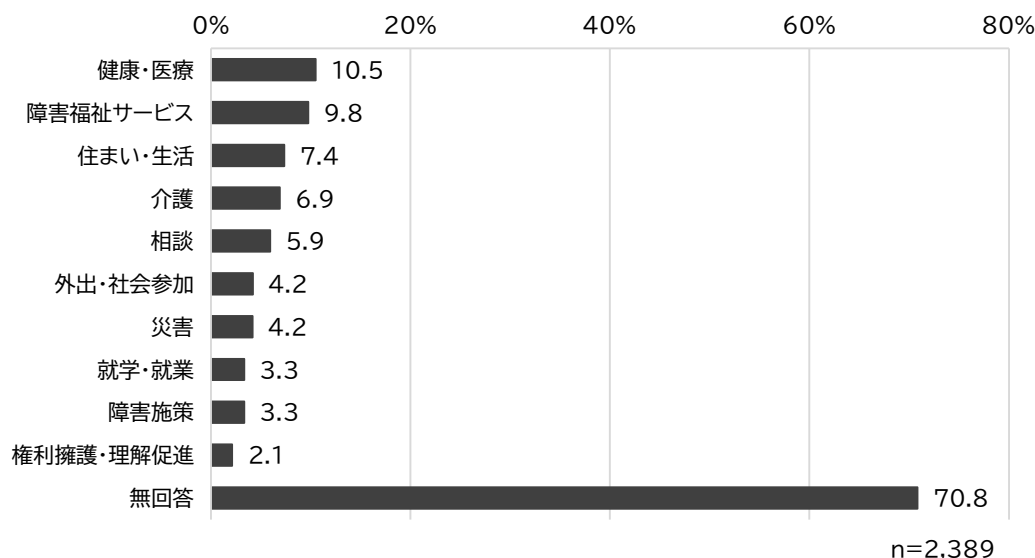


	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者 手帳	愛の手帳	精神障害者 保健福祉 手帳	難病患者 福祉手当	高次脳 機能障害 がある	発達障害 がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
障害への理解促進	40.2	34.1	51.0	50.3	44.2	37.5	45.7
保健・医療の充実	31.4	31.0	25.4	34.1	40.7	30.3	29.1
保育・療育・教育の充実	7.6	5.3	13.3	9.2	11.0	4.5	13.9
雇用・就労支援の充実	22.0	14.2	29.8	35.7	37.2	13.9	30.4
ホームヘルプサービス等の充実	17.9	19.5	14.2	15.6	17.4	21.3	15.2
短期入所の充実	6.9	6.9	11.8	4.6	3.5	10.9	10.0
日中の通所施設の整備	8.2	7.1	14.5	8.2	4.7	9.0	9.1
グループホームの整備	9.5	4.9	31.6	9.8	4.7	10.9	18.3
入所施設の整備	11.6	11.3	18.6	7.8	9.9	15.7	15.7
相談支援体制の充実	14.8	11.1	20.1	23.8	12.2	13.9	21.7
コミュニケーション支援の充実	10.0	6.0	20.4	15.1	9.9	9.7	20.9
福祉用具・補装具等の充実	7.5	11.2	0.9	1.1	6.4	7.1	2.2
居住支援(住まい確保等)の充実	12.0	9.2	11.2	19.9	17.4	17.2	18.3
医療費助成制度の充実	21.7	20.5	13.3	24.0	42.4	20.2	21.7
権利擁護・成年後見制度の充実	4.1	2.4	8.6	6.6	2.3	7.5	7.8
移動手段確保のための施策の充実	10.1	10.6	6.8	10.8	10.5	9.7	8.3
施設通所者の工賃向上の取組み	6.0	3.5	10.0	12.4	3.5	8.2	10.9
障害特性に応じた情報保障	8.5	6.0	10.9	15.1	8.1	9.4	17.8
経済的支援の充実	30.8	25.9	25.1	46.7	43.0	26.2	36.1
福祉人材の育成	11.4	9.1	18.9	13.7	10.5	7.1	17.4
生涯学習・余暇活動支援の充実	5.0	3.8	9.7	6.9	1.2	5.2	11.3
建物・道路等のバリアフリー化	13.5	17.3	5.9	6.6	14.5	11.6	8.7
交通機関や交通施設の改善・整備	14.3	16.0	6.5	13.7	16.3	13.9	10.0
防犯・防災対策の充実	6.9	6.7	7.4	7.8	5.8	7.1	7.4
災害時要配慮者対策事業	8.7	8.7	9.4	9.2	5.8	12.0	13.5
障害のある人等の虐待防止対策事業	9.8	6.9	18.9	12.8	8.7	10.9	15.2
地域生活支援拠点の整備・充実	5.7	6.5	4.4	4.8	3.5	7.5	5.2
その他	2.3	1.8	2.4	4.1	2.3	3.4	5.2
無回答	20.9	28.1	10.0	9.2	12.2	20.2	11.3

## 2-13 市の取組へのご意見、ご要望等

問 47 障害福祉サービスや制度、東大和市の取組について、ご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

無回答を除くと、「健康・医療」が 10.5%と最も高く、次いで「障害福祉サービス」(9.8%)、「住まい・生活」(7.4%)、「介護」(6.9%)の順となっています。



	全体	手帳所持・手当受給の状況(調査票配付時)				問6による回答(内数)	
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	難病患者福祉手当	高次脳機能障害がある	発達障害がある
<回答者数>	2,389	1,441	339	437	172	267	230
介護	6.9	9.6	1.8	3.2	4.1	16.1	7.8
住まい・生活	7.4	5.6	8.6	12.1	7.6	18.0	17.4
健康・医療	10.5	11.3	7.4	11.0	8.7	17.2	11.7
就学・就業	3.3	1.4	6.8	7.6	2.3	3.0	9.1
外出・社会参加	4.2	4.0	5.6	5.3	1.2	8.6	7.0
障害福祉サービス	9.8	9.0	11.8	12.8	4.7	16.1	13.9
相談	5.9	4.0	6.2	11.9	7.0	9.0	9.6
災害	4.2	4.3	3.8	5.0	1.7	9.0	5.2
権利擁護・理解促進	2.1	1.7	4.1	2.7	0.6	5.6	3.9
障害施策	3.3	3.4	3.2	3.9	1.7	5.6	3.9
無回答	70.8	73.0	68.7	62.5	77.9	52.8	58.7

## (1)「身体障害者手帳」所持者

### 【介護】

- 老々介護をしており、私が倒れた時に妻をどうやって介護施設へ預けられるか不安です。
- 家庭での老々介護を支援してくれるサービスがあれば、高額な施設に入所せず自宅で過ごせたかもしれない。(一時的にすぐに入れる施設や、急遽頼める介護サービス等の拡充)
- 長年介護をしている親の疲労がたまり、近くの施設に入所させたいのですが、空きがありません。てんかんの発作に対処できる医療的にも充実した入所施設が市内にあれば安心です。
- アルツハイマーの父が母へ暴力をふるうようになり、デイサービス事業者からの伝達を、地域センターにもケアマネにも市役所にもなかなか受けしてもらえなかった。
- 生活に関して、もう少し踏み込んだ支援をお願いしたいです。独居の母は介護保険では買い物や入浴介助が受けられず、家族の時間的負担(仕事に影響)がありました。
- 介護者が病気、入院、亡くなったり、何かあってからではなく、受けられる介護が事前に具体的にわかれば精神的に助かります。

### 【住まい・生活】

- ひとり暮らしで車イス対応の都営住宅について、市民の優先枠があるとよい。または同等の市営住宅があるとよい。
- コロナ禍で離職し、再就職できない。障害者手当の増額など、経済的支援の充実を望みます。
- 聴覚障害のある子どもに対する幼稚園、小学校での対応には感謝していますが、補聴器や医療費等の負担には困っています。収入制限を設ける必要性を検証してほしい。
- 高齢になって住宅を改修が必要になる。補助制度の充実が望まれる。
- 室内清掃等のヘルパー(エアコン等高い所)、重い荷物等のヘルパー(不用品の回収)のサービスがあると助かる。
- 視覚障害と高齢で日中自宅に1人であることが多い。体調不良などで緊急連絡したくても、目の見えない者が使える電話器がなく、日々不安に思っています。市でも情報を集めてもらいたい。
- 定年退職後は家賃が払えない不安があります。安い物件を探しているが、バリアフリー物件が見つかりません。障害のある人が地域で自立して暮らせるよう、バリアフリーの賃貸物件も増やしてほしいです。
- 老後、自立生活ができるように備えておきたい。不安なのが経済的なことです。
- 日々の買い物が不自由ですので、市内商店等の活性化を望みます。
- 自宅の風呂設備に対する支援を充実してほしい。
- ひとり暮らしをした時、バス、トイレ掃除、ベッドメイキング、買い物の付き添い、または買い物依頼ができるとうよいと思います。

## 【健康・医療】

- 車イスのまま診てもらえる歯医者を中心に付けてもらいたい。
- 聴覚不自由があり、かかりつけの耳鼻科で医師に大きな声で「何べん言ったらわかるんだ」とどなられました。
- 医師や看護師など、こちらの耳の聞こえが悪いことを知っていながら、一方的に話を進めることがある。タブレットや筆談などを用い、患者の意思を真摯に受け止めてもらいたい。
- なるべく自宅で生活したい。都心にあるかかりつけ医にはいずれ通えなくなるので、市内の病院について知りたいと思う。
- 難病に対応し、専門医と連携できる医師が地域にいない。積極的に対応してくれる意欲を持った医師(の養成)を望みます。
- 市内の透析クリニックが限られており、他市までバスとモノレールと歩きで通っています。治療後とても疲れます。
- 医師の訪問診療について、症状に応じて充実してほしい。

## 【就学・就業】

- 障害者雇用の枠では、週30時間勤務がほぼ強制されるため、週5働かなければならず、まわりの人を心配させる。障害者雇用の現実を知ってほしい。透析への偏見をなくしたい。
- 就労しやすい環境づくりをしていくことが大切だと思います。
- 手話通訳付で就活の相談をしたいです。他市へ行かなくても、市内で使えたらよいと思う。
- どんな子でも公立小学校や保育園を利用できるようにしてもらいたい。
- 市内の学校に支援級が少ない。特別支援学校がない。教師をサポートする介助員が少ない。障害児と健常児を分けて育てるのではなく、ともに助け合う世の中にしてほしい。また、スクールバスを運行してほしい。
- ペースメーカー装着と透析に通っています。もう少し働きたいと思っています。相談する所を増やしてほしい。
- 市内で障害のある人の雇用増加をお願いします。多業種で求めます。
- 障害のある人も健常者も幼少期からの学校教育(公的)でともに学べば、差別や偏見も減少するのではないかと思います。
- すべての人が働けて稼げる環境こそが重要です。
- 難病と障害を抱えており、持病の悪化で入院等により休職せざるを得ない。就業が続けられるよう、すべての企業に保障するよう働きかけてほしいです。

## 【外出・社会参加】

- 歩道のデコボコや傾きはわずかであっても、車イスには危険なのできれいにしてほしい。
- 段差のある道には電灯がほしいです。歩道設置されている看板は危険です。白杖がグレーチングに引っかかり、とても困っています。
- 障害のある人たちが障害のない人と同じように電車やバスタクシーなどが利用でき、自由に人と関わり合いながら生活できる市になってほしい。
- 他市では体育館の利用に障害者割引がある。市同士で割引制度の提携もある。市も工夫してほしい。
- 気楽に安価(100～300 円程度)で参加できる機会があるとよい。囲碁、談話、機器を備えた軽運動など。
- 室内で年間利用可の市民プールがほしい。
- 右手足まひのリハビリをかねて他市の障害者スポーツセンターのプール歩行を続けています。市のプールも障害のある人が楽しめるように改築してほしいです。それか市のバスを使って他市の施設が利用できたらうれしいです。
- 道路の段差をなくしてほしい(歩道から車道へ出る時の段差)。
- 玉川上水駅の東側について、上りだけでなく下りエスカレーターもつけてほしい。下りの方が大変です。
- 障害のある人が孤立せず、おしゃべりや買い物ができる居場所があるとよい。
- 玉川上水駅、東大和駅に優先駐輪所があるとよい。
- 障害者用駐車スペースの不正利用を阻止するために、ステッカーの公的な配布を進めるべき。
- 肢体不自由児、車イスの子どもでも遊べる公園をつくってください。
- ガソリン費補助を増額してほしい。
- タクシー券とガソリン券、両方使えるのがよい。
- 福祉タクシー券を利用している。ガソリン費助成と同様にタクシー会社の領収書をもとに補助してほしい。
- 通院のタクシー券を、足の悪い人には増やしてください。
- 介護タクシーが高すぎる、確保が難しい。
- 無料バスのパスを多摩モノレールにも使えるようにしてほしい。
- 市で運営している「ちょこバス」に、障害者割引が適用されるようにしてほしい。
- ちょこバスの市役所での乗り継ぎが悪い。玉川上水駅行は、乗り継ぎの接続に配慮してほしい。
- コミュニティー交通機関の整備。特に湖畔地区は交通が少なくちょこバスも1時間1本しかなく、車がないと動けない。免許の更新が難しい世代には、コミュニティータクシーのようなものがないがたい。



- 上北台に住んでいて、ちょこバスを利用しています。乗り場の先に停まっているバスは、出発の定刻まで乗り場まで来ないです。雨、風、雪の日等は、乗り場までバスが来てくれて乗り込むことができれば、大変助かります。
- 自宅から駅までの足がない。ちょこバスがありますが、便が悪い。駅に行くにも家族の車を出してもらう、タクシーを利用することになってしまう。
- 外に出て動きたい。そんな場所を多くつくってほしい。例えばプール等。
- 道幅がせまく歩くのが困難。歩道がなく歩けない。車イスは通れない。何とかしてほしい。
- モノレール無料券があると助かる。
- 通勤で最寄り駅まで遠いので送迎サービスを導入してほしい。
- 身体が不自由でも外出して社会参加ができるよう、送迎があるとうれしいです。
- 歩道が雑草でふさがれ、視覚障害者にはつらい。特に上仲原公園北側からの街道団地中央公園近くの歩道です。また、向原中央公園は整備されていますが、小中学生がスケボーでベンチの上を走って壊し、ベンチの上の陽よけも傷んでいます。
- 人間らしく生きるために社会参加を試みたいと思っても、外出の支援や、活動の内容(例えば趣味なども含めて)がわからず、情報がほしい。
- 外階段が40段程あり、歩行困難のため外出ができません。支援をお願いしたいです。
- 外出時に杖代わりにカートを使うが、デコボコで歩くのが困難な歩道が多い。
- 市では歩道通行の自転車の教育がされていない。歩道を通る自転車(往復)で驚いた。

#### 【障害福祉サービス等】

- 看護師による在宅レスパイト事業も導入してほしい。
- 配偶者(介護者)が亡くなった時、施設への入所がスムーズにできるようにしてほしい。
- 愛の手帳2度の息子の将来が不安。できれば住み慣れたこの街で生活させたい。生活を保障できる施設が必要です。
- 遠方に入所していますが、本当は市内の施設がよい。費用のことが難しい問題なのでしょうね。
- 放課後等デイサービスが少なく利用できない。支援級の教師の専門性を高めてほしい。
- 障害者自立生活支援センターの設置
- 車イス利用者が1人では外出(病院)できず、家族に頼まなければならない。気軽に安く頼めるサービスがあれば気も楽です。
- 医療的ケア児者が利用できるサービスの充実をお願いします。保護者、看護師等が介助するものと決めず、福祉サービス利用の促進に取り組んでほしいです。
- 小児(未就学児)でも利用できる、日常生活用具の拡充をお願いします。(特に医療で必要な機器)

- 重度心身障害児の卒業後の進路に、とても不安があります。学校でどれだけ学びが充実していても、卒業後の生活介護事業所は限られていて、選択することはとてもできない状況です。本人が地域で、笑顔で充実した日々が送れるよう、生活介護事業所の充実と、人材育成への支援をお願いします。

## 【相談】

- 介護、障害福祉、相談は関連している事項です。何よりも相談機能を望んでいます。
- 相談支援員を拡充してほしい。
- 気軽に相談できる体制。耳が不自由なのでメール等でできるとよい。
- 地域に相談員がいるかわからない。
- 主人を介護しています。世話をする側の悩み相談室がほしい。
- 補装具費の支給を受けている。状況が変わり今までの額では不足が生じてきた場合、速やかに増額してほしい。
- 市役所に専用の相談窓口をつくってほしい。(相談だけの窓口)
- 介護認定と元々の障害区分との調整があるのか、市の認定方法に納得できず、この件の相談機関もない。
- 人によって自立や必要なことは違うと思う。障害があるかどうかに関わらず相談できて、可能性を含めた情報を教えてくれる所がもっとあればいい。
- わからないので相談に行くのです。わからないのだから、ゆっくり話してください。
- 気軽に相談できる所、サービスがどの程度あるのか知らせてほしいです。
- 市役所の窓口に行って相談しても単発的な解答だけで、何度も足を運ぶのが辛い。総合的な相談やアドバイスをしてくれる人の配置がほしい。
- 年を重ねると身体が思うように動かず、最近の天候にも左右されて困る。どこへ、どのように相談したらよいのかもわからずにいます。
- 福祉用具・補装具や日用品の購入など、生活に必要なものをそろえる費用補助について知りたい。入所していても使える支援があるか知りたい。

## 【災害】

- 大規模災害が発生した場合の、透析患者への対応を指導してほしい。
- 災害時の避難先での医療ケアについて不安を感じる。必要なものが多すぎて、市が提供する避難所は利用できそうにない。介助・介護を考えると自宅から離れられない。
- 避難行動要支援者登録リストは何年も更新されておらず、災害が起きても助けてもらえないだろうと思っています。

- 災害時の不安は、目が見えないため、避難を含む行動とまわりの理解です。
- 要介護度の高い人が、避難場所を選ぶ時、近くの行きやすい場所を選ぶのは当然です。近くに避難場所があるが、そこにはずっといられず、遠くに移動しなければならない。行った先でまともに過ごせるかもわからない。
- 災害時、避難所での生活の不安が大きいです。障害に応じた生活ができるスペースや助けが、混乱時に保障されるのかがとても不安です。

### 【権利擁護・理解促進】

- 障害のある人について市民が理解するよう知らせてほしい。障害者用駐車場に堂々と車を停める高齢者、障害者用トイレに家族で入る子ども連れには、注意喚起してほしい。
- 手話に対しての理解が必要だと思うので、学校でも勉強する時間を設けてほしい。
- 障害者駐車場に健常者の駐車が多すぎる。法的効力のない障害者マーク、車イスマークは100円均一のお店で買える。条例で何とかしてほしいです。
- ご近所さんのあいさつ、声かけ運動の推進。知らんぷりをしない。
- 人間の尊厳を、心から守る施策が本当に必要である。表面上のアンケートでは何も変わらない。
- 福祉関係者にプライバシーを尊重してくれない人も多いので、厳しい情報管理を望みます。
- 私たちがうかがった際には、市役所職員には笑顔であたたかく対応してもらいたいです。私たちも理解してもらえよう、感謝が伝わるよう努力しなければと思います。

### 【障害施策】

- 障害者手帳の等級と障害年金の受給額の関連について、説明がなかった(理解できなかった)。市の担当者が変わったせいなのか、説明不足です。
- 各手続きを一度に済ますことができず煩雑。手続きのため仕事を休まなければならない回数が多いのはつらい。例えば誕生日で1度に更新ができれば、本人も家族も負担が減る。
- サービス、制度などの情報が入ってこないので、個々に対応してほしい。
- 情報がよくわかりません。
- 障害の内容に合わせた質問の方が、対策につながると思います。
- たずさわる人の人数を多くすること、金銭的補助が望まれます。
- HPで放課後等デイサービスを検索したが、わかりづらい。単純でわかりやすい他市のHPを参考にしてください。
- 「障害者」は「障がい者」に徹底するのがよい。「公害」「危害」といったイメージがあるから。
- 障害福祉課を2階に移す案や、(子ども関係は開いているのに)土日に閉庁しているのは、障害のある人を軽視しているようにしか思えない。

- 仕事しながら市役所に手続きを行っているので、月1回でも土曜日開庁の時に窓口を開けてもらいたいです。
- 住民票は市ですが、古い造りの家では車イスで生活できず、近隣自治体で生活している。コロナやインフルエンザのワクチン接種で苦労しているので、自治体間の連携を図ってほしい。
- 軍事費より福祉・介護に力を入れお金をかけるよう国へ働きかけをしてほしい。自治体として意見してほしい。
- 市の人口減少に対し、障害のある人が増えていると知りましたが、現在の支援が継続されることを願っています。
- 税の負担軽減
- 内容がよくわからないサービスが多いので、説明書きをつけてほしい。
- 難聴者で補装具がないと難しい。市役所等の受付に「タブレット」を置いてもらいたい。
- 重度障害(寝たきりの人)で医療ケアの必要な人が利用できる施設が市にあるのでしょうか。
- 会議棟のエレベーター設置をお願いしたい。保育園の説明会など、集まるイベントに参加したくてもできない。
- 職員は手話を身につけてほしい。
- 文字で表示されるコミュニケーションツールがたくさんあるとよい。
- そこへ行けば誰かしら話ができる、そんな場所があればよいと思います。
- 紙おむつの給付費支給の基準額を、おむつのサイズが上がって費用が増すのに応じて、引き上げてほしい。
- 障害のある人の医療費、75歳以上も1割の継続を希望します。
- 証明書等の取得手続きが困難な場合、もっと簡単にできるようにしてほしい。
- 障害のある人が安心して暮らせる市を目指してほしい。
- 郵便物が世帯主あてにしか送れない、と言われることが多々ある。必要な手続きを取れば、本人か支援者へ送ることも可能なシステムとしてほしい。
- 手帳取得のときにおおまかな説明はあるが、自分に該当するものはどれかわからなくなる。書面もしくはデータでもほしい。
- 調査票の送り付け方が失礼です。調査票在中の封筒に本人の名前を書いたら、誰が見ても障害がある人の家とわかります。サービス充実を考えている人たちの心を疑います。
- 市民全体に関わるデジタル化には、弱い立場の人たち(障害のある人や高齢者)への配慮を考えてほしい。今回の質問は障害福祉向上の観点からズレを感じる。
- 本アンケートは Web で回答できるとよいです。(特に家族が回答する場合)

## (2) 「愛の手帳」所持者

### 【健康・医療】

- 医療費の負担軽減
- コロナウイルス感染の疑いがある時、マスクできず検査も難しい。コロナワクチンの接種もかかりつけ医では受けられず、探するのが大変だった。集団接種には人が多いので行きづらい。
- 市内に障害のある人を診てくれる医療機関は1つしかありません。様々な手続きをこの先も行うことを考えると、もっと増えるとよいなと思います。
- 精神科に通院していても、どの医者も状況をパソコンに打ち込むだけで、改善させる気がないのがわかります。ただ薬を出すだけの病院ばかりです。
- 知的障害は暴れるとの思い込みから、歯科医が家族の付き添いを強要します。障害のある人が理解されていないこと知らされました。
- 近くの医療機関では、知的障害があるとなかなか受け入れてくれません。急なことでも対応できる病院がわかると、すごく助かります。
- てんかんを診てくれる医療機関の情報が知りたいです。30年間通院している病院以外の所でも診てもらいたいのですが、「紹介状がなければダメ」と言われて、治らないのに薬だけ飲ませ続けられ、悩んでいます。
- 養育を受けられる病院がない。
- 軽度発達障害を診てくれる主治医がいません。

### 【就学・就業】

- もう少し市内の就業率を上げてほしい。他市に偏りすぎている。市のハローワークは、障害者雇用がないかもしれないが、もう少し障害のある人の就業の情報と知識を他のハローワークと共有してほしい。
- 市内の支援施設の就職情報を充実してほしい。また市のハローワークは、他市とのハローワークとの情報共有など連携してほしい。
- 特別支援学校が少なく遠い。(軽度の知的の子が通える学校)
- 特別支援学校や特別支援学級が少ない。高校から選択肢が少ない、遠い。
- アルバイトを始めましたが、契約や更新、今後正社員になりたい時など間に入ってくれる関係者がいません。支援機関につながっていない当事者でも市は把握しているのだから、ときどき親にでも連絡をくださるとか、職場で必要な時、入ってくださる人がいるとよいです。
- 市内すべての小学校に特別支援学級を設置してほしい。特別支援学級への転校が1年単位でしかできないが、学期ごとにできるようにしてほしい。
- 就学の際、介助員をみつけることが難しいので、障害福祉課が連携できたらありがたいです。
- 支援学校の通学用の送迎バスを出してほしい。

## 【外出・社会参加】

- 外出・社会参加について、移動支援の支給時間を増やしてほしいです。
- ちよこバスの乗り継ぎが悪い。は～とふるに行く時に、ほとんど市役所に置いていかれる。市役所から歩くのは遠すぎる。直通を希望します。
- バスの本数、時間の見直し。バス停の場所の見直し

## 【障害福祉サービス等】

- グループホームがまだまだ足りていないように思います。親として将来を考えると不安があります。
- 親がいなくなっても安心して生活できる場所を、できれば近くに確保してもらいたいと心より望みます。
- 企業がやっているグループホームも増えてきたが「グループホームはもうかる」と宣伝しているので、どんな支援者がどこまで理解をして「生活」を守ってくれるか不安。
- 重度の知的障害や自閉症を持つ者が入居できるグループホームの設立をお願いします。
- 入所(施設)につながる具体的支援、同行説明など。
- 市内に放課後等デイサービスが増えてほしい。学区外の特別支援学級に通っているが、1人で登校できないので、毎朝の送迎が大変です。週に何日かでも一緒に登校してくれる支援があれば助かる。
- 介護、福祉にたずさわる人の仕事に見合った対価で、人手不足の改善や質の向上(研修)を望む。
- 緊急時(家族が病気、ケガ等で支援が困難になった時)の受け入れ場所
- 各種手続き(福祉サービスなど区分判定)の簡素化
- ヘルパーの育成、教育に力を入れてもらいたい。休日など自宅を離れて楽しめる時間を持てるよう、ヘルパーを増やしてもらいたい。
- せっかく「は～とふる」という施設ができたのに、人員不足も続いていて、十分なサービスができていないと思う。障害のある人のための施設というだけでなく、地域の人々がもっと利用できるように活用した方がいい。
- 障害福祉サービスについて、事業所不足、スタッフ不足で利用できません。福祉予算を確保し、福祉にたずさわる人の働きやすい環境をつくってください。
- 市内に特別支援学校が創立されるのにあたり、放課後等デイサービス、移動支援など、子どもの福祉サービスの充実をしてもらいたいです。子どもが利用できる移動支援がほぼないため、就労まで慣れさせることができません。
- 児童期のデイサービスは充実していますが、成人してからデイサービスを使用したい。事業所が運営しやすい環境をお願いします。短期入所の数も増やしてほしいです。重度や女性向けのグループホームをつくってほしいです。

- 看取りまでできる障害のある人向け老人ホーム、入所施設の整備。
- 移動支援をお願いしたいが、提供してもらえない。来年は支援を受けて、家族以外の人と接する機会を増やしていきたい。
- ういずねっと i(アイ)について、どこへ尋ねれば利用の仕方など教えてもらえるのでしょうか。
- 事業所が少なすぎるし、人手も足りていないと思う。相談支援は半年に1回面談しているが、大人になるとそこまで大きな変化はないので、正直手続き等に時間を取られるのが苦痛。
- 在宅レスパイト事業の導入。近隣で短期入所ができる場所がほしい。(医療的ケアがあっても、動けても利用できる場所)
- 移動支援の利用時間(1か月)が18時間では足りない場合があるので増やしてほしい。
- 支援者(家族)が支援できなくなった場合の緊急の対応策について情報がほしい。
- 卒業後も移動支援だけでなく、放課後等デイサービスのような障害のある人が過ごせる場所を確保してほしい。
- ガイドヘルプや日中一時支援について、人材不足が理由で実施してもらえない。支援計画には載っているのに。
- 重症心身障害児・者、在宅レスパイト事業の導入をお願いします。
- 福祉作業所は定員いっぱいの所が多く、利用者の高齢化もあり、特別支援学校高等部卒業後の進路先として選択肢になりづらい現状です。市内の福祉作業所の増設を希望します。
- 補装具の修理費用も出してほしい。

### 【相談】

- 学生の間は学校等でできたが、社会人になるため相談の窓口がとても大切だと思う。平日しか開かない窓口では土日休みの仕事の方は相談できません。公的な機関も営業時間を改善すべきだと思います。
- 体調不良の症状をうまく説明できないので、医療機関につなげられる相談窓口があればよいと思います。

### 【災害】

- 災害時の避難の拠点を複数設置してほしい。
- 災害時に避難所に行っても、自分のことをうまく伝えられるか不安になる。病気(てんかん)があり、常に服薬が必要など、細かいことを考えると不安があります。
- 災害の時に避難できるか少し心配。

## 【権利擁護・理解促進】

- 電車に乗っている時など、声を出したりするとジロジロ見られて、差別や偏見を感じます。そういうのがなくなるといいなと思います。
- 保育園時代は、障害の有無に関係なく 1 人の友達として、子どもたちは認識してくれていた気がします。何の特別な意識がない子ども時代から、障害がある子も一緒の環境でともに育っていけば、障害のある人が身近な人となり、自然と弱い立場の人たちのことも自分のことのように考えられる大人が増えるのではないのでしょうか？
- 障害のある人への虐待をやめさせてほしい。
- 障害のある人が理解され、地域社会で生きるためには、幼い頃からともに生活をしてともに学ぶことが必要だと感じています。

## 【障害施策】

- 診断所の作成について、東大和療育センターで「忙しいので重度障害の人、薬の処方のある人を優先したい。かかりつけ内科医等に頼んでほしい」と言われました。精神科医でなくても「年金」や「障害者区分審査」の診断書は書いてもらえますか。
- 家族は心配が尽きません。安定した生活をするために、経済的にも裏付けが必要です。公的に援助をお願いしたいです。
- 難しすぎて理解できない。(質問内容)簡単な文章で書いてほしい。
- 障害のある人と暮らしているような人が支援室の職員だと理解が早いと思います。紙のアンケートではなく、少数でも直接希望や考えていることを、対面で聞いてみてはいかがでしょうか。
- 緊急時に市に電話しても、うまく対応してもらえない。人員の確保、拡充、教育をしてもらいたい。
- 同じような障害のある人同士が情報交換できるような機会。先輩ママさんにつながるようなコミュニケーションの場があるといいと思います。
- 弱者は社会が生み出しているものであると痛感しています。エンパワーメントの力で各々の持つ力を社会に役立てていければ、生きがいにもつながり、生きやすい社会(地域)にもつながると考えます。
- とにかく情報が少ない。手当のことも、たまたま障害のある人の配信動画を見て知った。デイサービスの情報も、障害のある子を持つ知り合い経由でしか得られず、探すのに苦労した。体操やダンスなどの習い事をさせたいが、受け入れ状況についてまったく情報がないので結局あきらめるしかない。市で情報を開示してください。
- 福祉事業に従事されている人への配慮とともに、人材確保をしてもらいたいです。
- 福祉用具、補装具について、障害に応じた情報提供(援助金も含む)があるとありがたいです。
- 市内の医療的ケア児・者の実態把握を行ってほしい。
- 一人ひとりの治療や療養の状態を把握し、他市とは違ったよさを追及してほしい。



### (3) 「精神障害者保健福祉手帳」所持者

#### 【介護】

- ・認定はおりたが、介護事業所が見つからず支援を受けられない。

#### 【住まい・生活】

- ・家賃が高いため、ひとり暮らしができない。病気が再発した時には仕事を失い、収入がゼロになることが不安。
- ・今は祖父母宅での生活をしている。せまい部屋で息がつまる。
- ・親など介護者がいなくなった時に、住まい、生活がどうなるのか心配です。1人で病気を抱えて、収入もほとんどなく、どう生きていけるか心配です。
- ・薬代が高い。税金も高い。安くしてほしい。
- ・家族と離れて1人で暮らせる場もほしいです。
- ・入所施設に毎月5万円くらいかかるが、手当等すべて打ち切られているので、経済的に負担です。自宅に戻すと、両親のどちらかは仕事をやめないといけなくなり、兄弟の養育やローンの返済に支障がある。施設に預けて働くしかないが、市の手当等があると少しでも負担が減るので、検討してほしいです。
- ・短期間でも、一時的に避難(住める)できる居住支援(家族問題など居場所がない人のために)。
- ・障害のある人ではなかったのになってしまった。孤立し、引きこもりになり、お金もなくなり、車も乗れなくなると買い物もできなくなる。毎日不安に暮らしている。
- ・精神的に問題を抱える人の多くは、家庭環境が原因。ひとり暮らしのスタートを援助する施策があれば、一時的に費用はかかるとは思います。総合的な費用は抑えられると思います。
- ・障害のある人はどうしても賃金は安く、医療その他必要な出費はかさむので、経済的な支援の充実を望みます。
- ・病気になった時に、親ではなく生活支援をしてくれる人がほしい。
- ・障害のある人に関わらず、高齢者などゴミ出し困難世帯は多数ある。自立支援協議会、環境対策課、障害福祉課、高齢介護課が連携を図るべき。回収の頻度、時間の変更など、具体的なゴミ出し困難世帯への対策を実施してほしい。

#### 【健康・医療】

- ・メンタルクリニックの保険は手帳を持っていると1割になるが、難病の場合は、申請がおりないと3割のままで困る。
- ・他市への受診に大変苦労している。薬、交通費等が家計を圧迫している。他県では、精神障害者でもタクシー券の配布があり、医療費も無料と聞いている。
- ・難病があるので、医療費が高く生活費が困難です。難病医療費免除などがあると助かります。

## 【就学・就業】

- もう少しくリエイティブな職が市内にあったらいい。
- 6年前から障害があることを隠して就業している。今後、障害者枠で就業希望。就労支援を期待。
- 就労移行を利用しているが、金銭面がきつい時がある。支援されている側ではあるが、会社に行くつもりで頑張っているのに、本当の意味で就労へつながる体験を、短期アルバイトやインターン、種類や幅を増やしてほしいと切実に思う。
- 働きたいが採用されない。体力、筋力も落ちてきていて、重労働は難しい。
- 就労移行支援で事業所までの交通の支援をしてほしい。就労移行支援の利用できる日数、時間（特に午後）を増やしてほしい。
- 就労支援事務所で職員によって就労時、差別的扱いを受けている。市の取組とどう関係しているかはわからないが、改善してもらえるとありがたいと感じている。
- 就労継続支援 B 型の工賃をもう少し上げてほしい。
- 企業の障害者雇用の求人は、大都市でないほとんどない。あっても賃金が安すぎる。市の企業でも、受け入れる会社が増えたらいいと思う。
- 勤務先や学校との意見交換や進学、就職後の追跡調査をしてほしい。
- 障害者就労生活支援センターに登録していますが、まったく支援してもらえません。
- 就業施設への送迎や、定員枠の増加を希望します。
- ひとり暮らしを続けるため、安定した収入がほしい。
- 年齢制限や雇用契約と就業時間の関係には検討の余地がある。食事介助やトイレ介助等で、他人の手を借りる必要がある場合は、事業主が支援者の手配（費用負担）を行わなければ、自前で有料ヘルパーを雇うか家族が犠牲になるしかない。通勤・職場支援を制度化し、障害の軽重によらず、安心して働ける・社会にしてほしい。
- 連絡帳等で困りごとを相談しても、親身になってくれないと感じる。療育関係者の学校訪問を依頼したが断られた。何のために支援学級に行かせているのかわからない。

## 【外出・社会参加】

- 交通の便が悪く、お金がかかる。サッカー場をつくるくらいなら、商業施設の誘致をしてほしい。
- 趣味のサークルに入りたいが、数時間は集中力が続かず参加できていない。30分～1時間なら参加できそう。
- 障害者割引が適用されるICカードを、もっと身近な所でつくれるようにしてほしい。
- 障害者雇いで10年近く働きましたが、3K(きつい、汚い、危険)の仕事で、身体を悪くして退職しました。会社、事業所、店は国の方針で人数合わせのためやっているだけで、特に配慮等もなく、使い捨てが普通です。
- 農業の手伝いは少しやりましたが、社会参加の場が少ない。

- バスでいちいち提示しなくても、チップに割引を埋め込んでICをかざすだけで割り引かれるようにしてほしい。
- 市は灯りを街につけるべき。暗くて危ないし、よく見えない。
- 道路のバリアフリーが市内、まだまだと感じる。とても不便。アップダウン、段差があり、車イスやベビーカーなどが利用できず困っています。
- いちよう通りを通るちよこバスについて①1時間に2本以上走らせる、②朝は6時台から走らせることをお願いしたいです。障害のある人が人並みに通勤したり、買い物するには不可欠です。
- 現在はバス利用のみ料金が半額ですが、都営地下鉄等も料金が半額にあるとよい。
- 歩道がせまい道が多く、徒歩でも周囲に注意しながら行かなければならず、疲れてしまう。外出の抑制にもつながっている。
- 障害のある人も身体を動かすことで気持ちが落ち着いたり、ストレスが発散されたり、心身が楽になったりする。そういうことへの配慮、支援や助成をしてほしい。
- 精神障害者にも、多摩モノレールの割引制度がほしい。
- 精神障害者にもタクシー券を支給してほしい。何が課題になっているのか知りたい。
- 精神障害でも、交通関係割引適用を他の障害並みにしてほしい。(都心部では、都営地下鉄、都バスの割引や無料適用の交通機関が多い)

#### 【障害福祉サービス等】

- 障害福祉サービスの中身がわからない。
- サービス情報が全然伝わってこないからわからない。
- どんな時にどのサービスが使えるか、わかりにくい。
- 社会福祉協議会の金銭管理を受けているが、マンパワーの不足を理由に極めて対応が悪い。
- ヘルパーさんが少ないことに加え、一事業所の制約がある。1時間はかかる仕事でも一単位 45分でと言う。
- 食事が出るグループホームをつくってほしい。
- 発達障害者のパートナーの形で、ホームヘルパーを派遣してほしい。
- 全面的に支援している親がいなくなった場合、どのような支援が受けられるのか知りたいです。
- 家族が障害を理解できないため、自宅まで説明に来てくれるサービスがあったらよいと思います。

## 【相談】

- ウェルカムを利用していますが、とにかく人手が足りないようで、相談をためらいます。相談は、就業移行施設の職員に話すことがほとんど。市の相談窓口を拡充させてほしいです。
- ウェルカムを利用しているが、担当の相談員が「契約外」と言って相談にのってくれない。
- 困った時の相談ができるように、窓口を増やしてほしい。
- 障害福祉課の人の態度が悪く偏見もある。相談窓口の意味がない。
- 心の病を抱えている人が安心して相談できる場を設けてもらいたいです。
- は～とふるに仕事相談で行ったが、対応に心が傷つき怖くて行けない。
- 相談窓口の対応が悪く、相談にならない。市役所まで何かと行かなければならない。
- 年金をもらえるようになり落ち着きましたが、辛い状況でした。つっこんで支援を求めなければ知りえないことも多かった。発達障害のため、支援を求められず受けることができなかった。見えにくい障害について理解が広がることと、困ったらここにまず相談という支援を望みます。
- 以前命の電話にかけてみたことがあり、泣きながら思いを話したが、電話の向こうの人は「死にたい」と思う私の背中を押すだけだった。共感する力(心)のレベルが低い医者が多いように感じる。
- 子どもの時からきちんと対応や相談にのってくれる機関があればよい。発達障害は一生続くのだから。
- 健康相談の窓口と時間を増やしてほしい。
- 一度就労相談を行うと、毎月連絡が来る。そして、「今日、施設を見に行きませんか？」等と相談員のペースで話が進むことになる。とりあえず情報がほしいの気持ちが伝わらず、精神的疲労が強い。
- 相談したくてもなかなか外に出られない。どうしていいかわからない。今後が不安。具体的な案を教えてほしい。困った時にすぐ対処してほしい。
- 手帳を持つ人に、受けられるサービスを定期的に知らせてほしい。就労相談をしたかったが、していいのかわからず、あきらめてしまった。気軽に相談ができるようにしてほしい。
- 相談支援事業所に電話をかけても、多忙なのか不在などが多く、なかなかつながらない。
- 障害のある人自身が、高齢の親などを介護しているケースへの、相談窓口や支援策があればと思います。

## 【災害】

- 災害時に、自宅療養サポートセンター(うちさぼ東京)のような支援物資の食料提供があればうれしいです。
- 災害時、薬を手に入れるにはどうしたらいいのでしょうか？

- 福祉避難所の開設のタイミング、想定される避難者の具体的なニーズを把握してほしい。福祉避難所を二次避難所として後から開設するのでは遅い。本当に障害のある人を救助したいと思っているなら、避難行動要支援者登録の更新や福祉避難所への避難訓練ぐらいは実施してほしい。

### 【権利擁護・理解促進】

- 障害があるから無理と排除するのではなく、互いにできること、できないことを把握して補い合うことが大切です。
- 支援センターの職員と作業所の職員の会話で、利用者を侮辱する言い方を耳にしたことがある。自分のことではなかったがいやな気持ちになった。
- 精神障害は見えづらいが、理解を深めて手厚く対応してほしい。
- 障害のある人を一律に劣った存在と考えるのではなく、例えば書道ですばらしい成果を上げているダウン症の女性のように、その人の個性と特技を生かした道に進むことをサポートする支援体制こそが必要だと思います。
- 本当に困ったことや、わかってほしいことが伝わらない。みんな命があるのです。電池で生きているわけではありません。たまに様子を見ればいい訳ではないのです。
- 自分の貯金通帳が施設で管理されているので、手元に返してほしい。
- ヘルプマークを所持しているが、電車、バスで席を譲ってくれなくて困っている。知名度を上げてほしい。
- 幼少の頃から、障害のある人に接する時間を持ち、身近な存在という意識を持てる機会、教育が必要。障害者雇用等の理解もそこからだと考える。差別解消法より、よっぽど教育、体験、経験の方が重要である。
- 精神障害により、それまでできていたことができなくなる。何かと差別されることが多いように感じる。病状悪化のために文も書けずコミュニケーションにも支障がある。悔しさをわかってほしい。
- 家から外への一歩に勇気がある。その「一歩」の助けを切望していることを理解してほしい。意見書がないとダメだと言われるけど、心の問題を紙一枚のあるなしで差別しないでほしい。
- 各種の障害のある人の実情・現状を伝える広報パンフレットを出してほしい。
- 子どもたちに充実した学びの場を提供し、障害の有無に関わらず認め合い共生していくことを、学んでほしいと思います。
- 人権が尊重され、ハード・ソフトの支援を受けて、自分の希望する生活を送れるように、市政全般を見直してほしい。三障害、障害種別は問わず相談対応をしてほしい。精神障害者が差別されているように感じる。

## 【障害施策】

- 行政には市民に伴走する心意気でいてもらいたい。
- 市のサービスではないが、障害年金の認定要件を緩和してほしい。ギリギリ就労している精神障害者はそのストレス緩和や生活安定のために多くのお金が必要。年 10 万円でもよいので、定期的な現金による支援を受けられるようにしてほしい。
- 市内の保育園入所への得点に精神障害者が入っていないことが不適切に思います。発達障害やうつ、統合失調などで子どものケアが上手にできない可能性のある親に対し、理解があるように感じられません。他市では、精神障害も対象となっています。制度の改善を求めます。
- 福祉手当はもらえますか？
- どうせ書いても何も変わらない。期待もしていない。他市から引っ越して以来、後悔しかしていない。交通不便、買い物は車必須。色々と自己負担。最悪です。
- 市役所の窓口を日曜日の午前中も開けてほしい。平日に仕事を休むのが難しい。
- 社会資源の周知が下手。アンケートを見て初めて知る事業が多い。
- 「障害者」= 障る(さわる) + 害(ドクガスみたい)このイメージを失くしたい。昔は「障碍者」となっていたのでそちらを使うか、平仮名の「障害者」を使用してほしい。手帳も「バリアフル」等、カタカナを使用するのもありだと思う。本当に、“害”だけはやめてほしい。
- 安楽死制度をつくることに、国としても理解が必要。生きる支援はたくさんあるので、死への制度がほしい。精神疾患の認知度が低く、他人からの支援や協力には限界がある。あまり期待はしていない。だから家族に、大切な人のために「安楽死」という選択肢がほしい。
- 障害と疾病のため、このような難しい内容のアンケートに答えることができません。
- この調査を通じて知った制度が多すぎる。もう少しわかりやすい情報の提供が必要だと思う。
- 実家暮らしを理由に、色々な制度が受けられない。実家だからと支援を得られるとは限らない。身内が原因のうつ症状の場合、家を出ないと回復できない。住まいがある = 支援不要、は間違っていると思う。
- すべての手続きが面倒で大変。
- トラブルに巻き込まれ、不利益を被るようなことがあった場合、その場で即時に連絡し、相談できる機関、窓口を設けることを希望します。
- このアンケートも含め、デジタル化を推進してほしい。
- 福祉関係者のスキルが違いすぎる。保健所等の対応は悪く、逆に責められた。役所はテンプレート式な対応はやめるべき。
- こちらが調べて問い合わせしなくては、情報が入ってこない。
- 市がどんな取組をしているのかまったく知りません。障害福祉課は事務だけ、相談相手にはなりません。市役所に適材な職員がいないから、相談できない。
- 市として、障害福祉サービスにこれから一層力を入れてほしいと願っています。精神障害は現在、社会的にも大きな問題になっています。

- 税収の大小でサービス、施策の内容が決まるのなら、人口の少ない自治体にいるのは不利ではない。自然を生かした事業、農業と福祉など、この地域で新たに「働く場」「居場所」を創出する工夫が必要だと感じています。
- 精神障害者手帳の期限が自己管理なのがつらい。申請の負担が高い。
- 似た障害がある人のコミュニティーをつかってほしい。就労後も就労について、また生活の相談をしたい。
- 自治体によるサービス格差が大きく、財源が多い自治体がうらやましいと感じることがある。せめて「都」の単位で格差をなくしてもらえたら、もっと市に誇りや愛着が持てると思う。
- 発達障害者を対象としたワークショップをしてほしい。
- 退院後の住まい、生活、医療、就業、収入等一貫した自立支援を個別に指導してもらえるとありがたい。
- 市の自立支援協議会には当事者会がありません。誰のための何のための自立支援協議会なのでしょう。障害当事者が自分たちの問題や課題について、声を上げ意見を出す仕組みをつくりましょう。

#### (4) 「難病患者福祉手当」受給者

##### 【住まい・生活】

- ごみの有料化が負担である。
- ひとり暮らしで痛みを持っている。医療費が高く、仕事は無理をしている。心の余裕が持てない。住まいの援助があれば、もう少し無理なく働ける。

##### 【健康・医療】

- 高齢者の増加やコロナ禍で医療機関受診のハードルが上がっています。受診難民を救済する方法を考えてほしいです。
- 医療負担を少なくしてほしい。
- かかりつけの病院が遠いため、地域医療の充実により、近くの病院で受診できるとうれしいです。

##### 【就学・就業】

- 正社員として働き子育てもしています。仕事の制度(短時間勤務等)の整備や子育てへの支援があるとうれしいです。
- インクルーシブ教育の推進に尽力してほしい。支援員配置の予算措置、軽度の子の支援充実を望みます。

## 【外出・社会参加】

- 難病があり、遠くの病院に通院しています。悪化すると人工呼吸器にまでなりますが、回復すると歩けるので障害者手帳の対象にはならず、移動手段のタクシー代など大変です。タクシー券や割引など受けられればお願いしたいと思います。
- 難病の人を対象にしたタクシーやちよこバスの助成をしてほしい。(難病患者も利用できる交通手段の割引制度がほしい)市外に病院があり、とても生活が厳しい。

## 【障害福祉サービス等】

- できるだけ長く自宅で生活したい。災害時にも自宅でいられるために、必要な福祉サービスが充実すると助かります。
- 中学生になると放課後等デイサービスが使えず、学童クラブも少ないため、保護者は安心して働くことができません。小学生でも放課後等デイサービスの支援時間が短いため、制度の穴を埋める施策、事業所への報酬や補助の充実を願います。
- 症状の悪化があり仕事ができず、今後の生活が不安です。障害福祉サービスについて、もっと利用しやすくしてほしい。

## 【相談】

- 情報提供や相談を充実してもらえれば、安心して障害のある我が子と生活していける気がします。
- 相談窓口がよくわからないので、説明会などの機会があると助かります。
- 難病(肝臓病)を持っています。何か使える支援など聞いてみたいです。
- 出張所ですべて相談できるようになれば、交通機関を使用しなくて済む。
- サービスの種類と自分への適用がまったくわからない。窓口へ行くたび担当者が違うので、1回1回説明しないといけないのが、とても面倒。

## 【権利擁護・理解促進】

- 障害のある人もない人も、助け合って生活できればいいと思う。就業して収入を得ることをこれからやりたいとは思っている。
- 病気の人の本当の気持ちをわかり、みんなが生活しやすくしてくれることを願います。
- 血液の難病のため外見ではわからず、周囲の理解を得ることが難しく、小さい頃から偏見等にあってきました。



## 【障害施策】

- 難病手当を受給しているが、医療費に対して手当が少なく感じる。医療費助成も金額の幅がありすぎるので、もう少し細かく分類していただけるとありがたいと思います。
- 難病による手当を1割にしてほしいです。本人の収入で考えてほしいです。子どもの塾代にしたいののに、薬代で終わってしまう。税金ばかり取られて税金のために働いていると感じてしまう。
- 無駄な公共事業(街路樹、期末の道路工事)をやめて、税金を大事に使ってほしいものです。
- 手続き等で毎年1回、市役所の窓口に行くが、毎回コミュニケーションが取れない。話を聞いてほしいと思う。
- アンケートの対象は5歳の息子ですが、本人に必要なことと介助者(保護者)に必要なことを分けて、手厚い施策につなげてほしい。
- 今年市に転入し、難病専門医がいる都心の大学病院に通っています。市内や周辺地域の専門医の所在、可能な治療等の情報提供があれば、交通費の削減、近隣病院の活性化などが期待できると思います。
- 難病医療費助成制度の申請から、申請書類受領まで3か月を要している。毎年困っている。



---

## 第3章

### 障害福祉サービス等事業者向け調査 集計結果

---

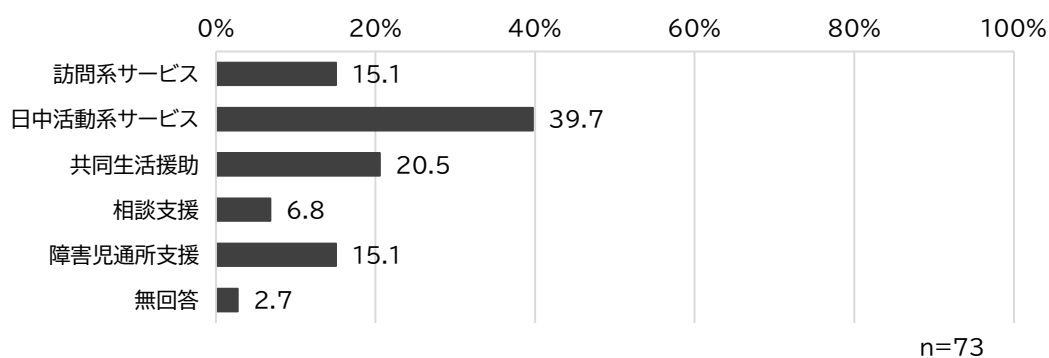


### 3-1 事業所の基本情報

#### (1) 提供サービス

問1 提供サービス

「訪問系サービス」が15.1%、「日中活動系サービス」は39.7%、「共同生活援助」は20.5%、「相談支援」は6.8%、「障害児通所支援」は15.1%となっています。

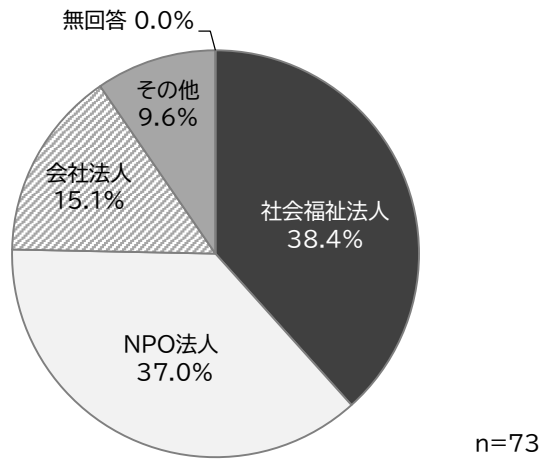


	提供サービス
訪問系サービス	居宅介護(11件)、重度訪問介護(8件) 同行援護(5件)、行動支援(3件) 移動支援(8件)
日中活動系サービス	生活介護(7件) 就労継続支援A型、就労継続支援B型(9件) 就労移行支援 自立訓練(生活訓練)、宿泊型自立訓練 療養介護 短期入所(6件) 日中一時支援(4件)
共同生活援助	共同生活援助(15件)
相談支援	特定相談支援(5件)、一般相談 障害児相談支援
障害児通所支援	児童発達支援(3件) 放課後等デイサービス(9件)

## (2) 法人種別

### 問2 法人種別

「社会福祉法人」が 38.4%、「NPO法人」は 37.0%、「会社法人」は 15.1%、「その他」は 9.6% となっています。

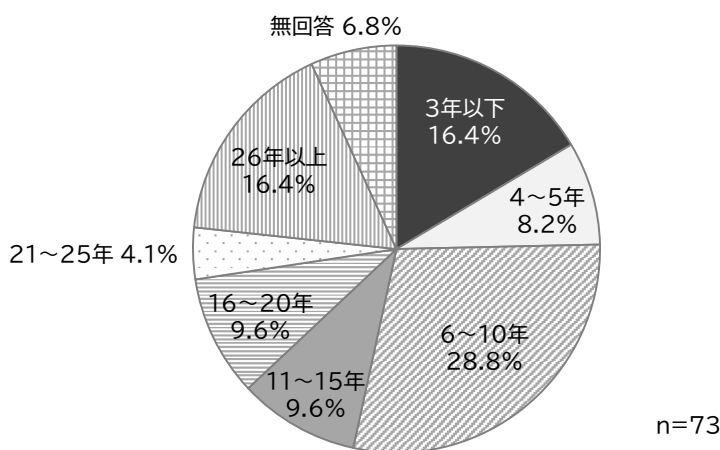


	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
社会福祉法人	38.4	18.2	55.2	33.3	60.0	18.2
NPO法人	37.0	36.4	37.9	46.7	20.0	18.2
会社法人	15.1	27.3	3.4	20.0	20.0	27.3
その他	9.6	18.2	3.4	0.0	0.0	36.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### (3) 事業所開設時期

問3 事業所開設時期

開設してからの年数は、「6～10年」が28.8%で最も高く、次いで「26年以上」と「3年以下」が16.4%となっています。



	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
3年以下	16.4	9.1	13.8	13.3	0.0	45.5
4～5年	8.2	9.1	6.9	6.7	0.0	18.2
6～10年	28.8	9.1	27.6	26.7	80.0	27.3
11～15年	9.6	0.0	17.2	6.7	0.0	9.1
16～20年	9.6	36.4	0.0	20.0	0.0	0.0
21～25年	4.1	18.2	3.4	0.0	0.0	0.0
26年以上	16.4	9.1	24.1	26.7	0.0	0.0
無回答	6.8	9.1	6.9	0.0	20.0	0.0

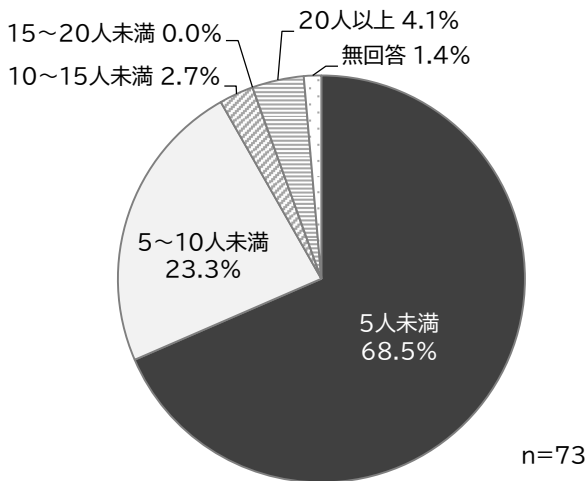
## (4) 職員

### 問4 人数、平均年齢、平均勤続年数

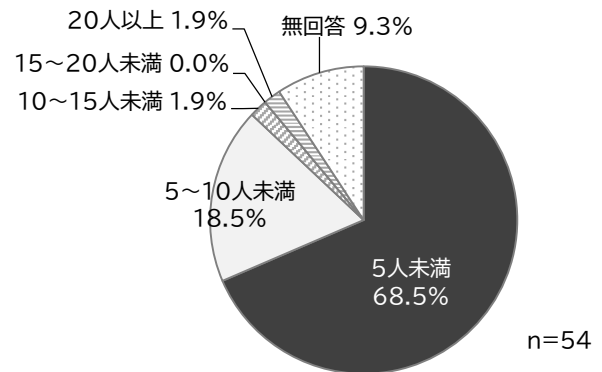
#### ①常勤

人数は「5人未満」(68.5%)、平均年齢は「40歳代」(39.7%)が最も高くなっています。平均勤続年数は、「5～10年未満」が28.8%と最も高く、次いで「10～20年未満」(24.7%)、「3～5年未満」(23.3%)の順となっています。

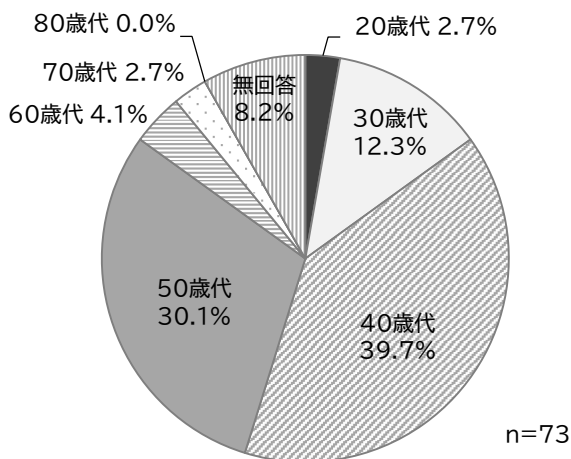
#### 【人数】



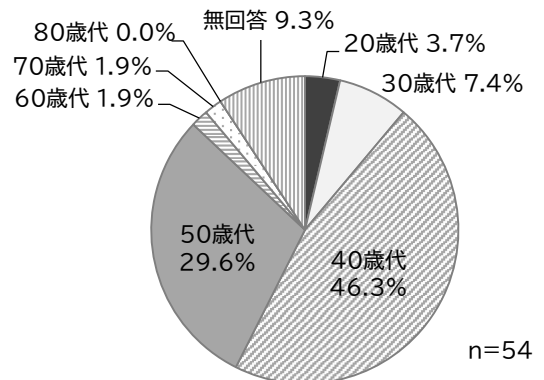
#### 《前回調査》



#### 【平均年齢】

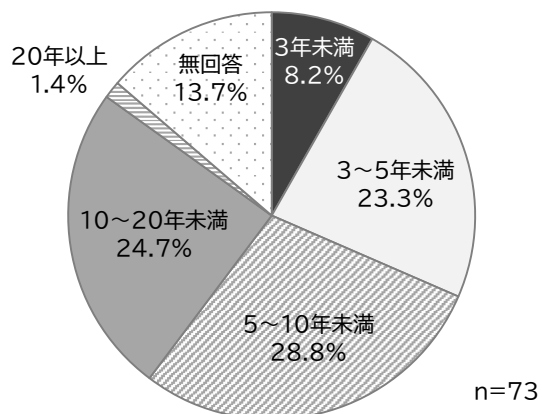


#### 《前回調査》

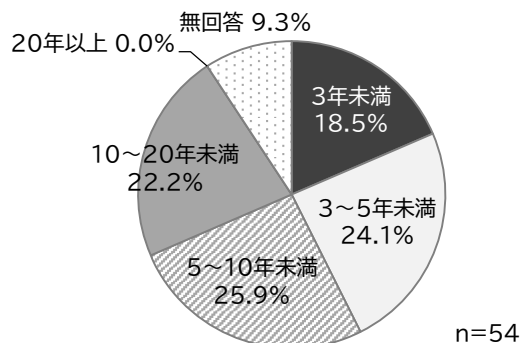




【平均勤続年数】



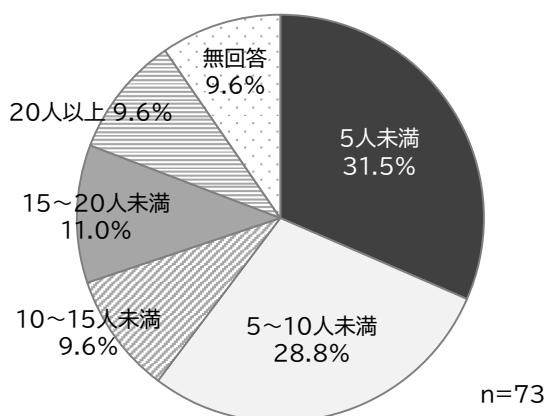
《前回調査》



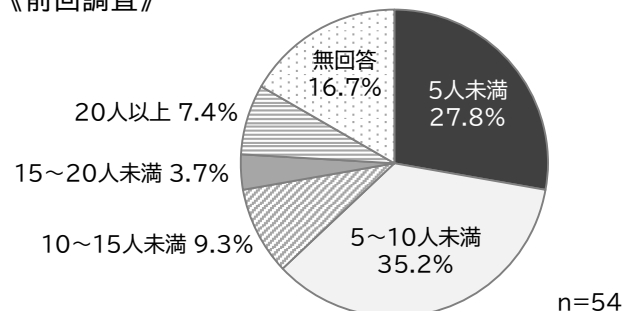
②非常勤

人数は「5人未満」(31.5%)、平均年齢は「50歳代」(50.7%)が最も高くなっています。平均勤続年数は、「5~10年未満」が30.1%と最も高く、次いで「3~5年未満」(20.5%)、「10~20年未満」(12.3%)の順となっています。

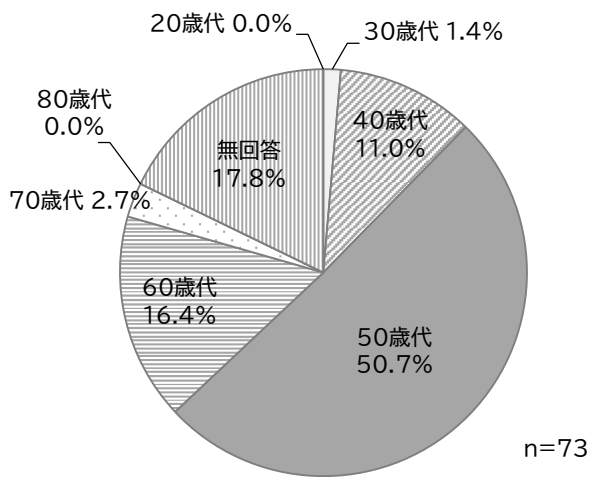
【人数】



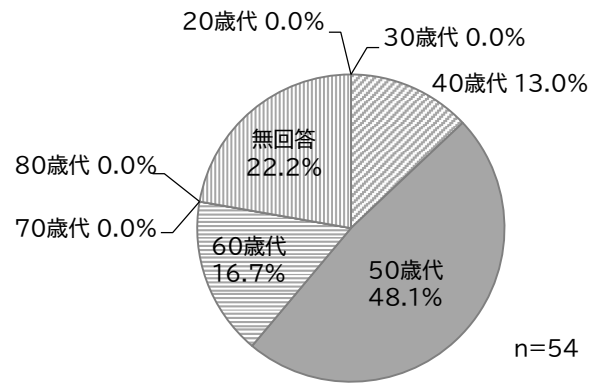
《前回調査》



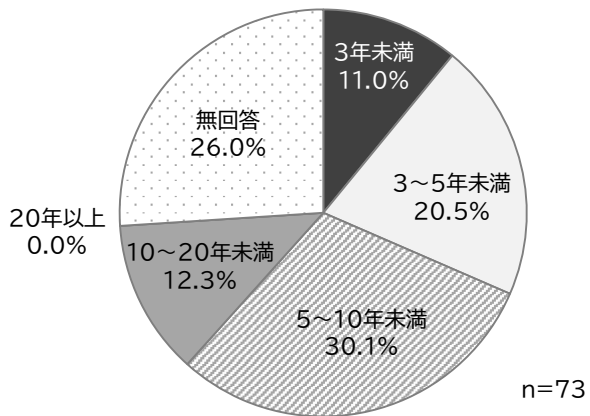
【平均年齢】



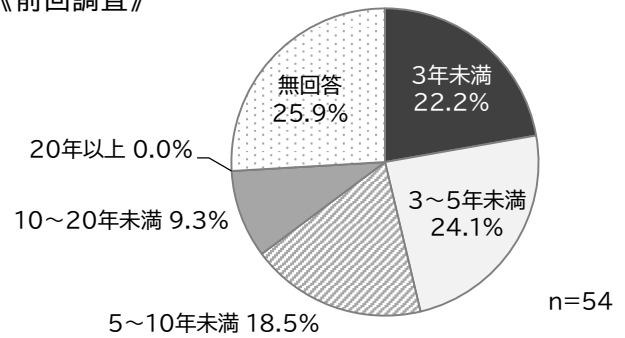
《前回調査》



【平均勤続年数】



《前回調査》



<回答数>			全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援	
			73	11	29	15	5	11	
人数	常勤	5人未満	68.5	63.6	51.7	80.0	100.0	81.8	
		5~10人未満	23.3	27.3	31.0	20.0	0.0	18.2	
		10~15人未満	2.7	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	
		15~20人未満	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
		20人以上	4.1	0.0	10.3	0.0	0.0	0.0	
		無回答	1.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	
	非常勤	5人未満	31.5	0.0	20.7	40.0	100.0	36.4	
		5~10人未満	28.8	9.1	31.0	33.3	0.0	54.5	
		10~15人未満	9.6	27.3	6.9	6.7	0.0	9.1	
		15~20人未満	11.0	18.2	10.3	20.0	0.0	0.0	
		20人以上	9.6	36.4	10.3	0.0	0.0	0.0	
		無回答	9.6	9.1	20.7	0.0	0.0	0.0	
平均年齢	常勤	20歳代	2.7	0.0	3.4	6.7	0.0	0.0	
		30歳代	12.3	0.0	6.9	20.0	40.0	18.2	
		40歳代	39.7	63.6	41.4	33.3	40.0	45.5	
		50歳代	30.1	18.2	31.0	33.3	0.0	18.2	
		60歳代	4.1	9.1	3.4	6.7	0.0	9.1	
		70歳代	2.7	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
		80歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		無回答	8.2	9.1	13.8	0.0	0.0	9.1	
		非常勤	20歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代		1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
	40歳代		11.0	9.1	13.8	6.7	20.0	9.1	
	50歳代		50.7	54.5	34.5	60.0	40.0	72.7	
	60歳代		16.4	27.3	13.8	26.7	40.0	0.0	
	70歳代		2.7	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	
	80歳代		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無回答		17.8	9.1	34.5	6.7	0.0	9.1	
	平均勤続年数		常勤	0~3年未満	8.2	9.1	0.0	6.7	20.0
		3~5年未満		23.3	18.2	27.6	13.3	20.0	36.4
5~10年未満		28.8		27.3	24.1	40.0	20.0	18.2	
10~20年未満		24.7		27.3	24.1	40.0	20.0	9.1	
20年以上		1.4		0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
無回答		13.7		18.2	24.1	0.0	0.0	9.1	
非常勤		0~3年未満		11.0	18.2	6.9	0.0	20.0	27.3
		3~5年未満	20.5	0.0	13.8	33.3	0.0	54.5	
		5~10年未満	30.1	27.3	20.7	53.3	40.0	9.1	
		10~20年未満	12.3	27.3	13.8	6.7	20.0	0.0	
		20年以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		無回答	26.0	27.3	44.8	6.7	20.0	9.1	

## (5) 同一法人で実施している他の事業

問5	同一法人で実施している他の事業 ※障害福祉サービス等以外
	同一法人で実施している他の事業(障害福祉サービス等以外)
訪問系サービス	訪問介護(4件)、居宅介護支援(3件)、福祉用具(2件)、訪問看護 介護予防・日常生活支援総合事業、地域包括支援センター 訪問診療 自立援助サービス、介護タクシー
日中活動系サービス	福祉有償運送(3件)、点字翻訳(3件)、権利擁護(2件) 訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護 特別養護老人ホーム 地域包括支援センター 介護予防支援事業 ピアカウンセリング、自立生活プログラム
共同生活援助	保育園、老人ホーム、病院
相談支援	—
障害児通所支援	訪問介護(4件)、訪問看護(2件) こども食堂

## (6) サービス提供状況

問6 令和4年12月現在、貴事業所が提供しているサービスについて、①定員、②サービス提供者数、③今後の受入可能人数、④サービス提供者の障害種別、⑤サービス提供者の市内人数、市外人数、⑥利用者の増減(1年前と比較して)をご記入ください。  
 ※訪問系サービスは、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援に分けて、相談支援は特定相談支援(計画相談)、一般相談に分けて、その他は、本調査で回答しているサービスについて記載してください。

今後の「受入可能人数」について、事業別にみると「就労継続支援 B 型」、「短期入所」、「共同生活援助」、「放課後等デイサービス」は多くなっています。

### 【回答数】

	回答数 (箇所)	定員 (人)	提供者 数 (人)	受入 可能 人数 (人)	利用者の障害種別等				利用者の居住地		利用者の増減		
					身体 障害 (人)	知的 障害 (人)	精神 障害 (人)	その他 (人)	市内 (箇所)	市外 (箇所)	増加 (箇所)	減少 (箇所)	変化 なし (箇所)
居宅介護	13		137		110	29	81		135	36	3	5	5
重度訪問介護	8		48		38	3			17	24	1		7
同行援護	5		23	2	19				23	3	1	1	3
行動援護	2		11			4			1	3			2
療養介護	2	184	180	4	178	152		2	4	176			2
生活介護	6	106	132	16	70	88	6	18	62	70		3	3
就労移行支援	1	6	4	2		3	1		2	2	1		
就労継続支援A型	1	10	8	2		3	5		8		1		
就労継続支援B型	8	168	167	81	22	55	86	4	121	46	5	2	1
自立訓練(生活訓練)	2	34	29		1	5	23		21	8	1		1
宿泊型自立訓練	1	14	7	7	1	5	1		7				1
放課後等デイサービス	8	70	190	21	10	92	2	106	103	87	3	3	1
短期入所	9	93	132	57	47	91	3	15	96	44	3	2	4
共同生活援助	16	132	126	25	7	110	20		64	64		1	15
特定相談支援	5		447		100	311	192	34	568	49	3	1	1
一般相談支援	2							2	2			1	1
移動支援	9		120	2	48	53	10		81	94	4	1	4
日中一時支援事業	5	5	44		13	31			43	4	1	1	1
福祉有償運送	1		30		27	2	1		18	12		1	
児童発達支援	2	15	12	13	8	1	4	7	6				

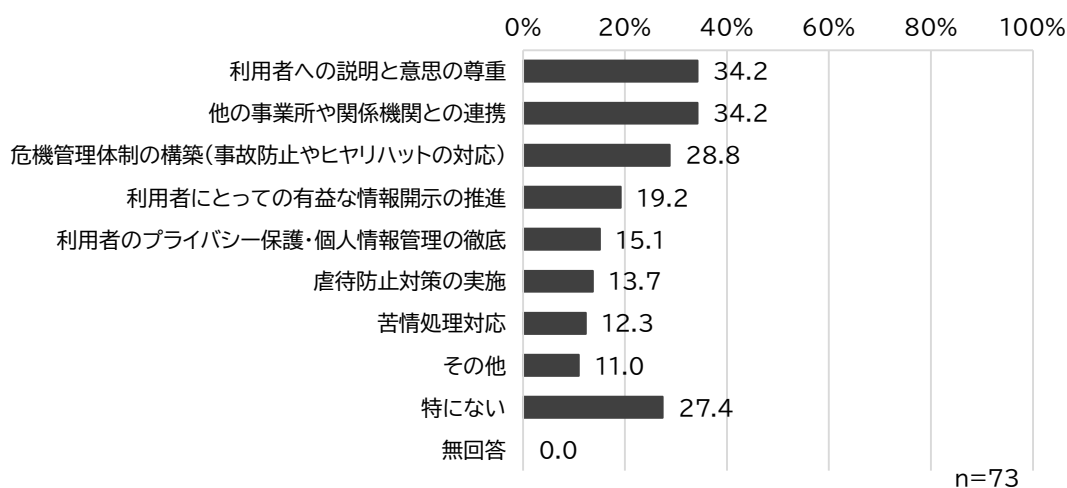
## 3-2 サービス提供の課題について

### (1) 課題

問7 貴事業所が提供しているサービスにおける①事業実施上の課題、②利用者支援での課題、③利用者からの苦情や相談について、ご記入ください。  
(あてはまるものすべてに○)

#### ①事業実施上の課題

「利用者への説明と意思の尊重」と「他の事業所や関係機関との連携」が 34.2%、次いで「危機管理体制の構築(事故防止やヒヤリハットの対応)」(28.8%)、「利用者にとっての有益な情報開示の推進」(19.2%)、「利用者のプライバシー保護・個人情報管理の徹底」(15.1%)の順となっています。

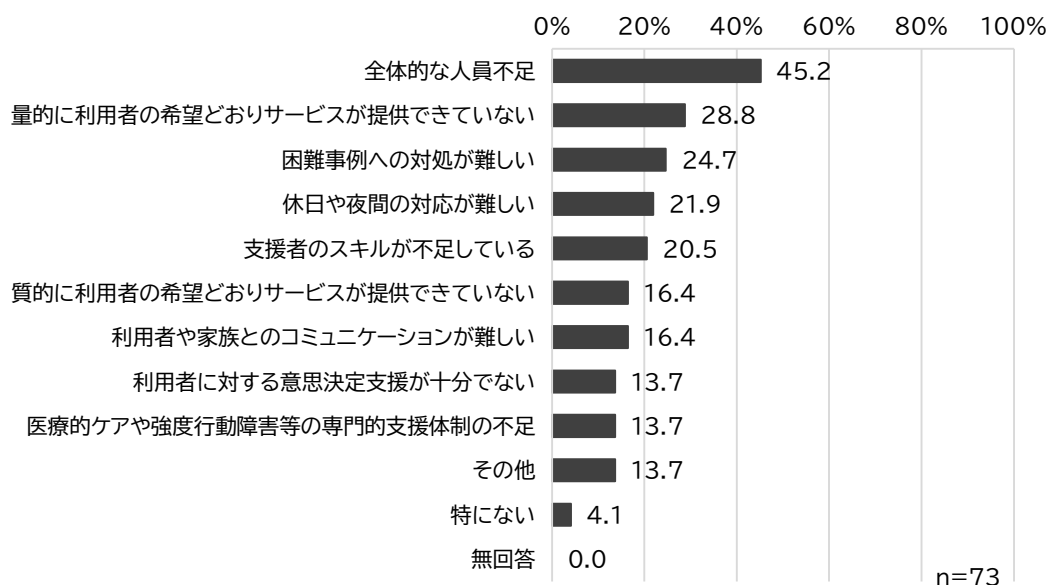


	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
利用者のプライバシー保護・個人情報管理の徹底	15.1	18.2	10.3	20.0	0.0	9.1
利用者への説明と意思の尊重	34.2	36.4	41.4	33.3	20.0	9.1
利用者にとっての有益な情報開示の推進	19.2	18.2	24.1	13.3	40.0	9.1
苦情処理対応	12.3	18.2	13.8	20.0	0.0	0.0
危機管理体制の構築(事故防止やヒヤリハットの対応)	28.8	36.4	31.0	20.0	20.0	36.4
虐待防止対策の実施	13.7	27.3	13.8	13.3	0.0	9.1
他の事業所や関係機関との連携	34.2	36.4	10.3	40.0	20.0	100.0
その他	11.0	9.1	3.4	20.0	0.0	27.3
特にない	27.4	45.5	31.0	26.7	40.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

②利用者支援での課題

「全体的な人員不足」が 45.2%と最も高く、次いで「量的に利用者の希望どおりサービスが提供できていない」(28.8%)、「困難事例への対応が難しい」(24.7%)、「休日や夜間の対応が難しい」(21.9%)、「支援者のスキルが不足している」(20.5%)の順となっています。

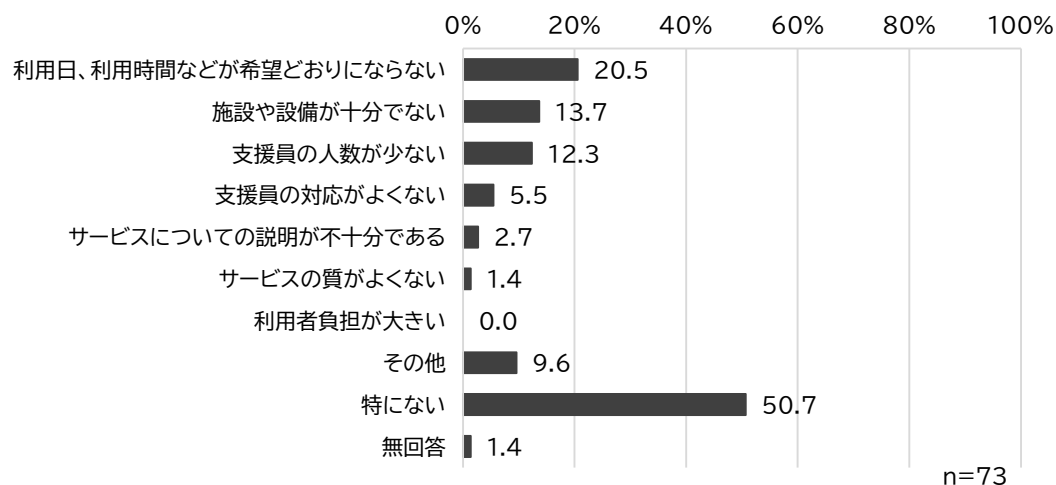
事業別にみると、『人員が不足している』との指摘が多いは全事業に共通ですが、“訪問系サービス”では「休日や夜間の対応が難しい」(72.7%)、“日中活動系サービス”では「困難事例への対応が難しい」(37.9%)、“障害児通所支援”では「支援者のスキルが不足している」(36.4%)が高くなっています。



	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
量的に利用者の希望どおりサービスが提供できていない	28.8	54.5	34.5	0.0	20.0	36.4
質的に利用者の希望どおりサービスが提供できていない	16.4	18.2	20.7	13.3	0.0	9.1
利用者や家族とのコミュニケーションが難しい	16.4	18.2	13.8	26.7	0.0	18.2
利用者に対する意思決定支援が十分でない	13.7	18.2	10.3	6.7	20.0	18.2
困難事例への対応が難しい	24.7	9.1	37.9	20.0	20.0	18.2
休日や夜間の対応が難しい	21.9	72.7	20.7	0.0	20.0	9.1
支援者のスキルが不足している	20.5	36.4	20.7	6.7	0.0	36.4
医療的ケアや強度行動障害等の専門的支援体制の不足	13.7	0.0	13.8	26.7	20.0	9.1
全体的な人員不足	45.2	63.6	37.9	40.0	40.0	45.5
その他	13.7	0.0	13.8	6.7	0.0	45.5
特になし	4.1	0.0	3.4	6.7	20.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### ③サービス利用者からの苦情や相談

「特にない」(50.7%)を除くと、「利用日、利用時間などが希望どおりにならない」が 20.5%、「施設や設備が十分でない」は 13.7%、「支援員の人数が少ない」は 12.3%となっています。



<回答数>	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
	73	11	29	15	5	11
利用日、利用時間などが希望どおりにならない	20.5	27.3	17.2	6.7	0.0	54.5
サービスの質がよくない	1.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
支援員の対応がよくない	5.5	9.1	6.9	0.0	20.0	0.0
支援員の人数が少ない	12.3	9.1	24.1	6.7	0.0	0.0
利用者負担が大きい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
施設や設備が十分でない	13.7	0.0	20.7	0.0	20.0	9.1
サービスについての説明が不十分である	2.7	9.1	3.4	0.0	0.0	0.0
その他	9.6	0.0	10.3	6.7	20.0	18.2
特にない	50.7	54.5	48.3	73.3	40.0	36.4
無回答	1.4	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0

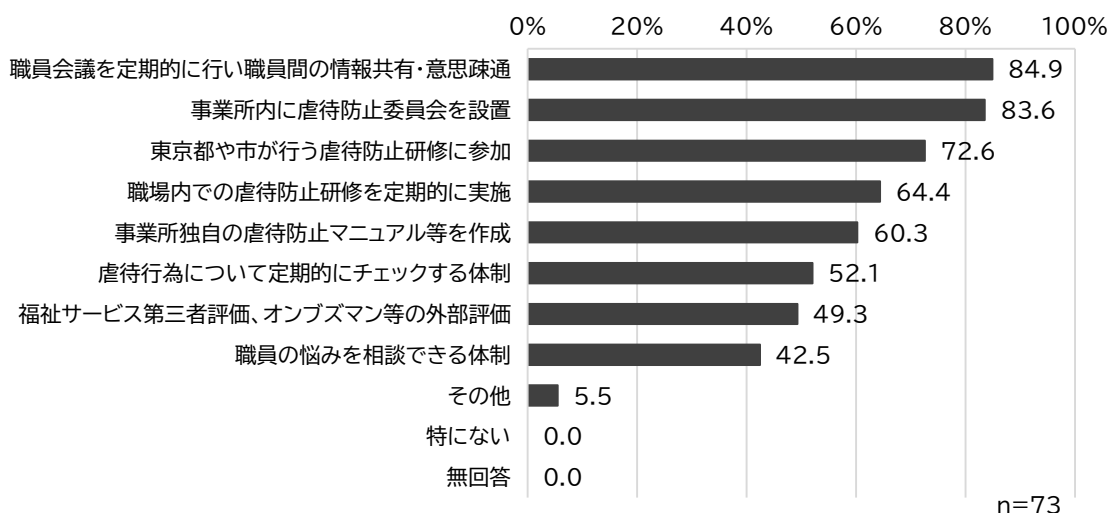


## (2) 取り組んでいる虐待防止対策

問8 貴事業所ではどのような虐待防止対策に取り組んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

「職員会議を定期的に行い職員間の情報共有・意思疎通」が84.9%と最も高く、次いで「事業所内に虐待防止委員会を設置」(83.6%)、「東京都や市が行う虐待防止研修に参加」(72.6%)、「職場内での虐待防止研修を定期的実施」(64.4%)、「事業所独自の虐待防止マニュアル等を作成」(60.3%)の順となっています。

事業別にみると、“日中活動系サービス”(27.6%)と“相談支援”(20.0%)では「職員の悩みを相談できる体制」が低くなっています。“訪問系サービス”(27.3%)と“共同生活援助”(33.0%)では「虐待行為について定期的にチェックする体制」がやや低くなっています。



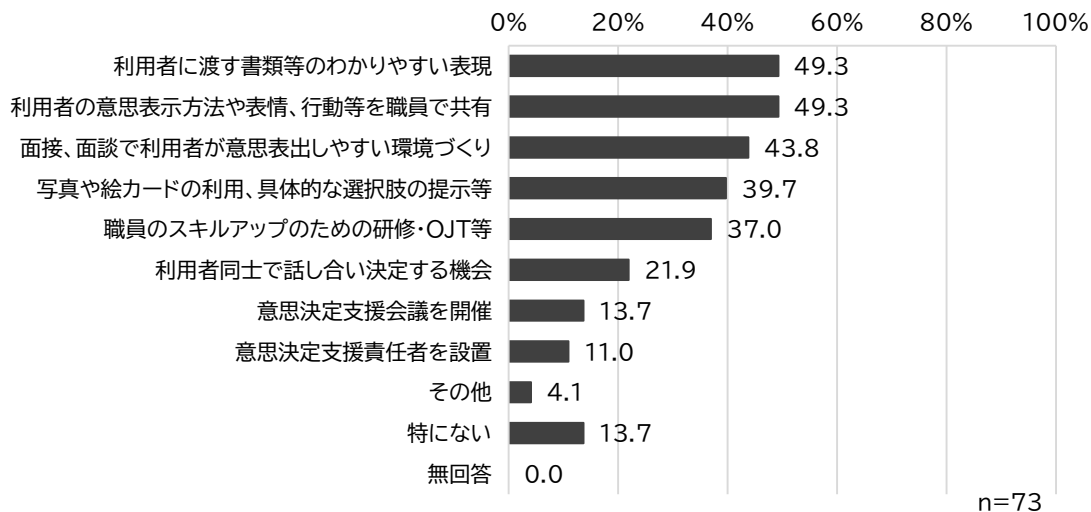
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
事業所内に虐待防止委員会を設置	83.6	72.7	89.7	80.0	80.0	81.8
事業所独自の虐待防止マニュアル等を作成	60.3	45.5	69.0	53.3	40.0	81.8
虐待行為について定期的にチェックする体制	52.1	27.3	72.4	33.3	40.0	63.6
職員の悩みを相談できる体制	42.5	54.5	27.6	60.0	20.0	63.6
職員会議を定期的に行い職員間の情報共有・意思疎通	84.9	81.8	79.3	93.3	80.0	90.9
職場内での虐待防止研修を定期的実施	64.4	72.7	65.5	53.3	20.0	100.0
東京都や市が行う虐待防止研修に参加	72.6	63.6	75.9	86.7	80.0	63.6
福祉サービス第三者評価、オンブズマン等の外部評価	49.3	0.0	69.0	86.7	20.0	0.0
その他	5.5	0.0	0.0	6.7	20.0	18.2
特になし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### (3) 取り組んでいる利用者の意思決定支援

問9 貴事業所では利用者の意思決定支援のために、どのような取り組んでいますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「利用者に渡す書類等のわかりやすい表現」と「利用者の意思表示方法や表情、行動等を職員で共有」が49.3%、「面接、面談で利用者が意思表出しやすい環境づくり」は43.8%、「写真や絵カードの利用、具体的な選択肢の提示等」は39.7%、「職員のスキルアップのための研修・OJT等」は37.0%となっています。

事業別にみると、“障害児通所支援”では「利用者の意思表示方法や表情、行動等を職員で共有」(72.7%)、「写真や絵カードの利用、具体的な選択肢の提示等」(63.6%)が高くなっています。



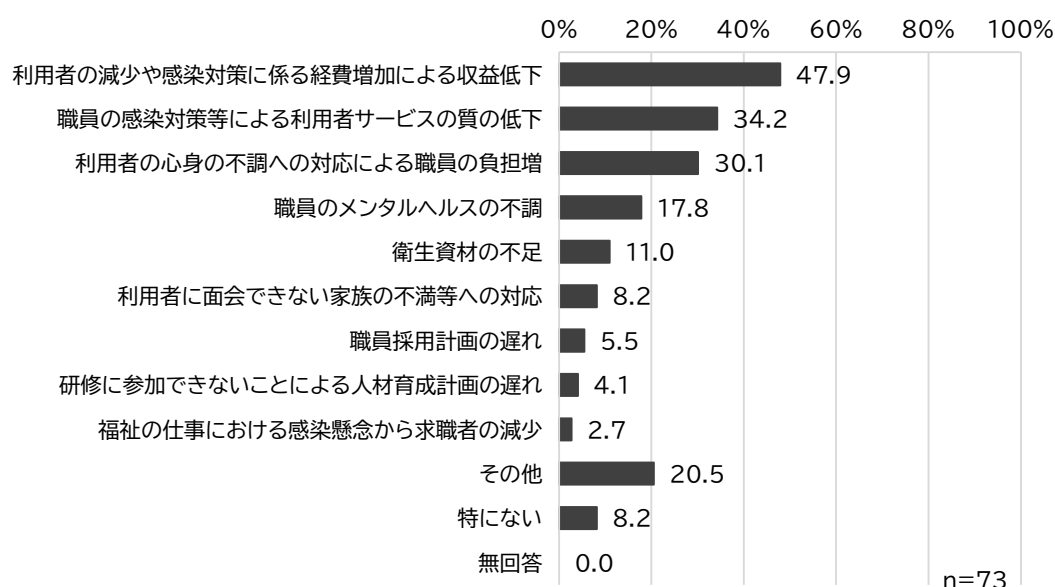
<回答数>	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
	73	11	29	15	5	11
意思決定支援責任者を設置	11.0	9.1	6.9	20.0	0.0	18.2
意思決定支援会議を開催	13.7	9.1	10.3	26.7	0.0	18.2
利用者に渡す書類等のわかりやすい表現	49.3	27.3	55.2	60.0	40.0	54.5
写真や絵カードの利用、具体的な選択肢の提示等	39.7	9.1	48.3	46.7	0.0	63.6
利用者同士で話し合い決定する機会	21.9	0.0	24.1	40.0	0.0	27.3
利用者の意思表示方法や表情、行動等を職員で共有	49.3	18.2	55.2	53.3	20.0	72.7
面接、面談で利用者が意思表出しやすい環境づくり	43.8	36.4	37.9	46.7	80.0	45.5
職員のスキルアップのための研修・OJT等	37.0	9.1	41.4	46.7	20.0	54.5
その他	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3
特にない	13.7	54.5	6.9	6.7	20.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## (4) 新型コロナウイルス感染症による課題

問10 令和4年度現在、新型コロナウイルス感染症による事業運営への影響や課題は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

「利用者の減少や感染対策に係る経費増加による収益低下」が47.9%と最も高く、次いで「職員の感染対策等による利用者サービスの質の低下」(34.2%)、「利用者の心身の不調への対応による職員の負担増」(30.1%)、「職員のメンタルヘルスの不調」(17.8%)の順となっています。

事業別にみると、“障害児通所支援”の「利用者の減少や感染対策に係る経費増加による収益低下」は72.7%となっています。



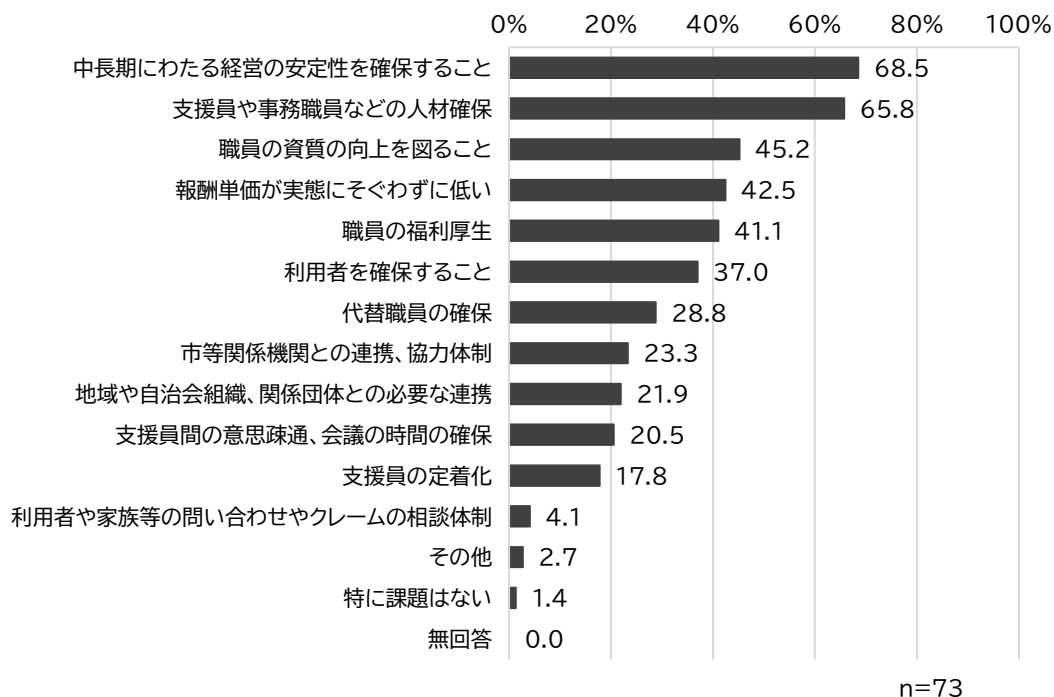
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
衛生資材の不足	11.0	9.1	20.7	6.7	0.0	0.0
利用者の心身の不調への対応による職員の負担増	30.1	36.4	20.7	46.7	20.0	36.4
職員の感染対策等による利用者サービスの質の低下	34.2	27.3	31.0	40.0	20.0	36.4
利用者に面会できない家族の不満等への対応	8.2	0.0	10.3	6.7	40.0	0.0
職員のメンタルヘルスの不調	17.8	9.1	24.1	26.7	0.0	9.1
福祉の仕事における感染懸念から求職者の減少	2.7	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
利用者の減少や感染対策に係る経費増加による収益低下	47.9	54.5	51.7	33.3	0.0	72.7
職員採用計画の遅れ	5.5	0.0	0.0	13.3	0.0	18.2
研修に参加できないことによる人材育成計画の遅れ	4.1	9.1	3.4	0.0	0.0	9.1
その他	20.5	9.1	24.1	20.0	20.0	27.3
特になし	8.2	0.0	10.3	6.7	40.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 3-3 事業運営及び経営状況について

#### (1) 運営及び経営上の課題

問 11 貴事業所の運営及び経営上の課題はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「中長期にわたる経営の安定性を確保すること」が 68.5%と最も高く、次いで「支援員や事務職員などの人材確保」が 65.8%、「職員の資質の向上を図ること」(45.2%)、「報酬単価が実態にそぐわずに低い」(42.5%)、「職員の福利厚生」(41.1%)の順となっています。

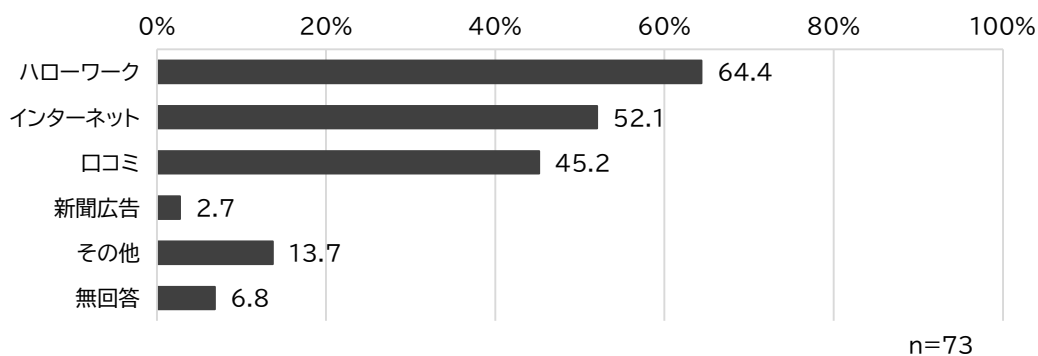


	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
中長期にわたる経営の安定性を確保すること	68.5	54.5	79.3	60.0	60.0	72.7
報酬単価が実態にそぐわずに低い	42.5	45.5	37.9	33.3	60.0	45.5
支援員や事務職員などの人材確保	65.8	72.7	79.3	46.7	40.0	54.5
代替職員の確保	28.8	36.4	20.7	20.0	0.0	72.7
職員の資質の向上を図ること	45.2	18.2	48.3	60.0	40.0	45.5
支援員の定着化	17.8	9.1	6.9	26.7	20.0	45.5
支援員間の意思疎通、会議の時間の確保	20.5	18.2	24.1	20.0	0.0	27.3
職員の福利厚生	41.1	36.4	41.4	26.7	40.0	54.5
利用者を確保すること	37.0	54.5	48.3	6.7	0.0	36.4
利用者や家族等の問い合わせやクレームの相談体制	4.1	9.1	0.0	13.3	0.0	0.0
市等関係機関との連携、協力体制	23.3	18.2	13.8	20.0	0.0	63.6
地域や自治会組織、関係団体との必要な連携	21.9	18.2	10.3	33.3	0.0	54.5
その他	2.7	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
特に課題はない	1.4	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## (2) 人材募集の方法

問12 人材の募集はどのような方法で実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

「ハローワーク」が64.4%と最も高く、次いで「インターネット」(52.1%)、「口コミ」(45.2%)、「新聞広告」(2.7%)の順となっています。



	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
ハローワーク	64.4	54.5	79.3	60.0	60.0	45.5
新聞広告	2.7	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
インターネット	52.1	72.7	62.1	40.0	40.0	36.4
口コミ	45.2	45.5	41.4	73.3	40.0	27.3
その他	13.7	27.3	3.4	20.0	0.0	27.3
無回答	6.8	0.0	3.4	6.7	20.0	9.1

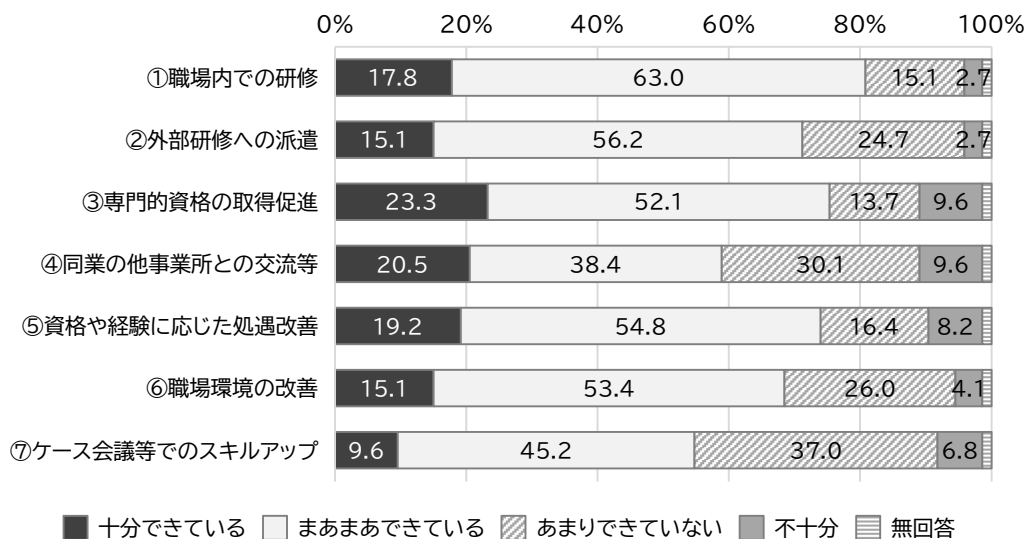
### 【最も効果がある募集方法】

- 口コミ(8件)
- ハローワーク(5件)
- インターネット(4件)
- 保護者
- 知人の紹介
- 紹介会社による紹介
- 法人内で働く登録ヘルパーから募る
- 張り紙

### (3) 人材育成や人材定着のための取組

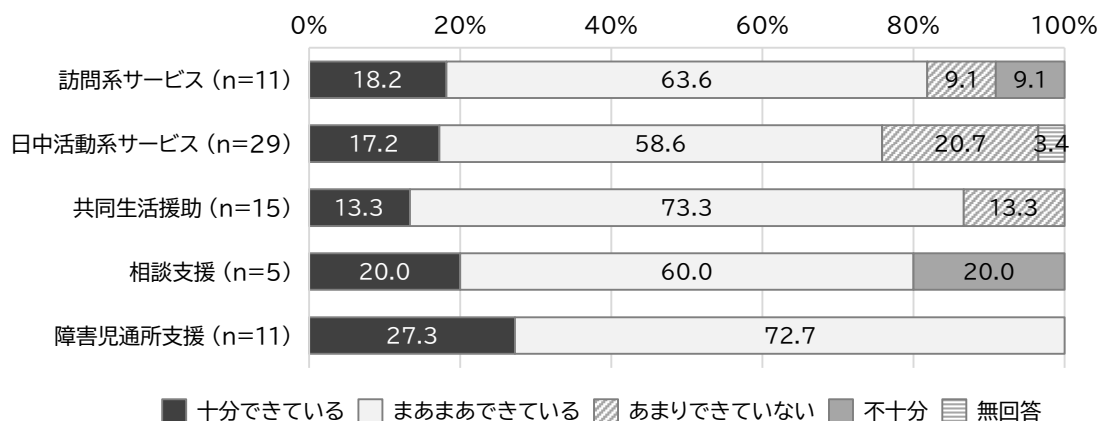
問 13 人材育成や人材定着のための取組について、どの程度取組めていますか。  
(すべての項目について、項目ごとにア～エを選択して記載)

「十分できている」と「まあまあできている」を合わせた“できている”は、①職場内での研修、②外部研修への派遣、③専門的資格の取得促進、⑤資格や経験に応じた処遇改善が70%を超えています。

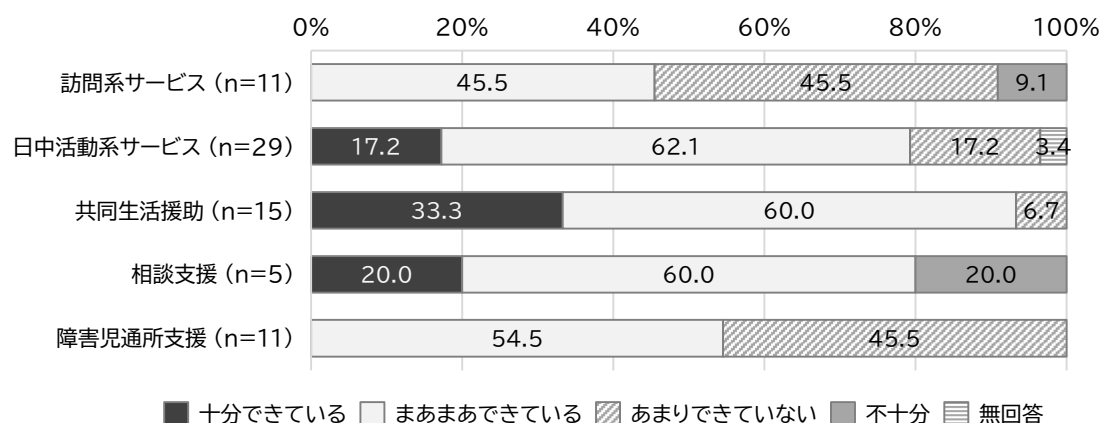


n=73

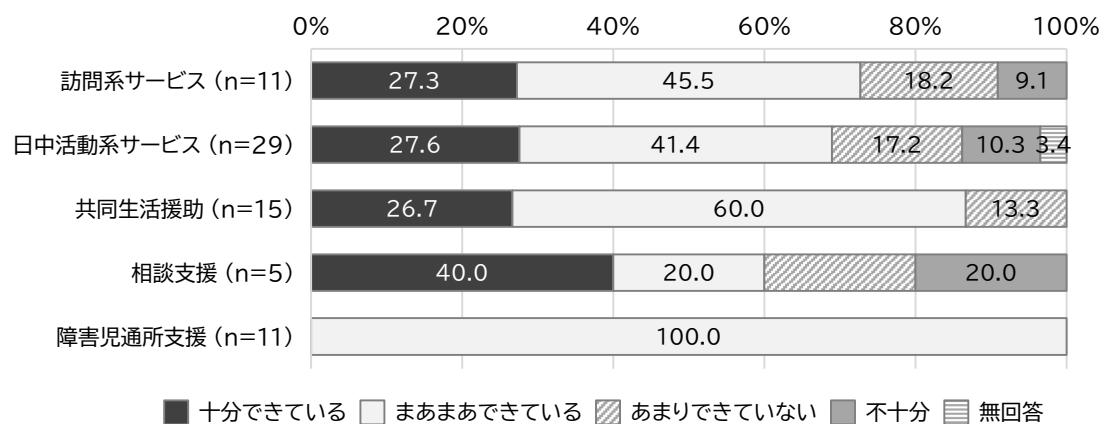
#### 【①職場内での研修】



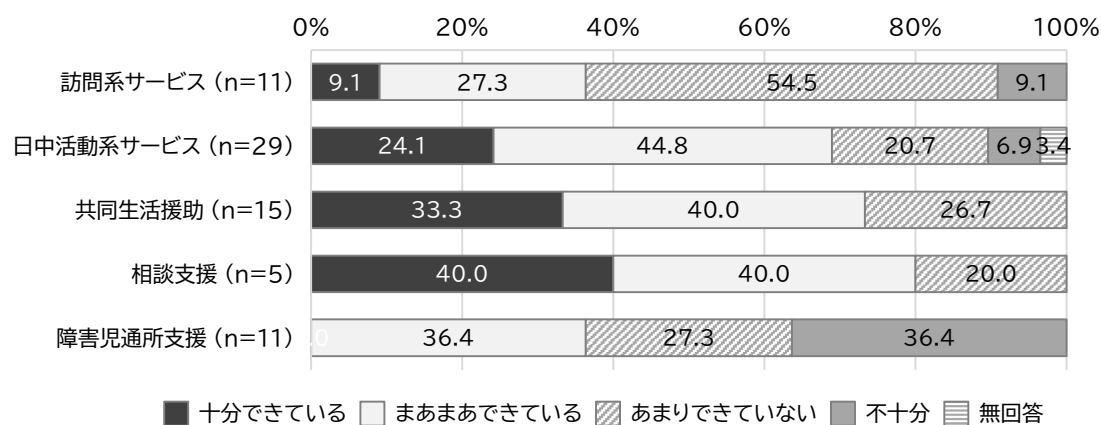
【②外部研修への派遣】



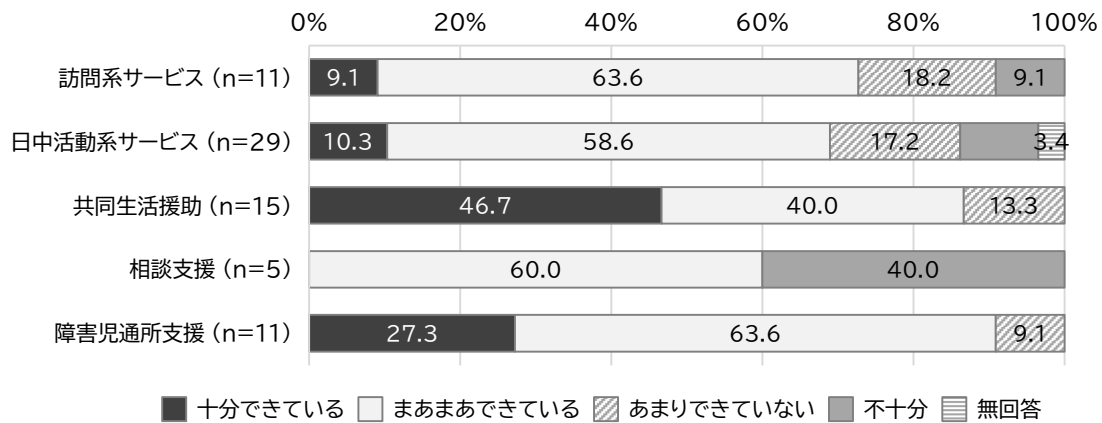
【③専門的資格の取得促進】



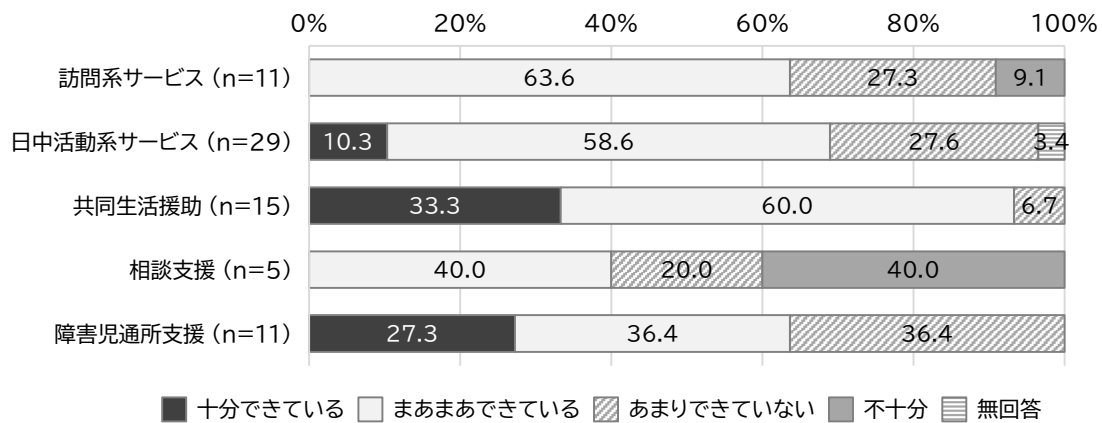
【④同業の他事業所との交流等】



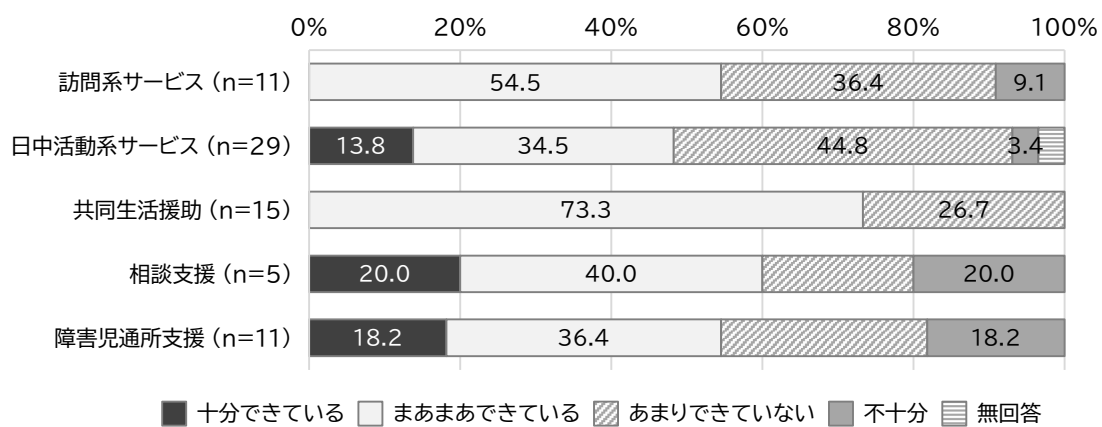
【⑤資格や経験に応じた処遇改善】



【⑥職場環境の改善】



【⑦ケース会議等でのスキルアップ】





## (4) 経営状況

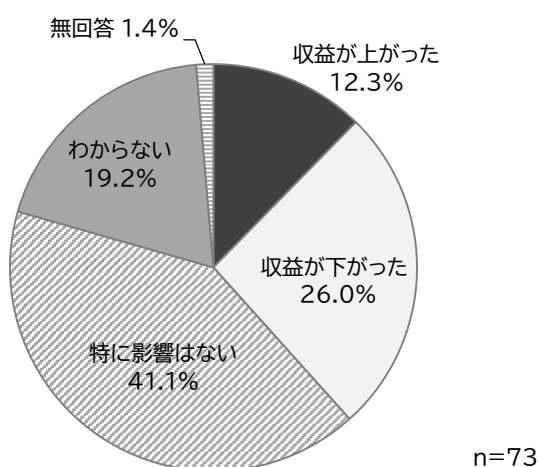
### ①報酬改定の影響

問 14 令和3年度からの障害福祉サービス等報酬改定の影響はありますか。  
(あてはまるもの1つに○)

※移動支援、日中一時支援は回答不要

「特に影響はない」が41.1%と最も高く、次いで「収益が下がった」(26.0%)、「わからない」(19.2%)、「収益が上がった」(12.3%)の順となっています。

事業別にみると、“障害児通所支援”では「収益が下がった」が54.5%となっています。



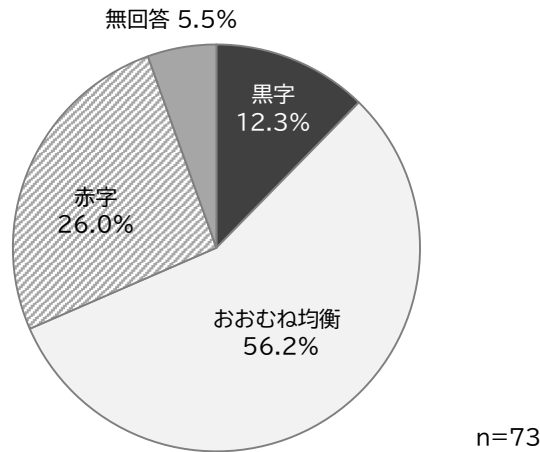
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
収益が上がった	12.3	9.1	17.2	6.7	40.0	0.0
収益が下がった	26.0	9.1	17.2	33.3	0.0	54.5
特に影響はない	41.1	45.5	48.3	53.3	40.0	9.1
わからない	19.2	27.3	17.2	6.7	20.0	36.4
無回答	1.4	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

## ②令和3年度の経営状況

問 15 令和3年度の貴事業所の経営状態は以下のうちどちらですか。(あてはまるもの1つに○)  
 同一法人で複数の事業を実施している場合は、本調査票で回答している事業所についてお書きください。また、赤字である場合は、その理由もお書きください。

「おおむね均衡」は56.2%、「赤字」は26.0%、「黒字」が12.3%となっています。

事業別にみると、“訪問系サービス”や“障害児通所支援”では「赤字」が50%前後となっています。



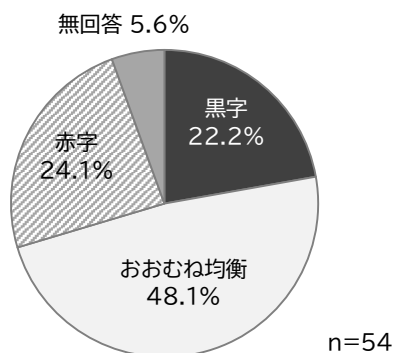
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
黒字	12.3	9.1	13.8	20.0	20.0	0.0
おおむね均衡	56.2	36.4	65.5	80.0	40.0	36.4
赤字	26.0	54.5	17.2	0.0	40.0	45.5
無回答	5.5	0.0	3.4	0.0	0.0	18.2

### 【赤字の理由】

- 人件費がかかる(5件)
- コロナ禍による利用者が減少(4件)
- 報酬改定により単価が下がった(3件)
- 開所して間もない
- 移転など支出増
- 困難例など支援は限りがない。それに応じる収入がない

《前回調査》

問 12 平成 30 年度の貴事業所の経営状態は以下のうちどちらですか。(あてはまるもの1つに○)  
同一法人で複数の事業を実施している場合は、本調査票で回答している事業所についてお書きください。



## 3-4 今後の意向について

### (1) サービスの質の向上

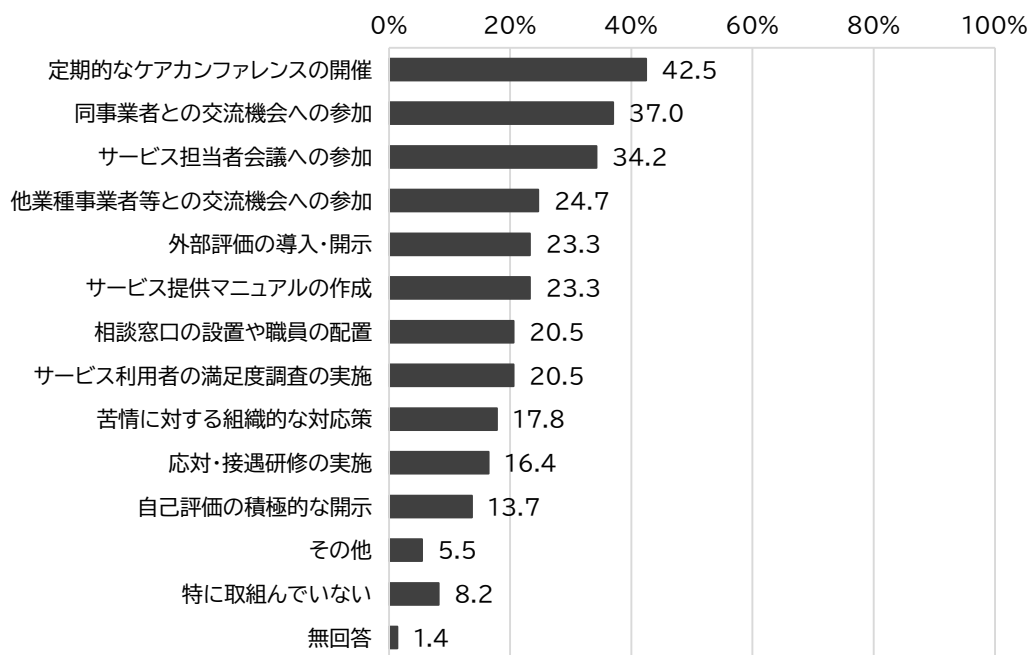
#### ① サービスの質の向上のために現在重点的に取り組んでいること

問 16 サービスの質の向上のため、現在重点的に取組まれていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「定期的なケアカンファレンスの開催」が 42.5%と最も高く、次いで「同事業者との交流機会への参加」(37.0%)、「サービス担当者会議への参加」(34.2%)の順となっています。

事業別にみると、最も高い項目について、“訪問系サービス”は「サービス担当者会議への参加」と「対応・接遇研修の実施」が 54.5%、“日中活動系サービス”は「定期的なケアカンファレンスの開催」が 58.6%、“共同生活援助”は「外部評価の導入・開示」と「同事業者との交流会への参加」が 53.3%となっています。

“相談支援”は「サービス担当者会議への出席」と「同事業所との交流機会への参加」が 40.0%、“障害児通所支援”は「定期的なケアカンファレンスの開催」と「自己評価の積極的な開示」が 63.6%となっています。



n=54

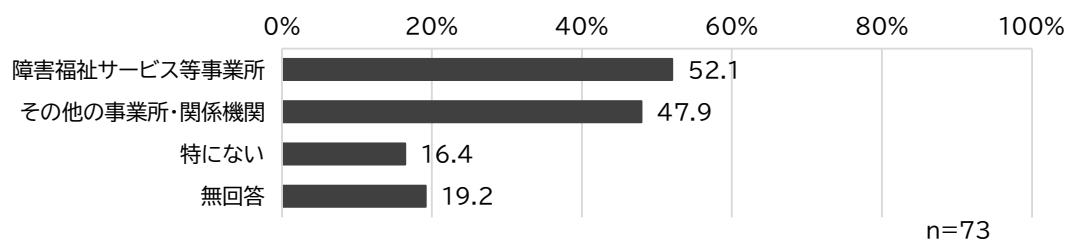
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
相談窓口の設置や職員の配置	20.5	18.2	20.7	13.3	20.0	36.4
定期的なケアカンファレンスの開催	42.5	27.3	58.6	20.0	20.0	63.6
サービス利用者の満足度調査の実施	20.5	36.4	20.7	6.7	0.0	36.4
自己評価の積極的な開示	13.7	9.1	6.9	0.0	0.0	63.6
外部評価の導入・開示	23.3	0.0	27.6	53.3	20.0	0.0
サービス提供マニュアルの作成	23.3	45.5	17.2	13.3	20.0	36.4
サービス担当者会議への参加	34.2	54.5	34.5	33.3	40.0	18.2
同事業者との交流機会への参加	37.0	9.1	34.5	53.3	40.0	36.4
他業種事業者等との交流機会への参加	24.7	18.2	31.0	26.7	20.0	18.2
応対・接遇研修の実施	16.4	54.5	3.4	13.3	0.0	27.3
苦情に対する組織的な対応策	17.8	36.4	17.2	6.7	0.0	27.3
その他	5.5	0.0	0.0	13.3	0.0	18.2
特に取組んでいない	8.2	0.0	13.8	6.7	20.0	0.0
無回答	1.4	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

## (2) 必要な連携や支援

### ① 連携が必要な関係機関

問 17 今後の事業運営にあたり、連携が必要な関係機関はどのようなところですか。

「障害福祉サービス等事業所」が 52.1%、「その他の事業所・関係機関」は 47.9%、「特にない」は 16.4%となっています。



	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
障害福祉サービス等事業所	52.1	45.5	41.4	53.3	60.0	72.7
その他の事業所・関係機関	47.9	9.1	51.7	53.3	80.0	63.6
特にない	16.4	54.5	10.3	13.3	0.0	9.1
無回答	19.2	0.0	34.5	20.0	0.0	9.1

【障害福祉サービス等事業所】

	連携が必要な関係機関
訪問系サービス	特定相談支援
日中活動系サービス	日中活動系サービス(3件)、訪問系サービス 特定相談支援(3件) 自立訓練(2件) 放課後等デイサービス(2件) 就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型 短期入所、共同生活援助
共同生活援助	就労継続支援 B 型(5件) 特定相談支援(3件) 日中活動を行っている事業所(2件)、移動支援、就労継続支援 A 型 社会福祉協議会 法人内外の事業所との連携
相談支援	共同生活介護
障害児通所支援	放課後等デイサービス(4件)、特定相談支援(3件) 夜間のデイサービス(2件) 就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、共同生活介護

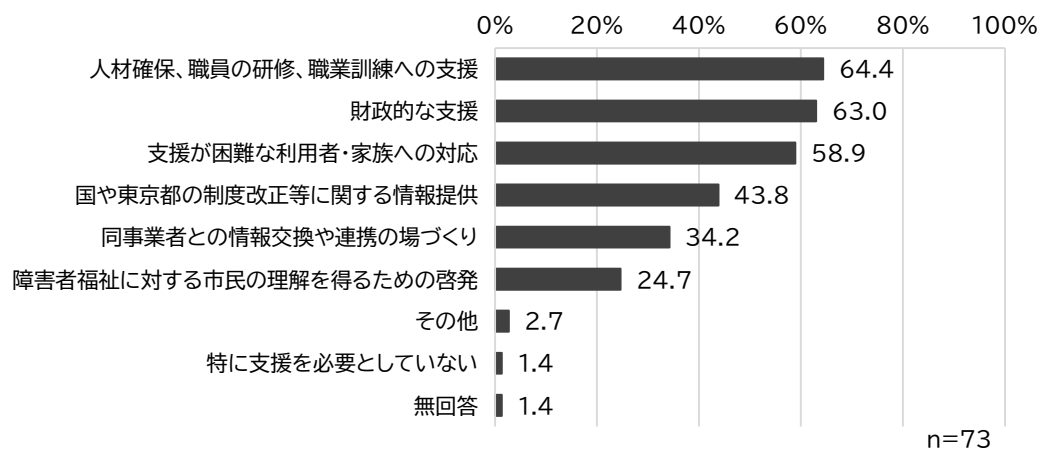
【その他の事業所・関係機関】

	連携が必要な関係機関
訪問系サービス	ケアマネジャー、行政、医療相談支援専門員
日中活動系サービス	市(3件)、学校(3件)、特別支援学級 障害者就労生活支援センター(2件)、ハローワーク、職業センター 地域生活支援センター、相談支援事業所 病院、医療機関 当事者団体、不動産屋、教育機関、自治会 社会福祉協議会、市内の福祉関係事業、訪問看護
共同生活援助	学校 居宅支援事業所、相談支援事業所 食材配送、防災設備、OAリース、後見人
相談支援	学校や地元企業 高齢関係、医療機関
障害児通所支援	学校(4件)、各種高等学校、小中高幼保育園 子ども家庭センター(3件)、相談支援事業所(2件) 病院、主治医 市役所、児童相談所

②必要な関係機関の支援

問 18 今後の事業運営にあたり、行政等の関係機関のどのような支援が必要ですか。  
(必要と思うもの3つに○)

「人材確保、職員の研修、職業訓練への支援」が 64.4%と最も高く、次いで「財政的な支援」(63.0%)、「支援が困難な利用者・家族への対応」(58.9%)、「国や東京都の制度改正等に関する情報提供」(43.8%)の順となっています。



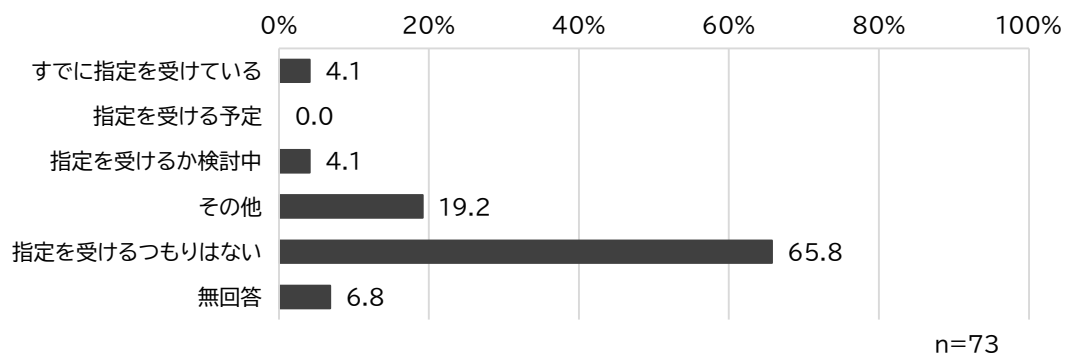
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
人材確保、職員の研修、職業訓練への支援	64.4	72.7	65.5	53.3	40.0	90.9
財政的な支援	63.0	63.6	51.7	53.3	60.0	100.0
同事業者との情報交換や連携の場づくり	34.2	18.2	31.0	40.0	20.0	63.6
支援が困難な利用者・家族への対応	58.9	27.3	65.5	53.3	60.0	72.7
国や東京都の制度改正等に関する情報提供	43.8	36.4	31.0	46.7	60.0	63.6
障害者福祉に対する市民の理解を得るための啓発	24.7	36.4	27.6	20.0	20.0	18.2
その他	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
特に支援を必要としていない	1.4	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
無回答	1.4	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0

### (3) 新たに実施を検討しているサービス

#### ① 共生型サービスの指定を受ける意向

問 19 貴法人では、東大和市内で今後共生型サービスの指定を受ける意向はありますか。指定を受ける予定もしくは検討中の方は、事業種に○を付けてください。  
(あてはまるものすべてに○)

「指定を受けるつもりはない」が 65.8%で最も高く、次いで「すでに指定を受けている」と「指定を受けるか検討中」が 4.1%、「指定を受ける予定」は 0.0%となっています。



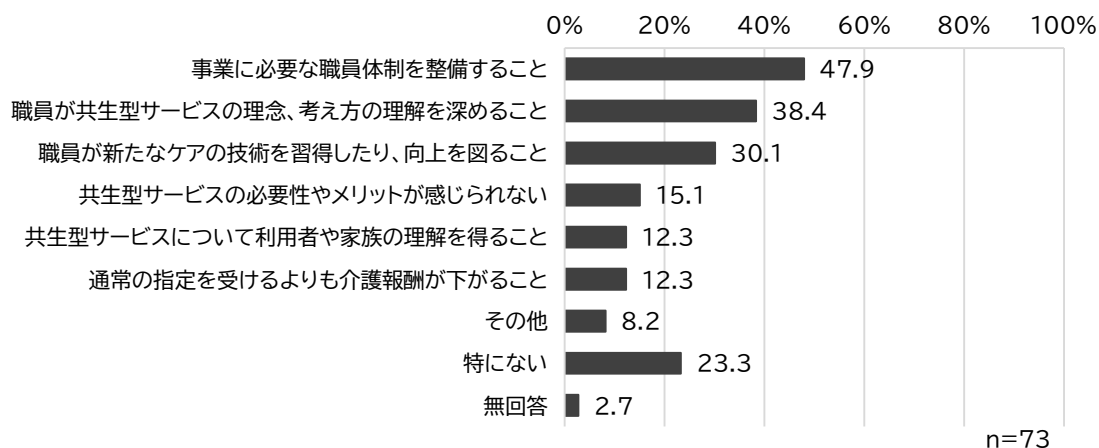
	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
すでに指定を受けている	4.1	9.1	3.4	0.0	20.0	0.0
指定を受ける予定	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指定を受けるか検討中	4.1	18.2	0.0	6.7	0.0	0.0
その他	19.2	9.1	17.2	26.7	0.0	18.2
指定を受けるつもりはない	65.8	63.6	79.3	46.7	80.0	63.6
無回答	6.8	0.0	0.0	20.0	0.0	18.2



②共生型サービスを推進するための課題

問 20 共生型サービスを推進するにあたってどのような課題を感じますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「事業に必要な職員体制を整備すること」が 47.9%と最も高く、次いで「職員が共生型サービスの理念、考え方の理解を深めること」(38.4%)、「職員が新たなケアの技術を習得したり、向上を図ること」(30.1%)の順となっています。



	全体	訪問系サービス	日中活動系サービス	共同生活援助	相談支援	障害児通所支援
<回答数>	73	11	29	15	5	11
共生型サービスの必要性やメリットが感じられない	15.1	18.2	17.2	13.3	20.0	9.1
共生型サービスについて利用者や家族の理解を得ること	12.3	9.1	13.8	13.3	0.0	18.2
職員が共生型サービスの理念、考え方の理解を深めること	38.4	27.3	41.4	26.7	40.0	45.5
職員が新たなケアの技術を習得したり、向上を図ること	30.1	0.0	24.1	40.0	60.0	36.4
事業に必要な職員体制を整備すること	47.9	18.2	62.1	46.7	60.0	45.5
通常の指定を受けるよりも介護報酬が下がること	12.3	18.2	6.9	13.3	0.0	27.3
その他	8.2	9.1	0.0	20.0	20.0	9.1
特にない	23.3	27.3	24.1	13.3	0.0	45.5
無回答	2.7	9.1	0.0	6.7	0.0	0.0

③今後新たに実施予定、実施してみたいサービス

問 21 現在、貴事業所が行っている事業以外で、今後新たに実施予定のサービス、新たに実施してみたいサービスはありますか(障害福祉サービス等以外も含む)。

	新たに実施予定、実施してみたいサービス
日中活動系サービス	共同生活援助(4件) 生活介護、就労継続支援A型、自立生活援助、特定計画相談 居場所的な機能を有するサービス(生活介護等) インクルーシブな放課後の場、みんなの食堂
共同生活援助	相談事業、SNSを利用した若者に向けての相談支援 自立生活援助、地域移行定着支援、 新たに共同生活援助1棟を目指している 自立生活援助、児童等の地域での見守りサービス 多機能型事業所(生活介護、就労継続支援B型) サロンやこども食堂等の居場所
相談支援	自立生活援助(2件)、地域移行、定着支援 居住支援 障害のある人(ない人も)の居場所
障害児通所支援	生活介護(3件)、放課後等デイサービス(2件)、児童発達支援(3件) 青年学級(2件) 相談支援、保育所訪問支援、 多機能型への移行 家庭内の虐待、貧困、不登校に関する課題 要保護児童等見守り強化事業、ヤングケアラーの支援

### 3-5 障害福祉サービス、障害のある人への施策への意見

問 22 東大和市に不足していると思う障害福祉サービス、市として力を入れて取り組むべきと思う障害のある人への施策について、ご意見をお聞かせください。

#### 【不足している障害福祉サービス】

- 短期入所(2件)
- 共同生活援助(2件)
- 精神障害者を対象とした共同生活援助(2件)
- 児童発達支援(2件)
- 移動支援
- 日中一時支援は隙間を埋めるサービスとして必要だと思う。
- 医療ニーズの高い人の共同生活援助
- 精神障害者向けの生活介護
- 精神障害者の地域移行を推進していくためにも、共同生活援助や短期入所の提供体制を増やしていく必要があると思う。
- 居宅訪問型児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護
- 重症心身障害児(者)在宅レスパイト支援事業
- 放課後等デイサービスから生活介護の利用に移行した際、夕方の時間までの保護者が困る。
- 重症心身障害児(者)を対象とした放課後等デイサービス
- 親の就労のため、16時以降の利用者を無償で預かっているが、今後はもっと必要になると思う。
- 動ける重度心身障害児を対象とした短期入所
- 日常生活自立支援事業
- 休日や夜間対応ができる所が少ない。
- 障害のある成人を対象とした16時～20時くらいまでの居場所づくり
- 障害のある人がもっと地域の中で動きやすく生活しやすくなるためのサービス
- 重度の人を対象とした施設入所

#### 【市として取り組むべき障害のある人への施策】

- 移動支援の時間の支給を増やしてほしい。また、行動援護の認定要件について、柔軟に対応してほしい。
- 制度の狭間で苦しむ人たちへの対応の整備
- 障害のある人や児童が活動できる場所の提供
- 居住支援に関すること(アパートを借りる際の保証人の問題への対応)

- 日中一時支援は市として設置できる事業なので、夜間デイサービス、就労継続支援 A 型、生活介護などに併設できるよう制度を整えてほしい。
- 家庭を取り巻く様々な問題に直面するので、普段使われているような場所、身近な場所に相談の入口や窓口がある環境を整えられたらよいと思う。
- 家族が気軽に相談できる場所や機会の創設
- 障害のある人が 24 時間 365 日相談できる体制づくり
- 相談支援専門員の増員、または計画相談事業所の増設への支援
- 相談支援機関の充実(相談員の動きが違いすぎるので統一してほしい)
- 地域の学校や職場で学び、働くことを希望する障害がある人に対する支援事業(介助員の派遣、定着に向けた支援の充実など)
- 朝夕や土日、夏休みなど、サービスの利用が難しい部分への支援対策
- 障害児が自ら望んだ学校へ通学できるよう、小中学校に介助員システムをつくる。
- 医療的ケア児支援協議会の設置
- 障害児へのインクルーシブ教育
- 学齢期からの理解促進を広げて、権利条約が市の中で生かされていると思えるための施策
- 重度心身障害児(者)、医療的ケア児に対する知識を持ってほしい。
- 若年者に向けての啓発。教育分野との連携(小・中・高)
- 市民への啓発(障害に関すること、福祉サービスに関することなど)
- 障害の有無に関係なく、地域の人々がつながれるような仕組み、体制づくり
- 支援者への支援
- 障害児・者の家族も働ける体制づくり
- 母の就労を守ることは、社会を守ることだと思う。必要な人材である支援の必要な子を安心して預け、仕事ができる社会をつくってほしい。
- 8050 問題や親亡き後の生活を見据えて、地域で生活を支えていく環境整備をさらに進めてもらいたい。
- 毎日の金銭管理、細やかな支援が必要な人への対応、ゴミ捨てが自分でできない人など、現状では福祉サービス事業所が無償で対応をしている。そのような取組を評価する仕組みや対応をする施策の検討が必要。
- 障害福祉施設で働いている職員に対する研修
- 障害福祉施設で働いてくれる人の確保

---

## 第4章

### 調査結果のまとめ

---



## 4-1 障害当事者向け調査

---

### (1) 回答者の属性

- 記入者について、“愛の手帳”では、「ご本人の家族」が高くなっています。
- 年齢について、“身体障害者手帳”と“高次脳機能障害がある”で最も割合が高い年代は「80歳以上」、「愛の手帳」と“発達障害がある”は「20歳代」、「精神障害者保健福祉手帳」と“難病患者福祉手当”は「50歳代」となっています。
- 同居家族について、全体では「配偶者」が57.0%と最も高くなっています。“愛の手帳”と“発達障害がある”では、「父」や「母」の割合が高くなっています。
- 世帯の主な収入について、“愛の手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「家族の給与・賃金」が高く、家族が大きな支えになっていることがうかがえます。
- “高次脳機能障害がある”と“発達障害がある”における必要なサポートについて、いずれも「制度や受けられるサービスの情報提供をしてもらえる」や「生活上の相談にのってもらえる」が高くなっており、相談支援と情報提供が課題となっています。

### (2) 介護・支援の状況について

- 介護者・支援者について、“愛の手帳”と“発達障害がある”では「父母」が高く、父母への依存度が高いと考えられます。
- 受けている介護・支援の内容について、“愛の手帳”はどの項目も割合が高い傾向にあり、「金銭管理」が71.8%と最も高くなっています。
- 介護・支援が受けられなくなった場合の対応について、“愛の手帳”、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では「どうしたらいいかわからない」が最も高くなっており、介護者・支援者が亡き後の支援が大きな課題であることがうかがえます。
- 介護・支援をしている家族に必要な支援について、障害等に関わらず「公的サービスの拡充」や「経済的負担の軽減」が高くなっています。

### (3) 住まいや生活について

- 現在の暮らし方について、障害等に関わらず「家族・親族と一緒に暮らしている」が最も高くなっています。
- 今後の暮らし方の意向について、“愛の手帳”では「グループホーム等で暮らしたい」、「精神障害者保健福祉手帳」では「ひとりで暮らしたい」が他の障害等に比べて高くなっています。

## (4) 健康や医療について

- かかりつけの医療機関の有無について、「ある」は障害等に関わらず 90%前後となっていますが、かかりつけの歯科医療機関では 50～70%前後にとどまっています。
- かかりつけ医療機関の所在地について、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では 50%以上が「市外」と答えており、専門的医療機関は市外の利用が多いことが課題となっています。
- 医療機関で困っていることについて、“愛の手帳”や“発達障害がある”では「症状をうまく医師に伝えられない、説明が理解できない」が 20%以上となっています。また、“難病患者福祉手当”では、「医療費の負担が大きい」が他の障害等に比べて高くなっています。

## (5) 就学・就業について

- 就業について、“愛の手帳”では「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援事業所等)」が 38.7%となっています。
- 今後の就業意向について、“精神障害者保健福祉手帳”や“発達障害がある”では「働きたい」が高くなっています。また、障害者が働くために必要なことについて、どの障害等も「障害に応じた柔軟な働き方の整備」や「職場の障害者理解の促進」が高く、就業のための環境に課題を感じていることがうかがえます。
- 通園・通学で困っていること、心配なことについて、どの障害等も「卒後・進路についての情報不足」が高くなっています。

## (6) 外出・社会参加について

- 外出の頻度について、すべての障害等で 70%前後が週2～3回以上外出しています。
- 外出の際、困っていることについては、“愛の手帳”や“発達障害がある”は「まわりの人の理解が不足している」、「精神障害者保健福祉手帳」は「お金がかかる」、「高次脳機能障害がある」は「バスや電車の乗り降りが困難」が高くなっています。

## (7) 障害福祉サービスの利用について

- 就労継続支援 B 型、放課後等デイサービス、補装具費支給事業、相談支援事業以外は、「利用している」を「今後利用したい」が上回っています。
- 「非常に満足」と「やや満足」を合わせて、満足度が 60%を超えているサービスは、「④行動援護」、「③移動支援(ガイドヘルプ)」、「⑭児童発達支援」、「⑰放課後等デイサービス」、「⑳共同生活援助(グループホーム)」、「⑤療養介護」、「⑬宿泊型自立訓練」、「㉔手話通訳者等派遣事業」となっています。



## （8）福祉や生活に関する相談について

- 生活で困ったことについて、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「経済的なこと」や「健康や医療のこと」が高くなっています。
- 困っていることの相談先について、すべての障害等で「家族や親族」が最も高くなっていますが、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”では、「医師・看護師」が30%前後となっています。
- 地域生活支援拠点 ういずねっと i (アイ)の認知度について、障害等に関わらず「知らない」が80%以上となっており、今後のさらなる周知・啓発が課題となっています。

## （9）災害時の避難・対策等について

- 避難の状況について、全体では「できない」が30%を超えています。避難時に助けてくれる人についても「いない」が38.9%となっており、支援者が必要であるにもかかわらず、助けてくれる人がいない状況がうかがえます。
- 災害時に困ることについて、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”では、「日常的に必要な投薬や治療が受けられない」が60%前後となっており、避難所の設備や体制への課題と考えられます。また、“愛の手帳”、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達支援がある”では、「慣れない環境でのパニックやコミュニケーション障害が不安」が高くなっています。
- 避難行動要支援者登録制度への登録について、全体では「登録している」が5.5%なのに対して、「知らなかったが、登録したい」が31.1%となっており、前回調査に比べて登録ニーズは高まっているものの、さらなる普及・啓発が課題となっています。

## （10）新型コロナウイルス感染症の生活への影響について

- コロナ禍で困ったことについて、全体では「外出を自粛している」が37.4%で最も高くなっています。“精神障害者保健福祉手帳”、“発達支援障害がある”では、「精神的に不安になってしまう」も他の障害等に比べて高くなっています。

## （11）障害のある人の権利擁護・理解促進について

- 差別・偏見や疎外感を感じることにについて、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達障害がある”では、「ある」が40%以上となっており、障害等による偏りが見受けられます。
- 差別・偏見や疎外感を感じる場面について、“精神障害者保健福祉手帳”、“難病患者福祉手当”、“発達障害がある”では、「仕事や収入」が50%を超えており、就業環境での理解に課題が見受けられます。
- 障害者差別解消法の認知状況は、前回調査と大きな差がなく、今後さらに、障害当事者及び事業者への周知・啓発を図る必要があると思われます。

## (12) 今後の障害のある人への施策について

- 東大和市の障害のある人への施策への考えについて、すべての障害等で「どちらともいえない」が40%前後となっています。
- 重要だと思う障害のある人への施策について、“精神障害者保健福祉手帳”、“発達障害がある”では、「障害への理解促進」が50%、「雇用・就労支援の充実」は35%を超えています。“難病患者福祉手当”では「医療費助成制度の充実」、「精神障害者保健福祉手帳」と“難病患者福祉手当”では「経済的支援の充実」が40%を超えています。「相談支援体制の充実」は、“精神障害者保健福祉手帳”が23.8%となっています。
- 自由回答では、「健康・医療」(10.5%)、「障害福祉サービス」(9.8%)、「住まい・生活」(7.4%)、「介護」(6.9%)等に多くの意見・要望が寄せられました。

## 4-2 障害サービス等事業者向け調査

---

### (1) 事業所の基礎情報

- 回答のあった提供サービスは、「訪問系サービス」が 15.1%、「日中活動系サービス」は 39.7%、「共同生活援助」は 20.5%、「相談支援」は 6.8%、「障害児通所支援」は 15.1%となっています。
- 法人種別について、「社会福祉法人」が 38.4%、「NPO法人」は 37.0%、「会社法人」は 15.1%、「その他」は 9.6%となっています。
- 職員について、常勤・非常勤ともに、人数は「10 人未満」、平均年齢は「40～50 歳代」、平均勤続年数は「5～10 年未満」が最も高くなっています。
- 常勤職員では、平均年齢の 30 歳代が増え、平均勤続年数の「5～10 年未満」と「10～20 年未満」が増えるなど、若干の人材確保や定着が進んだ傾向が見受けられますが、今後とも福祉人材の確保・定着が課題と思われる。

### (2) サービス提供の課題について

- 事業実施上の課題について、「利用者への説明と意思の尊重」、「他の事業所や関係機関との連携」、「危機管理体制の構築(事故防止やヒヤリハットの対応)」が 30%前後となっています。
- 利用者支援での課題について、「全体的な人員不足」の他、訪問系サービスでは「休日や夜間の対応が難しい」、日中活動系サービスでは「困難事例への対応が難しい」、障害児通所支援では「支援者のスキルが不足している」が高くなっています。
- 取り組んでいる虐待防止対策について、「職員会議を定期的に行い職員間の情報共有・意思疎通」や「事業所内に虐待防止委員会を設置」が高くなっています。
- 取り組んでいる利用者の意思決定支援について、「利用者に渡す書類等のわかりやすい表現」、「利用者の意思表示方法や表情、行動等を職員で共有」、「面接、面談で利用者が意思表出しやすい環境づくり」が高くなっています。
- 新型コロナウイルス感染症による課題について、「利用者の減少や感染対策に係る経費増加による収益低下」が最も高くなっています。

### (3) 事業運営及び経営状況について

- 運営及び経営上の課題について、「中長期にわたる経営の安定性を確保すること」と「支援員や事務職員などの人材確保」が高くなっています。
- 人材の募集方法について、「ハローワーク」が最も高く、次いで「インターネット」、「口コミ」の順となっています。
- 令和3年度の経営状況について、「おおむね均衡」が 56.2%、「赤字」は 26.0%、「黒字」は 12.3%となっています。

#### **(4) 今後の意向について**

- サービスの質の向上のために現在重点的に取り組んでいることについて、「定期的なケアカンファレンスの開催」が42.5%と最も高くなっています。
- 必要な関係機関の支援について、「人材確保、職員の研修、職業訓練への支援」が64.4%と最も高く、次いで「財政的な支援」(63.0%)、「支援が困難な利用者・家族への対応」(58.9%)、「国や東京都の制度改正等に関する情報提供」(43.8%)の順となっています。
- 共生型サービスを推進するための課題について、「事業に必要な職員体制を整備すること」が47.9%と最も高くなっています。
- 新たに実施を検討しているサービスについて、“共同生活援助”、“自立生活援助”、“生活介護”、“放課後等デイサービス”、“児童発達支援”などの回答がみられます。

#### **(5) 障害福祉サービス、障害のある人の施策への意見**

- 東大和市に不足していると思う障害福祉サービスについて、“共同生活援助”、“短期入所”、“児童発達支援”をはじめとする回答があります。
- 市として力を入れて取り組むべきと思う障害のある人への施策について、支援が困難な利用者や家族への対応、財政的な支援、親亡き後の生活を見据えた対応をはじめ、共生社会を目指した環境の充実を求める多くの意見があります。

---

# 資料

---



# 1 障害当事者向け調査票

## 第3次東大和市障害者総合プラン策定のための アンケート調査 ご協力をお願い

日頃より、東大和市の福祉行政にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

東大和市では、令和3年に第2次東大和市障害者総合プランを策定し、事業を進めてまいりましたが、計画年度の終了に伴い、現行計画策定後の状況の変化などを踏まえ、令和6年度を初年度とする第3次東大和市障害者総合プラン（第6次障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画）を策定するはこびとなりました。

そこで、障害のある方のご意見・ご要望等を把握し、計画策定および今後の障害のある人を対象とした施策の推進に役立てるため、アンケート調査を実施することにいたしました。

この調査は、東大和市にお住まい（市外の施設やグループホーム入居者も含む）の「身体障害者手帳」「愛の手帳」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と、「難病患者福祉手当」を受給されている方を対象に送付させていただきます。調査は、無記名郵送方式で回答いただきますので、回答された方が特定されたり、回答内容が明らかにされたりすることはありません。また、回答いただいた内容は、統計的に処理し、計画策定および施策推進のための基礎資料としてのみ使用し、その他の目的で使用することは一切ありません。

市におきましては、さまざまな計画策定を進めており、他の調査と重ねてのお願いとなる方もいらっしゃるかと存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査票の回答にあたっては、裏面の「ご記入にあたってのお願い」をお読みいただき、ご記入いただきますようお願いいたします。

令和4年12月

東大和市長 尾崎 保夫

きゅうねが  
ご記入にあたってのお願い

- 1 この質問の中で「あなた」とは、この調査票のあて名の方（ご本人）です。ご本人がお答えになるのが難しい場合には、ご家族の方や支援者の方等がご本人に代わってお答えください。
- 2 質問によっては回答する方を限定しているものもありますので、質問の順にお答えください。
- 3 お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を、質問文最後の（ ）内に示された数の範囲で選び、その番号を○で囲んでください。
- 4 「その他」を選択し○をつけたときは、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- 5 ご記入いただきました調査票は、住所、氏名を書かずに同封の返信用封筒に入れて、**12月26日（月）**までに郵便ポストに投函してください（切手は不要）。

この調査に関しての問い合わせは、下記までお願いいたします。

ひがしやまとし ちいきふくしふ しょうがいふくしか しょうがいふくしがかり  
東大和市 地域福祉部 障害福祉課 障害福祉係

でんわ ないせん  
電話：042-563-2111（内線1123、1129） Fax：042-563-5928

メールアドレス：shogaifukushi@city.higashiyamato.lg.jp



ちょうさひょう  
調査票

◆ご記入される方はどなたですか。あなた（あて名のご本人）からみた続柄でお答えください。（1つだけに○）

1. ご本人	2. ご本人の家族
3. 家族以外の介助者・支援者	4. その他（ ）

## 1. あなたご自身のことについて

問1. あなたの性別をお答えください。（1つだけに○）

1. 男性	2. 女性	3. 選択せず
-------	-------	---------

問2. あなたは何歳ですか。

令和4年12月1日現在で満

歳

問3. あなたがお住まいの地域はどこですか。（1つだけに○）

1. 狭山	2. 清水	3. 高木	4. 湖畔	5. 奈良橋
6. 蔵敷	7. 芋窪	8. 清原	9. 仲原	10. 中央
11. 上北台	12. 立野	13. 南街	14. 向原	15. 新堀
16. 桜が丘	17. 市外（	都	道府県	区市町村

問4. あなたの世帯についておたずねします。

1-①現在いっしょに暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。（1つだけに○）

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
-------	-------	-------	-------	-------	---------

※グループホーム、入所施設等を利用されている方は「1. 1人」としてください。

1-②現在いっしょに暮らしている人は次のどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 配偶者	2. 父	3. 母
4. 子（子の配偶者を含む）	5. 配偶者の父母	6. 祖父母
7. 兄弟姉妹	8. その他（ ）	

問5. あなたの世帯の主な収入（一番多い収入）は何ですか。（1つだけに○）

1. あなた自身の給与・賃金	2. ご家族の給与・賃金
3. 事業収入（自営業等）	4. 年金・手当
5. 生活保護	6. その他（ ）

問6. あなたは「身体障害者手帳」「愛の手帳」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちですか。

もしくは、「難病」「高次脳機能障害」「発達障害」がありますか。

(あてはまるものすべてに○をし、障害の等級や各部位の等級それぞれについて○をつけてください。)

1. 身体障害者手帳 → (総合等級：1級 2級 3級 4級 5級 6級)

部位	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚	1級	2級	3級	4級	5級	6級
聴覚平衡	2級	3級	4級	5級	6級	
音声言語	3級	4級				
肢体不自由	1級	2級	3級	4級	5級	6級
内部障害	1級	2級	3級	4級		

2. 愛の手帳 → (程度：1度 2度 3度 4度)

3. 精神障害者保健福祉手帳 → (等級：1級 2級 3級)

4. 難病がある

5. 高次脳機能障害がある ⇒ 1-①へ

6. 発達障害がある ⇒ 2-①へ

【問6で「5. 高次脳機能障害がある」と答えた方へ】

1-① 高次脳機能障害による症状があることで、日常生活の中で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 勉強がはかどらない
- 今までどおりに家事や仕事ができない
- 失職した、または仕事が見つからない
- 経済的に苦しい
- コミュニケーションがうまくいかない、トラブルになる
- 人間関係が悪化した、家族や友人と疎遠になった
- ひとりで生活することが困難
- その他 ( )

1-② 前問(1-①)のようなことに対し、どのようなサポートがあればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 生活上の相談にのってもらえる
- 仕事の相談にのってもらえる
- 福祉制度や受けられるサービスについて情報提供してもらえる
- 「高次脳機能障害」について詳しく教えてもらえる
- 障害のある方同士で交流できる場の提供
- 障害のある方のご家族が交流できる場の提供
- その他 ( )

【問6で「6. 発達障害がある」と答えた方へ】

2-① 発達障害による症状があることで、日常生活の中で困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 幼稚園や認定こども園、保育園、学校で周囲になじめない、不登校である
2. 勉強についていけない
3. 家庭内に引きこもっている
4. 仕事があまくいかない、仕事が続かない
5. 失職した、仕事が見つからない
6. 経済的に苦しい
7. 人間関係があまくいかない、トラブルになる
8. その他 ( )

2-② 前問(2-①)のようなことに対し、どのようなサポートがあればよいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 幼稚園や認定こども園、保育園、学校との話し合いをもってもらえる
2. 進学や就職の際の相談にのってもらえる
3. 仕事をする上でのサポートをしてもらえる
4. 生活上の相談にのってもらえる
5. 福祉制度や受けられるサービスについて情報提供してもらえる
6. 「発達障害」について詳しく教えてもらえる
7. 障害のある方同士で交流できる場の提供
8. 障害のある方のご家族が交流できる場の提供
9. その他 ( )

問7. あなたは、令和4年12月1日現在、介護保険の要支援・要介護認定を受けていますか。

(1つだけに○)

1. 要支援1      2. 要支援2
3. 要介護1    4. 要介護2    5. 要介護3    6. 要介護4    7. 要介護5
8. 認定は受けていない

## 2. 介護・支援の状況について

問8. あなたの介護者・支援者はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |         |           |          |
|--------------|---------|-----------|----------|
| 1. 配偶者       | 2. 父母   | 3. 子      | 4. 孫     |
| 5. 祖父母       | 6. 兄弟姉妹 | 7. その他の親族 | 8. 隣人・知人 |
| 9. ホームヘルパー   | 10. 世話人 | 11. 施設職員  |          |
| 12. その他 ( )  |         |           |          |
| 13. 特にいない    |         |           |          |
| 14. 必要としていない |         |           |          |

【問8で「1.」～「12.」と答えた方へ】

問9. どのようなことで介護・支援を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |         |          |             |              |
|---------|----------|-------------|--------------|
| 1. 食事   | 2. 家事    | 3. トイレ      | 4. 着替え・身だしなみ |
| 5. 入浴   | 6. 寝返り   | 7. 室内の移動    | 8. 外出        |
| 9. 金銭管理 | 10. 薬の管理 | 11. その他 ( ) |              |

【問8で「1.」～「12.」と答えた方へ】

問10. 介護者・支援者があなたを介護・支援できなくなった場合はどうしたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                  |
|-------------------------|------------------|
| 1. 一緒に住んでいる家族に頼みたい      |                  |
| 2. 一緒に住んでいない家族や親せきに頼みたい |                  |
| 3. ホームヘルプを利用したい         | 4. ショートステイを利用したい |
| 5. 施設に入所したい             | 6. グループホームに入居したい |
| 7. 病院に入院したい             | 8. どうしたらいいかわからない |
| 9. その他 ( )              |                  |

◆問11 は障害のある人を介護・支援している家族の方にうかがいます。介護・支援している家族がいない方は問12にお進みください。

問11. 障害のある人を介護している家族への支援として必要なことはどんなことですか。

(必要と思われるもの2つに○)

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1. 休息をとれる機会の確保 | 2. 公的サービスの拡充       |
| 3. 介護の技術や知識の習得 | 4. 介護者同士の交流・情報交換の場 |
| 5. 経済的負担の軽減    | 6. その他 ( )         |

### 3. 住まいや生活について

問12. あなたは、現在、どのように暮らしていますか。(1つだけに○)

1. ひとりで暮らしている
2. 家族・親族と一緒に暮らしている
3. 友達等知り合いと一緒に暮らしている
4. グループホーム等で暮らしている
5. 障害者施設で暮らしている
6. 介護保険（高齢者）施設で暮らしている
7. 入院している
8. その他（ ）

問13. あなたは、今後、どのようにして暮らしたいですか。(1つだけに○)

1. ひとりで暮らしたい
2. 家族・親族と一緒に暮らしたい
3. 友達等知り合いと一緒に暮らしたい
4. グループホーム等で暮らしたい
5. 障害者施設で暮らしたい
6. 介護保険（高齢者）施設で暮らしたい
7. その他（ ）
8. わからない

### 4. 健康や医療について

問14. あなたは医療機関に通院等していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 定期的に通院している
2. 定期的に訪問診療・訪問看護を受けている
3. 現在入院している
4. 入院・通院等はしていない
5. その他（ ）

問15. あなたは健康相談や治療をしてくれる身近な医師等（かかりつけ医）がいますか。

次の(1)と(2)のそれぞれにお答えください。(それぞれ1つだけに○)

- |                      |              |       |
|----------------------|--------------|-------|
| (1) かかりつけの医療機関について   | 1. ある（市内・市外） | 2. ない |
| (2) かかりつけの歯科医療機関について | 1. ある（市内・市外） | 2. ない |

問16. あなたは医療機関について困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家の近くに医療機関がない
2. 障害についての専門的医療機関がない
3. 障害について理解した上で対応してくれる医療機関がない
4. 休日や夜間に対応してくれる医療機関がない
5. 通院のための交通手段を確保するのが困難である
6. 通院に付き添ってもらう人の確保が困難である
7. 医療機関の院内がバリアフリーでない
8. 症状をうまく医師に伝えられない、医師の説明が理解できない
9. 医療費の負担が大きい
10. その他 ( )
11. 特に困ったことはない

## 5. 就学・就業について

◆問17から問20は18歳以上の方にうかがいます。18歳未満の方は問21にお進みください。

問17. あなたは現在、働いていますか。(1つだけに○)

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正規の職員・従業員として働いている</li> <li>2. パート・アルバイト等で働いている</li> <li>3. 自宅働いている(自営業、家業の手伝い等)</li> <li>4. 福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援事業所等)</li> <li>5. 以前働いていたが、現在は働いていない</li> <li>6. 働いたことがない</li> </ol> | } | ⇒問18へ |
|  | } | ⇒問19へ |

【問17で「1.」～「4.」と答えた方へ】

問18. 仕事をする上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職場環境が障害に対応していない</li> <li>3. 就業時間が長い</li> <li>5. 職場の人の理解が不足している</li> <li>7. 体力的につらい</li> <li>9. 仕事が合わない</li> <li>11. その他 ( )</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 通勤が大変である</li> <li>4. 仕事内容が難しい</li> <li>6. 人間関係が良くない</li> <li>8. 収入が少ない</li> <li>10. 転職したい</li> <li>12. 特にない</li> </ol> |
|--|--|

【問17で「5.」または「6.」と答えた方へ】

問19. あなたは今後働きたいと思っていますか。(1つだけに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

◆18歳以上の方にはうかがいます。

問20. 障害のある人が働くためにはどのようなことが必要だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 就労に関する相談機関や支援員          | 2. 障害に応じた職業訓練の場       |
| 3. 職場での就労体験実習              | 4. 障害のある人向けの求人情報の提供   |
| 5. 企業における障害のある人の雇用促進       | 6. 職場における障害のある人への理解促進 |
| 7. 職場環境の改善                 | 8. ジョブコーチ※等の支援        |
| 9. 障害に応じた柔軟な働き方(短時間労働等)の整備 |                       |
| 10. 離職後の支援                 | 11. 仕事以外の生活面等での支援     |
| 12. その他( )                 |                       |

※「ジョブコーチ」とは、障害のある人が働く職場に支援者が出向く等により、職場適応・定着を支援する制度です。

◆問21と問22は18歳未満の方にはうかがいます。18歳以上の方は問23にお進みください。

問21. あなたが主に通園・通学しているところはどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- |               |             |               |
|---------------|-------------|---------------|
| 1. 幼稚園        | 2. 認定こども園   | 3. 保育園        |
| 4. 障害児の療育施設   | 5. 小学校の通常学級 | 6. 小学校の特別支援学級 |
| 7. 特別支援学校小学部  | 8. 中学校の通常学級 | 9. 中学校の特別支援学級 |
| 10. 特別支援学校中学部 | 11. 高等学校    | 12. 特別支援学校高等部 |
| 13. その他の学校( ) |             |               |
| 14. その他( )    |             |               |

問22. 通園・通学において困っていること、心配なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. 通園・通学の送迎     | 2. 園や学校の設備面の不備    |
| 3. 園や学校の人的支援の不足 | 4. 周囲の子どもとの関係     |
| 5. 教職員の指導方法     | 6. 他の父母との関係       |
| 7. 放課後の過ごし方     | 8. 卒後・進路についての情報不足 |
| 9. 経済的負担        |                   |
| 10. その他( )      |                   |
| 11. 特にない        |                   |

## 6. 外出・社会参加について

問23. あなたの外出回数はどれくらいですか。(1つだけに○)

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. ほとんど毎日    | 2. 週 2～3 回程度 | 3. 月 2～3 回程度 |
| 4. ほとんど外出しない | 5. その他 ( )   |              |

問24. あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(多い目的3つに○)

- |             |                 |              |
|-------------|-----------------|--------------|
| 1. 通勤・通学・通所 | 2. 訓練・リハビリテーション | 3. 通院        |
| 4. 買い物      | 5. 趣味やスポーツ      | 6. グループ活動や会合 |
| 7. 散歩       | 8. 友達に会う        | 9. その他 ( )   |

問25. あなたが外出の際、困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 公共交通機関が少ない                      |
| 2. バスや電車の乗り降りが困難である                |
| 3. 道路や建物・駅に階段や段差が多い                |
| 4. 外出先や建物の設備が不便(段差、トイレ、エレベーター等)である |
| 5. バスや電車運行の音声案内や文字案内がない            |
| 6. 視覚障害者誘導用ブロックや音声誘導装置等が不十分である     |
| 7. 障害のある人のための駐車スペースが少ない            |
| 8. 通路上に自転車や看板等の障害物があって通りにくい        |
| 9. 介助者・支援者が確保できない                  |
| 10. お金がかかる                         |
| 11. 発作やパニックが心配で外出できない              |
| 12. まわりの人の障害のある人に対する理解が不足している      |
| 13. 切符の買い方や乗り換えの方法がわからない           |
| 14. その他 ( )                        |
| 15. 特にない                           |

問26. 障害のある人の社会参加のために最も必要と思う支援は何ですか。(1つだけに○)

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| 1. 外出を支援するヘルパー等          | 2. 休日等の余暇活動の場の確保 |
| 3. 公民館活動等に障害のある人が参加できる配慮 | 4. 外出のためのバリアの除去  |
| 5. 移動手段の整備               |                  |
| 6. その他 ( )               |                  |



## 7. 障害福祉サービスの利用について

- 問27. 障害福祉サービスの利用について、利用している場合は、「利用している」に○をして、評価欄のいずれかに○をしてください。今後利用したいサービスがあれば、「今後利用したい」に○をしてください。  
(現在利用していて、今後も利用したい場合も○をしてください)。

サービス区分	利用している	評価 (いずれかに○)					今後利用したい
		非常に満足	やや満足	ふつう	やや不満	非常に不満	
① 居宅介護 (身体介護、家事援助、通院介助)							
② 重度訪問介護							
③ 同行援護							
④ 行動援護							
⑤ 療養介護							
⑥ 生活介護							
⑦ 就労移行支援							
⑧ 就労継続支援A型							
⑨ 就労継続支援B型							
⑩ 就労定着支援							
⑪ 自立訓練 (機能訓練)							
⑫ 自立訓練 (生活訓練)							
⑬ 宿泊型自立訓練							
⑭ 児童発達支援							
⑮ 医療型児童発達支援							
⑯ 居宅訪問型児童発達支援							
⑰ 放課後等デイサービス							
⑱ 保育所等訪問支援							
⑲ 短期入所 (ショートステイ)							
⑳ 共同生活援助 (グループホーム)							



## 8. 福祉や生活に関する相談について

問29. あなたは、現在の生活で困ったり、不安に思っていることがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事のこと	2. 経済的なこと	3. 健康や医療のこと
4. 住まいのこと	5. 外出のこと	6. 家族のこと
7. 余暇活動のこと	8. 介助者・支援者のこと	9. 福祉サービスのこと
10. 情報入手や相談先のこと	11. 進学や学校のこと	12. 結婚のこと
13. 老後のこと	14. 友人や近所付き合いのこと	
15. 日常の会話等の意思疎通が思うようにできないこと		
16. その他 ( )		
17. 特にない		

問30. あなたが困ったり不安を感じた時に、誰(どこ)に相談していますか。

(よく相談している人や場所3つに○)

1. 家族や親族	2. 友人・知人	3. 近所の人
4. 職場の人	5. 同じ障害の人	6. 障害のある人の会・家族会
7. ホームヘルパー・世話人	8. 入所・通所施設の職員	9. 学校の先生
10. 医師・看護師	11. 民生・児童委員	12. 障害者相談員
13. 市の障害福祉課	14. 障害福祉課以外の市の職員	
15. 相談支援事業所	16. 地域活動支援センター	
17. 社会福祉協議会	18. その他 ( )	
19. 相談する人がいない		

問31. あなたは、「地域生活支援拠点 ういずねっとi(アイ)」を知っていますか。

(1つだけに○)

1. 内容を知っている	2. 聞いたことがある	3. 知らない
-------------	-------------	---------

※「地域生活支援拠点」とは、障害のある人の高齢化・重度化や「親亡き後」を見据えて、地域で安心して暮らし続けられるしくみを整備するものです。東大和市では令和2年度から整備し、順次拡充をしています。

問32. 「地域生活支援拠点 ういずねっとi(アイ)」を今後利用したいと思いませんか。

(1つだけに○)

1. 思う	2. 思わない	3. わからない
-------	---------	----------

## 9. 災害時の避難・対策等について

問33. あなたは、火事や地震、風水害等の災害時にひとりで避難できますか。(1つだけに○)

1. できる                      2. できない                      3. わからない

問34. 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

(1つだけに○)

1. いる                      2. いない                      3. わからない

問35. 火事や地震、風水害等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常的に必要な投薬や治療が受けられない
2. 迅速に移動(避難や広域避難場所への移動等)ができない
3. 周囲の人に必要な支援内容を伝えられない
4. 避難所の設備や生活環境に不安がある
5. 避難所で、必要な相談、介護、看護等を受けられない
6. 慣れない環境でのパニックやコミュニケーション障害が不安
7. その他( )
8. 特に不安はない

問36. あなたは、災害に対してどのような備えをしておくことが最も必要だと思いますか。

(1つだけに○)

1. 災害時に助けてくれる人を確保しておく
2. 避難をした場合等に必要となるもの(薬、非常用電源等)を確保しておく
3. 避難行動要支援者登録制度※に登録しておく
4. 自分に合った災害時の支援計画を立てておく
5. 避難しなくてもよいような備え(非常食の用意等)をしておく
6. その他( )

※「避難行動要支援者登録制度」とは、災害時に、家族等の支援が受けられず、自力での避難が困難な方が、あらかじめ登録しておき、災害時に支援を受けられるような体制を整えるための制度です。

問37. あなたは、「避難行動要支援者登録制度」に登録していますか。(1つだけに○)

1. 登録している
2. 知っているが、登録していない
3. 知らなかったが、登録したい
4. 知らない、登録の必要を感じない

問38. あなたは、「ヘルプカード※」を利用していますか。(1つだけに○)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 利用している          | 2. 知っているが、利用していない |
| 3. 知らなかったが、利用してみたい | 4. 知らない、必要としていない  |

※「ヘルプカード」とは、障害のある人等で手助けを必要とする人が普段から身につけておき、緊急時や災害時等に周囲の人の配慮や手助けをお願いしやすくするためのカードで、市が作成・配布しています。

## 10. 新型コロナウイルス感染症の生活への影響について

問39. あなたが、コロナ禍で困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 感染予防・対策が健常者に比べて困難であること
2. 医療機関を受診できない
3. マスクや消毒液・ガーゼ等の医療品不足
4. 外出を自粛していること
5. 食料も含め生活必需品を買うこと
6. 健康維持・体力の低下、障害の重度化
7. 学校や仕事に行けないこと
8. 障害福祉サービスの利用が減ったこと・利用できなくなったこと
9. 障害のある人本人の収入が減ったこと
10. 家族の収入が減ったこと
11. 困りごとを相談できるところがない
12. 精神的に不安定になってしまうこと
13. 家族などの介護者の負担が増した
14. ワクチン接種が思うように受けられない
15. コロナウイルスに感染した時に必要な支援が受けられない
16. その他 ( )

◆ 障害福祉サービスを利用している方にうかがいます。

問40. 障害福祉サービス利用で困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 事業所の休業・規模縮小    | 2. サービス利用の制限         |
| 3. 代替えサービスが見つからない | 4. サービス利用減で生活ができない   |
| 5. 職員の不足          | 6. 困りごとや生活などの相談ができない |
| 7. 家族との面会や帰省ができない | 8. その他 ( )           |
- (施設入所・グループホーム利用者)

## 11. 障害のある人の権利擁護・理解促進について

問41. あなたは日常生活で、障害のある人への差別・偏見や疎外感を感じることはありませんか。(1つだけに○)

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

【問41で「1. ある」と答えた方へ】

問42. 次のどのようなところに、差別・偏見や疎外感を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

- |               |                  |              |
|---------------|------------------|--------------|
| 1. 教育の機会      | 2. 仕事や収入         | 3. サークル等への参加 |
| 4. 地域行事・地域活動  | 5. 近所付き合い        | 6. お店での対応    |
| 7. 道路や建物の整備   | 8. 交通機関の利用       |              |
| 9. 福祉関係従事者の対応 | 10. 災害時・緊急時の情報提供 |              |
| 11. 政治への参加    | 12. 公共施設の利用      |              |
| 13. その他 ( )   |                  |              |

問43. あなたは平成28年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」を知っていますか。(1つだけに○)

- |             |             |         |
|-------------|-------------|---------|
| 1. 内容を知っている | 2. 聞いたことがある | 3. 知らない |
|-------------|-------------|---------|

※「障害者差別解消法」では、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることを目指し、国・都道府県・市町村等の役所や、会社やお店等の事業者が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。

問44. あなたは、「成年後見制度」を使うことについて、どう思いますか。(1つだけに○)

- |             |                 |             |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1. すでに使っている | 2. 今後使うことも考えている | 3. 一部なら使いたい |
| 4. 使いたくない   | 5. わからない        |             |

※「成年後見制度」とは、判断能力が不十分な成年者(知的障害者、精神障害者、認知症の高齢者等)が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その方を援助してくれる人(後見人)を付け、財産管理やサービスの利用等を手伝ってもらう制度です。

## 12. 今後の障害のある人への施策について

問45. 東大和市の障害のある人への福祉施策についてどうお考えですか。(1つだけに○)

- |               |             |              |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. 満足している     | 2. 少し満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり満足していない | 5. 満足していない  |              |

問46. 障害のある人が地域で自立して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思えますか。(重要だと思ふこと5つに○)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 障害への理解促進          | 2. 保健・医療の充実         |
| 3. 保育・療育・教育の充実       | 4. 雇用・就労支援の充実       |
| 5. ホームヘルプサービス等の充実    | 6. 短期入所の充実          |
| 7. 日中の通所施設の整備        | 8. グループホームの整備       |
| 9. 入所施設の整備           | 10. 相談支援体制の充実       |
| 11. コミュニケーション支援の充実   | 12. 福祉用具・補装具等の充実    |
| 13. 居住支援(住まいの確保等)の充実 | 14. 医療費助成制度の充実      |
| 15. 権利擁護・成年後見制度の充実   | 16. 移動手段確保のための施策の充実 |
| 17. 施設通所者の工賃向上の取組み   | 18. 障害特性に応じた情報保障    |
| 19. 経済的支援の充実         | 20. 福祉人材の育成         |
| 21. 生涯学習・余暇活動支援の充実   | 22. 建物・道路等のバリアフリー化  |
| 23. 交通機関や交通施設の改善・整備  | 24. 防犯・防災対策の充実      |
| 25. 災害時要配慮者対策事業      | 26. 障害者等の虐待防止対策事業   |
| 27. 地域生活支援拠点の整備・充実   | 28. その他( )          |

問47. 障害福祉サービスや制度、東大和市の取組みについて、ご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

- ※ご意見・ご要望のカテゴリー(あてはまるものに○)
- |             |           |          |              |            |
|-------------|-----------|----------|--------------|------------|
| 1. 介護       | 2. 住まい・生活 | 3. 健康・医療 | 4. 就学・就業     | 5. 外出・社会参加 |
| 6. 障害福祉サービス | 7. 相談     | 8. 災害    | 9. 権利擁護・理解促進 | 10. 障害施策   |

ご協力ありがとうございました。この調査票のみを返信用封筒に入れ、  
12月26日(月)までに郵便ポストに投函してください。

(切手を貼る必要はありません)

## 2 障害福祉サービス等事業者向け調査票

### 第3次東大和市障害者総合プラン策定のための 障害福祉サービス等事業所調査

～ご協力のお願い～

日頃より東大和市の福祉行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、市では、令和6年度から始まる「第3次東大和市障害者総合プラン（第6次障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画）」の策定に向けた取組を進めております。

計画策定にあたり、障害福祉サービス等事業所の皆様からのご意見をお聞かせいただき、基礎資料にしたいと考えています。ご多忙のことと存じますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、お答えいただきました内容は、調査の目的以外に使用することは決してございません。またご記入いただく事業所名を公開することもございませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、重ねてお願いいたします。

令和4年12月

東大和市

#### 【ご記入にあたってのお願い】

1. このアンケートは、事業所の運営や利用者の生活状況をよくご存知の方に回答をお願いいたします。
2. 回答は、質問毎にあてはまる選択肢の番号に「○」を付けてください。「その他」に該当する場合は、（ ）の中に具体的な内容をご記入ください。
3. 調査票記入後は、返信用封筒にて、**12月26日(月)までに**ご返送ください。
4. このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。

東大和市 地域福祉部 障害福祉課 障害福祉係  
電話 042-563-2111（内線1123、1129）  
FAX 042-563-5928  
E-mail shogaifukushi@city.higashiyamato.lg.jp



同一法人で複数の事業所を有する場合は、以下の分類により事業所ごとに回答ください。

- 1 訪問系サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援）  
⇒ 1事業所として
- 2 日中活動系サービス（生活介護、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練、療養介護、短期入所、日中一時支援）⇒ それぞれの事業所ごとに
- 3 共同生活援助
- 4 相談支援（特定相談支援、一般相談支援）⇒ 1事業所として
- 5 障害児通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）⇒ それぞれの事業所ごとに

**最初に貴事業所の基本的なことについておたずねします。**

問1 事業所名称			
(提供サービス)			
問2 法人種別 あてはまる番号に○を付けてください。	1 社会福祉法人	2 NPO法人	
	3 会社法人	4 その他	{ }
問3 事業所開設時期	昭和・平成・令和 _____ 年 _____ 月		
問4 職員		常勤	非常勤
	人数	_____人	_____人
	(うち、他事業との兼務者)	_____人	_____人
	性別	男性 _____人	男性 _____人
		女性 _____人	女性 _____人
	平均年齢	_____歳	_____歳
平均勤続年数	_____年	_____年	
問5 同一法人で実施している他の事業 (障害福祉サービス等以外)			

## 貴事業所のサービス提供状況についておたずねします。

問6 令和4年12月現在、貴事業所が提供しているサービスについて、①定員、②サービス提供者数、③今後の受入可能人数、④サービス提供者の障害種別、⑤サービス提供者の市内人数、市外人数、⑥利用者の増減（1年前と比較して）をご記入ください。

※訪問系サービスは、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援に分けて、相談支援は特定相談支援（計画相談）、一般相談に分けて、その他は、本調査で回答しているサービスについて記載してください。

障害福祉サービス等	①定員 ②提供者数 ③受入可能人数		④障害種別		⑤市内／市外		⑥利用者の増減
	①	人		人		人	
	①	人	身体	人	市内	人	ア 増えている
	②	人	知的	人			
	③	人	精神	人	市外	人	イ 減っている
	③	人	その他	人			
	①	人	身体	人	市内	人	ア 増えている
	②	人	知的	人			
	③	人	精神	人	市外	人	イ 減っている
	③	人	その他	人			
	①	人	身体	人	市内	人	ア 増えている
	②	人	知的	人			
	③	人	精神	人	市外	人	イ 減っている
	③	人	その他	人			
	①	人	身体	人	市内	人	ア 増えている
	②	人	知的	人			
	③	人	精神	人	市外	人	イ 減っている
	③	人	その他	人			
	①	人	身体	人	市内	人	ア 増えている
	②	人	知的	人			
	③	人	精神	人	市外	人	イ 減っている
	③	人	その他	人			

問7 貴事業所が提供しているサービスにおける①事業実施上の課題、②利用者支援での課題、③利用者からの苦情や相談について、ご記入ください。(あてはまるものすべてに○)

①事業実施上の課題

1	利用者のプライバシー保護・個人情報管理の徹底	
2	利用者への説明と意思の尊重	
3	利用者にとっての有益な情報開示の推進	
4	苦情処理対応	
5	危機管理体制の構築（事故防止やヒヤリハットの対応）	
6	虐待防止対策の実施	
7	他の事業所や関係機関との連携	
8	その他	
	{	}
9	特にない	

②利用者支援での課題

1	量的に、利用者の希望どおりサービスが提供できていない	
2	質的に、利用者の希望どおりサービスが提供できていない	
3	利用者や家族とのコミュニケーションが難しい	
4	利用者に対する意思決定支援が十分でない	
5	困難事例への対処が難しい	
6	休日や夜間の対応が難しい	
7	支援者のスキルが不足している	
8	医療的ケアや強度行動障害等の専門的支援体制の不足	
9	全体的な人員不足	
10	その他	
	{	}
11	特にない	

③サービス利用者からの苦情や相談

1	利用日、利用時間などが希望どおりにならない	
2	サービスの質がよくない	
3	支援員の対応がよくない	
4	支援員の人数が少ない	
5	利用者負担が大きい	
6	施設や設備が十分でない	
7	サービスについての説明が不十分である	
8	その他	
	{	}
9	特にない	

問8 貴事業所ではどのような虐待防止対策に取り組んでいますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 1  | 事業所内に虐待防止委員会を設置している                 |
| 2  | 事業所独自の虐待防止マニュアル等を作成している             |
| 3  | 職員一人ひとりが、虐待行為について定期的にチェックする体制をとっている |
| 4  | 職員の悩みを相談できる体制を整えている                 |
| 5  | 職員会議を定期的に行い、職員間の情報共有・意思疎通を図っている     |
| 6  | 職場内での虐待防止研修を定期的実施している               |
| 7  | 東京都や市が行う虐待防止研修に職員が参加する              |
| 8  | 福祉サービス第三者評価、オンブズマン等の外部評価を行っている      |
| 9  | その他<br>( )                          |
| 10 | 特になし                                |

問9 貴事業所では利用者の意思決定支援のために、どのような取組を行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | 意思決定支援責任者(またはそれに準ずる者)を置いている          |
| 2  | 意思決定支援会議(またはそれに準ずる会議)を開催している         |
| 3  | 利用者に渡す書類等は、わかりやすい表現にしている             |
| 4  | 意思決定のために写真や絵カードの利用、具体的な選択肢の提示等を行っている |
| 5  | 利用者同士で話し合い決定する機会を設けている               |
| 6  | 利用者固有の意思表示方法や表情、行動等を記録し職員で共有している     |
| 7  | 面接、面談において利用者が意思表出しやすい環境づくりをしている      |
| 8  | 職員のスキルアップのための研修・OJT等を実施している          |
| 9  | その他<br>( )                           |
| 10 | 特になし                                 |

問10 令和4年度現在、新型コロナウイルス感染症による事業運営への影響や課題は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |    |                                  |    |                        |
|----|----------------------------------|----|------------------------|
| 1  | 衛生資材の不足                          | 2  | 利用者の心身の不調への対応による職員の負担増 |
| 3  | 職員が感染対策等に手を取られることによる利用者サービスの質の低下 | 4  | 利用者に面会できない家族の不満等への対応   |
| 5  | 職員のメンタルヘルスの不調                    | 6  | 福祉の仕事における感染懸念から求職者の減少  |
| 7  | 利用者の減少や感染対策に係る経費の増加による収益の低下      | 8  | 職員採用計画の遅れ              |
| 9  | 研修に参加できないことによる人材育成計画の遅れ          | 10 | その他<br>( )             |
| 11 | 特になし                             |    |                        |

## 貴事業所の事業運営及び経営状況についておたずねします。

問11 貴事業所の運営及び経営上の課題はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 中長期にわたる経営の安定性を確保すること
2 報酬単価が実態にそぐわずに低い
3 支援員や事務職員などの人材確保
4 代替職員の確保（育休・病休職員対応など）
5 職員の資質の向上を図ること（研修機会の確保、OJT等）
6 支援員の定着化（長期雇用の確保）
7 支援員間の意思疎通、会議の時間の確保
8 職員の福利厚生（休暇、手当等）
9 利用者を確保すること
10 利用者や家族等の問い合わせやクレームに対応する相談体制
11 市等関係機関との連携、協力体制
12 地域や自治会組織、関係団体との必要な連携
13 その他（具体的に _____ )
14 特に課題はない

問12 人材の募集はどのような方法で実施していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 ハローワーク	2 新聞広告	3 インターネット	4 口コミ
5 その他（具体的に _____ )			
※上記のうち、最も効果のある募集方法は？			
[ _____ ]			

問13 人材育成や人材定着のための取組について、どの程度取組めていますか。

(すべての項目について、項目ごとにア～エを選択して記載)

項目	取組状況 (ア～エから1つ選択)
①職場内での研修	
②外部研修への派遣	
③専門的資格の取得促進	
④同業の他事業所との交流等	
⑤資格や経験に応じた処遇改善	
⑥職場環境の改善	
⑦ケース会議等でのスキルアップ	

選択

- ア 十分できている  
イ まあまあできている  
ウ あまりできていない  
エ 不十分

問14 令和3年度からの障害福祉サービス等報酬改定の影響はありますか。  
(あてはまるもの1つに○) ※移動支援、日中一時支援は回答不要

- 1 収益が上がった    2 収益が下がった    3 特に影響はない    4 わからない

問15 令和3年度の貴事業所の経営状態は以下のうちどちらですか。  
(あてはまるもの1つに○)

同一法人で複数の事業を実施している場合は、本調査票で回答している事業所についてお書きください。また、赤字である場合は、その理由もお書きください。

- 1 黒字    2 おおむね均衡    3 赤字

赤字の理由

(

)

## 今後の意向についておたずねします。

問16 サービスの質の向上のため、現在重点的に取組まれていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 相談窓口の設置や職員の配置     | 2 定期的なケアカンファレンスの開催 |
| 3 サービス利用者の満足度調査の実施  | 4 自己評価の積極的な開示      |
| 5 外部評価の導入・開示        | 6 サービス提供マニュアルの作成   |
| 7 サービス担当者会議への参加     | 8 同事業者との交流機会への参加   |
| 9 他業種事業者等との交流機会への参加 | 10 応対・接遇研修の実施      |
| 11 苦情に対する組織的な対応策    | 12 その他             |

(

)

- 13 特に取組んでいない

問17 今後の事業運営にあたり、連携が必要な関係機関はどのようなところですか。

- |                  |   |
|------------------|---|
| 1 障害福祉サービス等事業所 ( | ) |
| 2 その他の事業所・関係機関 ( | ) |
| 3 特にない           |   |

問18 今後の事業運営にあたり、行政等の関係機関のどのような支援が必要ですか。  
(必要と思うもの3つに○)

- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 人材確保、職員の研修、職業訓練への支援 | 2 財政的な支援                 |
| 3 同事業者との情報交換や連携の場づくり  | 4 支援が困難な利用者・家族への対応       |
| 5 国や東京都の制度改正等に関する情報提供 | 6 障害者福祉に対する市民の理解を得るための啓発 |
| 7 その他                 | 8 特に支援を必要としていない          |

(

)

問19 貴法人では、東大和市内で今後共生型サービスの指定を受ける意向はありますか。指定を受ける予定もしくは検討中の方は、事業種に○を付けてください。

(あてはまるものすべてに○)

- |   |              |   |      |        |            |   |
|---|--------------|---|------|--------|------------|---|
| 1 | すでに指定を受けている  |   |      |        |            |   |
| 2 | 指定を受ける予定     | ( | 訪問介護 | ・ 通所介護 | ・ 短期入所生活介護 | ) |
| 3 | 指定を受けるか検討中   | ( | 訪問介護 | ・ 通所介護 | ・ 短期入所生活介護 | ) |
| 4 | その他          | ( |      |        |            | ) |
| 5 | 指定を受けるつもりはない |   |      |        |            |   |

問20 共生型サービスを推進するにあたってどのような課題を感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 障害福祉サービス事業者としては、共生型サービスの必要性やメリットが感じられないこと |   |
| 2 | 共生型サービスについて利用者や家族の理解を得ること                 |   |
| 3 | 職員が共生型サービスの理念、考え方の理解を深めること                |   |
| 4 | 職員が新たなケアの技術を習得したり、向上を図ること                 |   |
| 5 | 事業に必要な職員体制を整備すること                         |   |
| 6 | 通常の指定を受けるよりも介護報酬が下がること                    |   |
| 7 | その他                                       | ( |
| 8 | 特になし                                      | ) |

問21 現在、貴事業所が行っている事業以外で、今後新たに実施予定、実施してみたいサービスはありますか(障害福祉サービス等以外も含む)。

--

問22 東大和市に不足していると思う障害福祉サービス、市として力を入れて取り組むべきと思う障害者施策について、ご意見をお聞かせください。

(不足している障害福祉サービス)

(市として取り組むべき障害者施策)

**ご協力ありがとうございました。**





第3次東大和市  
障害者総合プラン策定のためのアンケート調査  
報告書

---

令和5年3月

発行 東大和市  
東京都東大和市中心3-930  
編集 東大和市地域福祉部障害福祉課